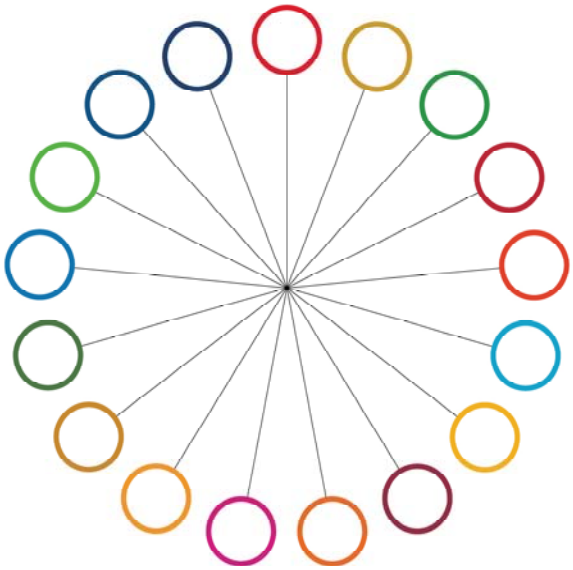
公益財団法人しまね自然と環境財団

―令 和 2 年 度―

# 事 業 報 告 書



島根県立三瓶自然館サヒメル
三 瓶 小 豆 原 埋 没 林 公 園
北 の 原 キ ャ ン プ 場
しまねエコライフサポートセンター

# はじめに

国内の新型コロナウイルス感染症の累計感染者数は4月9日現在50万人を突破し、変異株の流行も始まっています。財団にとって令和2年度はまさに新型コロナウイルスの対応に追われた年でした。

本来ですと、令和2年4月16日三瓶自然館サヒメルは半年以上にわたる改装工事を経てリニューアルオープンの予定でしたが、県･市からの指示により感染拡大防止のため、埋没林公園、北の原キャンプ場(4月18日から閉鎖)を含めて5月31日まで休館となりました。やむを得ない閉館とはいえたいへん残念でありました。6月からの再開後も感染防止のため、毎日の館内消毒の実施やビジュアルドームの入場制限などの様々な対応を強いられるとともに、緊急事態宣言により利用者が極端に変動する一方で、秋には県内小中学校の修学旅行の県内実施により利用の増加など何もかもが想定外の1年となりました。このため、自然館の入館者数は81千人余（目標対比64%)、埋没林公園は目標対比70%、近年人気の高かったキャンプ場も目標対比90%に止まりました。なお、県及び市からは約2ヶ月にわたる閉鎖期間中の収入補填にご配意頂きましたこと、お礼申し上げます。

このような1年ではありましたが、しまね自然と環境財団が管理運営している三瓶自然館を中心とする施設はコロナ禍の中でも、国立公園三瓶山をフィールドに自然に親しむ場の提供とともに展示や普及啓発、資料収集、調査研究などを進め、引き続き多くの方にご利用いただくことができました。

春の企画展は、開催予定であった全国植樹祭にタイアップした「絵巻物とみる三瓶山今昔」を、江戸時代に描かれた「三瓶山十二勝絵巻物」中心に展示しました。また、夏には「島根にもいた！失われたゾウの世界」を開催しました。これは島根県産化石を中心に、かつて日本に生息していた象やその仲間である世界にいた象の歴史を化石によってふり返り、その進化と絶滅の謎を考える企画でした。

このような企画展や野外観察、ドーム映像、天体観察会などを通じて当館に足を運んでいただいた県内外の小中学生を中心とする皆さんには、博物館を楽しみながら自然科学に親しんでいただけたものと思っています。

三瓶小豆原埋没林公園では、ガイダンス棟の完成により埋没林展示の充実が可能となるとともに、県で募集していた愛称が「さんべ縄文の森ミュージアム」に決定しました。また、埋没林公園は、大田市が申請し認定された「日本遺産」の中心的施設として今後のさらなる活用が期待されております。展示中の杉巨木の安定した保存のための表面処理が県により引き続き行われており、加えて地下水位の安定化に向けた検討や展示等外の埋没木の保存対策についても検討されているところです。

さらに、北の原キャンプ場は、「豊かな自然環境を生かし、自然に親しむ場」となるよう管理運営に心がけ、令和2年度も引き続き多くの利用者に来場いただくことができました。

松江事務所で進めている環境保全活動事業では、引き続き県民一人ひとりに地球温暖化問題やエネルギー問題などの諸課題に対する関心を高めてもらうよう取り組んでいます。また、エコライフの情報の発信や環境保全団体への活動支援を通じて、地域の環境保全活動を担うボランティアが自主的、主体的に活動できるよう引き続き支援を行ってきているところです。

これからも引き続き、創意工夫しながら運営に取り組みスキルアップを図り、皆さんから期待され応援いただける施設･団体となるよう職員一同努めて参ります。

そして新型コロナウイルス感染症の蔓延が終息し、ここ三瓶に再びたくさんの皆さんに足を運んでいただける日が一日でも早く訪れることを心から祈念するばかりです。

令和3年4月

公益財団法人しまね自然と環境財団

理事長　**廣澤卓嗣**

# 目　　次

**Ⅰ．運営方針、管理運営の体制**

1　財団の目的 …… 1
2　財団の事業 …… 1
3　運営方針 …… 1
4　財団の管理する施設の概要 …… 2
5　組織 …… 4

**Ⅱ．三瓶自然館及び附属施設の運営事業（三瓶自然館等運営事業）**

1　三瓶自然館 …… 6
2　三瓶小豆原埋没林公園 …… 26
3　施設利用許可業務 …… 28
4　施設の維持管理に関する業務 …… 35
5　物品の管理等 …… 40

**Ⅲ．地球環境の保全に関する活動支援事業（環境保全活動事業）** …… 42

**Ⅳ．北の原キャンプ場管理運営事業** …… 54

**Ⅴ．利便提供事業** …… 56

**Ⅵ．各種資料**

1　数値目標を掲げた運営 …… 57
2　利用者の推移 …… 61
3　沿革 …… 62
4　資料 …… 64
5　評議員会・理事会等 …… 69
6　新型コロナウイルス感染症への対応等 …… 70

# Ⅰ.運営方針、管理運営の体制

## １．財団の目的

公益財団法人しまね自然と環境財団は、島根県内の自然系博物館施設及び自然公園施設等の管理運営を通じ、自然公園の保護と利用の増進に資するとともに、地球環境保全、自然環境の保護及びその他の環境の保全に関する普及啓発事業等を行い、広く県民に対して環境保全の重要性を訴え、もって島根県の環境の保全及び地域の振興に寄与することを目的とする。

## ２．財団の事業

(1)自然系博物館施設及び展示施設の管理運営事業
(2)自然保護及び自然環境に関する調査研究、並びに普及啓発事業
(3)環境教育及び環境学習に関する事業
(4)地球環境の保全に関する活動支援事業
(5)自然資源の利用促進等を通した地域振興事業
(6)その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業

## ３．運営方針

当財団は、島根県立三瓶自然館及びその附属施設(三瓶小豆原埋没林公園)、大田市の施設である北の原キャンプ場の指定管理者として、それぞれ島根県並びに大田市から指定されている。

これらの施設の運営にあたっては、次の6つの基本方針を共有しながら、各施設の特色を発揮させるとともに、法人として「自然に関するシンクタンク」的役割を担い、もって社会に貢献していくことを目指している。

・企画展、観察会や各種イベントを充実し、自然に親しむ場、自然を学ぶ場を提供する。
・学校、大学や研究機関、地域とのつながりを大切にした運営をする。
・調査研究、博物館資料の収集保管に力を入れ、バックボーンがしっかりした博物館を目指す。
・SNSやマスメディアを利用した情報発信、PRを行い、もっと身近な三瓶自然館を目指す。
・心のこもったおもてなしと、不測の事態に備えた点検、訓練を実施し、安心して何度でも利用したくなる施設を目指す。
・入館者及び入館料収入の確保を目指すとともに、経費の節減に努め、安定した経営を目指す。

また、松江事務所(しまねエコライフサポートセンター)を中心に展開する環境保全活動では、県民一人ひとりの自発的な環境配慮行動を促すため、行政機関や地域で活動する様々な主体との協働・連携により、地球環境問題に関する普及啓発を行っており、事業実施に当たっては効率的で効果的な事業展開に努めている。

## ４．財団の管理する施設の概要

### (1)島根県立三瓶自然館サヒメル

島根や三瓶の自然、三瓶小豆原埋没林、環日本海地域の自然に関する展示、プラネタリウムや大型ドーム映像を映し出すビジュアルドーム、天体観察施設、博物館資料の収蔵庫、研究室などを備えた自然系博物館であり、三瓶山全体をひとつの野外博物館と考える三瓶フィールドミュージアムの中核としてビジターセンター機能も兼ね備えた施設である。

| | |
|---|---|
| 所　在　地 | 島根県大田市三瓶町多根1121番8 |
| 開設年月日 | 平成3年10月19日(平成14年4月18日拡充開館) |
| 面　　積 | 敷地面積　14,822㎡ |
| | 建築面積総計　4,574㎡(令和元年度整備後) |
| | 建物延べ床面積総計　8,678㎡(　〃　) |
| 施設内容 | 本館　常設展示(ふしぎの森であそぼう、三瓶山と大地ほか)、ビジュアルドーム、受付、売店など |
| | 別館　レクチャールーム、企画展示室 |
| | 新館　常設展示(三瓶埋没林、環日本海の自然、島根の自然と三瓶の自然、フィールド情報コーナー)、 天体観察施設、収蔵庫、研究室、文献図書館など |
| 附属施設 | 三瓶山ヘルシートレイリングコース(北の原～東の原　片道4.5km) |
| | 北の原芝生多目的広場 |

### (2)三瓶小豆原埋没林公園

三瓶小豆原埋没林公園は、約4千年前の三瓶山の噴火で埋もれた埋没林を現地で展示、公開する施設である。

施設は、大小二つの地下展示棟と芝生園地からなる。展示棟では、原位置のままで立ち並ぶ埋没樹を展示している。芝生園地は、発掘調査で確認された埋没林を埋め戻し保存している範囲である。当施設の敷地範囲が天然記念物(国)に指定されており、埋没林の保存管理も施設の役割である。

| | | |
|---|---|---|
| 所　在　地 | 島根県大田市三瓶町多根ロ58番2 | |
| 開設年月日 | 平成15年5月2日 | |
| 面　　積 | 敷地面積 | 約10,000㎡ |
| | 延面積 | |
| | ・管理棟 | 142.56㎡ |
| | ・ガイダンス棟 | 120.00㎡ |
| | ・大展示棟 | 1,142.59㎡ |
| | ・小展示棟 | 97.09㎡ |
| | (延面積合計) | 1,382.24㎡ |
| 施設内容 | 管理棟 | 事務室、売店、機械室 |
| | ガイダンス棟 | ガイダンス室、受付 |
| | 大展示棟 | 展示室、機械室 |
| | 小展示棟 | 展示室 |

### (3) 北の原キャンプ場

北の原キャンプ場は、国立公園三瓶山の自然の中にある県立キャンプ場として、昭和44年に開場した(平成22年に大田市に移管)。本年度までの利用者は110万人を超え、県民及び県外からの来訪者の憩いの場としての役割を果たしている。

広い敷地内に一般サイト、オートサイト、ケビン、団体向けの集団サイト、キャンプファイヤー場があり、個人客のほか学校団体や企業の職員研修等に利用されている。

また、平成24年度に大田市により、犬と泊まれるバンガローとドッグランが設置されており、愛犬と利用できる環境も整備されている。

| | | |
|---|---|---|
| 所　在　地 | 島根県大田市三瓶町多根1121番1 | |
| 開　設　年 | 昭和44年 | |
| 面　　積 | 敷地面積 | 180,891㎡ |
| 施設内容 | セントラルロッジ | 受付、事務室、多目的ホール、売店など |
| | オートキャンプサイト | 73区画 |
| | 一般キャンプサイト | フリーサイト(テント200張可) |
| | ケビン | 大型ケビン3棟　小型ケビン10棟 |
| | バンガロー | 5棟 |
| | ドッグラン | 2区画、休憩所2棟 |
| | その他(シャワー棟、キャンプファイヤー場、炊事棟、トイレ棟　など) | |

## 5．組　織

□評議員･役員名簿(評議員7名、役員7名、計14名)

＜評 議 員＞

| | |
|---|---|
| 議　　長 | 平 塚 貴 彦 |
| 評 議 員 | 鈴 垣 英 晃 |
| | 高 瀬 寿 子 |
| | 高 橋 泰 子 |
| | 周藤あさ子(R2.6.11～) |
| | 福 間　　直(～R2.6.11) |
| | 宮 永 龍 一 |
| | 蓮 花 正 晴 |

＜役　員＞

| | |
|---|---|
| 理 事 長 | 廣 澤 卓 嗣 |
| 常務理事 | 酒 井 浩 純 |
| 理　　事 | 石 田 弘 行 |
| | 末 成 弘 明 |
| | 栂　　恒 雄 |
| 監　　事 | 松 村　　浩 |
| | 安 井 尚 之 |

□三瓶自然館運営委員名簿(13名。理事会が事業推進のために設置する委員会)

| | |
|---|---|
| 委 員 長 | 島 田 一 嗣 |
| 委　　員 | 秋 吉 英 雄 |
| | 塩野目　望 |
| | 野 津 孝 明(R2.7.1～) |
| | 高 橋 尚 彦 |
| | 錦 織 拓 郎 |
| | 藤 井 伸 治 |
| 委　　員 | 藤 井 好 文 |
| | 船木三紀夫 |
| | 掘江真佐邦 |
| | 松 井 律 子 |
| | 松 本 一 郎 |
| | 宮 本 隆 正(～R2.6.30) |
| | 山 口 啓 子 |

□事務局

常務理事(事務局長・館長) ― 事務局次長・所長

- 総　務　課 → 法人事務及び施設･設備管理に係る業務を所掌
  - ･フィールド管理
- 企画情報課 → 施設運営及び広報、情報発信に係る業務を所掌
  - ･ミュージアムショップ
  - ･三瓶小豆原埋没林公園
  - ･三瓶山北の原キャンプ場
- 学　芸　課 → 自然環境(生物、天文、地質等)に係る博物館業務を所掌
  - ･天文事業室
  - ･おもてなし推進室(アテンダントグループ)
- 環境事業課(松江事務所) → 環境保全活動支援及び地球環境問題に係る業務を所掌
  - ･地球温暖化防止活動推進センター
  - ･しまねエコライフサポートセンター

## □プロジェクトチーム（令和2年7月1日現在）

重点課題や特定の業務を処理するため、課の枠を超えた職員構成によるプロジェクトチームを設置し対応にあたった。

事務局長・館長
- R2夏期企画展チーム（4名）
- 地域連携推進チーム（4名）
- 繁忙期サービスチーム（4名）
- R3夏期特別企画展プロジェクトチーム（4名）
- 開館30周年記念事業プロジェクトチーム（4名）

## □職員名簿（令和2年7月1日現在）　58名（兼務除く。役員1名、職員42名、臨時職員15名）

**【財団本部】53名**　（うち兼務2）

| | |
|---|---|
| 事務局長・館長 | 酒井浩純 |
| 事務局次長 | 石田浩二 |

**＜総務課＞**11名　（うち兼務1）

| | |
|---|---|
| 課長（事務取扱） | 石田浩二 |
| 課長代理 | 米浦道子 |
| 主事 | 田原いづみ |
| 〃 | 山本健太郎 |
| 〃 | 槇原　舞 |

（フィールド管理）

| | |
|---|---|
| チーフ | 高木　保 |
| スタッフ | 三輪洋二 |
| 〃 | 大上雅史 |
| 〃 | 小丸政美 |
| 〃 | 古谷利雄 |
| 〃 | 財間昭典 |

**＜企画情報課＞**18名

| | |
|---|---|
| 課長 | 熊谷正浩 |
| 調整幹 | 中村唯史 |
| 企画員 | 田中宏明 |
| 〃 | 竹下瑠美 |
| 〃 | 石橋良美 |
| スタッフ | 安原豊子 |

（小豆原埋没林公園）

| | |
|---|---|
| チーフ | 大野志津香 |
| スタッフ | 石田弓子 |
| 〃 | 中山侑也 |
| 〃 | 福田哲夫 |
| 〃 | 三富　洋 |

（北の原キャンプ場）

| | |
|---|---|
| チーフ | 藤原昌己 |
| サブチーフ | 岡田　桂 |
| スタッフ | 西本真理子 |
| 〃 | 三瓶　彬 |
| 〃 | 桐原信夫 |
| 〃 | 岩倉敏範 |
| 〃 | 松浦恒夫 |

**＜学芸課＞**23名　（うち兼務1）

| | |
|---|---|
| 課長（植物） | 井上雅仁 |
| 企画幹（鳥類） | 星野由美子 |
| 企画幹（昆虫） | 皆木宏明 |
| 主任研究員（哺乳類） | 安藤誠也 |
| 研究員（地学） | 遠藤大介 |
| 研究員（植物） | 松村美雪 |
| 新館展示（兼務） | 中村唯史 |
| スタッフ（昆虫） | 三島秀夫 |
| スタッフ（植物等） | 松原勝志 |

（天文事業室）

| | |
|---|---|
| 室長（天文） | 竹内幹藏 |
| 主任研究員（天文） | 太田哲朗 |
| 主任研究員（天文） | 矢田猛士 |
| スタッフ（天文等） | 龍　善暢 |

（おもてなし推進室）

| | |
|---|---|
| 室長 | 大草秀美 |
| ﾁｰﾌ・ｱﾃﾝﾀﾞﾝﾄ | 山本めぐ美 |
| ｻﾌﾞﾁｰﾌ・ｱﾃﾝﾀﾞﾝﾄ | 小田佐由香 |
| アテンダント | 大谷朗子 |
| 〃 | 宮脇成美 |
| 〃 | 和田ひみこ |
| 〃 | 藤原奈央 |
| アテンダント | 西本晶子 |
| 〃 | 妹尾萌加 |
| スタッフ | 細田須美子 |

**【松江事務所】**6名

| | |
|---|---|
| 所長・センター長 | 荒木正秀 |

**＜環境事業課＞5名**

| | |
|---|---|
| 課長・副センター長 | 葭矢崇司 |
| 企画幹 | 野崎　研 |
| 企画員 | 伊藤玲子 |
| 〃 | 門脇恵美 |
| 〃 | 川本愛祈 |

※「センター」とは、「島根県地球温暖化防止活動推進センター」をいう。

※網掛けは臨時職員として雇用する者。

# Ⅱ.三瓶自然館及び附属施設の運営事業

## 1．三瓶自然館

島根県によるビジターセンター機能強化と展示更新にかかる改修工事が終了し、4月上旬にリニューアルオープンの予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大による休館により6月からの再開館となった。企画展は一部会期を短縮したものの年3回開催し、春期は江戸時代の絵巻物、夏期は化石ゾウ、冬期は自然写真をテーマとし、多数の資料類の展示や講座等を通じて広く県民に向けて自然情報を発信した。企画展以外にも、感染拡大に留意しながらイベントを開催するとともに、調査研究や資料収集の継続、講師派遣などによる学校学習や生涯学習に貢献した。

### (1)常設展示

県立の自然系博物館であること、三瓶山地区のビジターセンターであることをふまえ、島根県及び三瓶山の自然、三瓶小豆原埋没林、島根県を中心とした環日本海地域の自然、天文分野の展示パネル、剥製やレプリカ、映像などの展示を行っている。令和2年6月からは、本館及び新館の一部の展示が更新されており、新しい常設展示の運用を行った。

あわせて、回廊などを中心に野外でみられる草花の紹介、来館者からの要望に応じた解説などを行い、展示への興味関心を深めるよう工夫した。

□館内案内･テーマ解説

館内案内はアテンダントにより随時実施しているほか、研究員によるテーマ解説(館内展示や特定分野に関する専門的解説)を、予約を受けて実施した。(実施状況は「Ⅵ.各種資料 4.資料(p.64)」参照)

実施数：15件　334人(テーマ解説)

### (2)企画展

#### ①春期企画展

**「絵巻物とみる三瓶山今昔(いまむかし)」**

大田市、大田市教育委員会、大田市文化協会と共催で、令和2年5月に開催予定であった全国植樹祭にあわせて､江戸時代の三瓶山の風景が描かれた｢三瓶山十二勝巻物｣を展示した。絵巻物に描かれた鳥についてはその剥製を展示するなど、自然科学の側面からみた解説を加えることで、当館らしさを創出した。また、天然記念物など現在の代表的な自然を取り上げ、昔から今への移り変わりを紹介するとともに、植樹祭で植えられる樹木についても紹介した。

期　間：6月1日(月)～6月26日(日)　　開催日数：22日(休館日を除く)

入場者：5,726人(総入館者数)

◆主な展示

□大田市内の小中高校生の作品展示(本館1階ホール)

北三瓶小学校、池田小学校、志学小学校児童のスケッチ、大田市立第二中学校美術部、大田高等学校写真部･美術部、仁摩高等学校写真部の作品、市民募集の俳句、短歌を展示した。

□写真でたどる三瓶山の意外な歴史、前回の植樹祭の様子(本館2階回廊)

三瓶山周辺の古い写真を展示し、三瓶山の歴史、なつかしい風景などを紹介した。また、全国植樹祭の概要を説明するとともに、1971年に三瓶山北の原で開催された「全国植樹祭」の様子についても写真を中心に紹介し、その際に天皇陛下が使用された食器等を展示した。

□「三瓶山十二勝巻物」展示(別館2階企画展示室)

「三瓶山十二勝巻物」の実物の展示とあわせて、描かれた景勝地の解説、地形模型による位置の紹介などを行った。

主な展示：三瓶山十二勝巻物、三瓶山十二勝巻物紹介の映像(大田市文化協会制作)、三瓶山地形模型、各景勝地の解説パネル(大田市文化協会制作)、ヒバリ剥製、ウズラ剥製、日影山溶岩

□三瓶山の自然名勝(別館2階企画展示室)

三瓶山の自然のうち、国天然記念物に指定されている三瓶山自然林を中心に、自然の観点からみて特徴的な景勝地を紹介した。

主な展示：ブナ、ミズナラなど(以上、封入標本)、ツキヨタケ、ナガエノスギタケなど(以上、レプリカ)、アカショウビン、オオルリなど(以上、剥製)

□植樹祭で植えられる樹木(別館2階企画展示室横)

今回の植樹祭で植えられる木の特徴について紹介した。

主な展示：スギ、コウヤマキ、ヤマザクラ、シャクナゲ(お手植え樹種)の幹標本など、クロマツ、エノキ、アカマツ、クルミ(お手播き樹種)の種子標本。

**②夏期企画展**

**「島根にもいた！失われたゾウの世界」**

現在の日本には野生のゾウの仲間は生息していないが、地質時代に遡ると多くの長鼻類(ちょうびるい)(以下、「ゾウ」とする)が生息していたことがわかっており、島根県でも陸地や海底から4種の化石が発見されている。本企画展では、島根県産ゾウ化石を中心に、日本にいたゾウとその仲間である世界にいたゾウの歴史を化石から振り返り、進化と絶滅の謎に迫った。

7月23日の企画展開幕に併せて、延期されていたリニューアルオープン記念式典が島根県主催により開催された。

期　間：7月23日(木･祝日)～9月27日(日)　＊会期：66日間(うち開館62日)

入場者：35,038人(総入館者数)

◆主な展示

□アイキャッチ(本館１階ホール)

江津市で発見されたミエゾウに近縁なコウガゾウの全身骨格(長さ7.6m、高さ3.8m)を設置した。また、受付上の壁面にはミエゾウの生態復元画(高さ5.5m、幅5.2m)を懸架し、生息時のイメージが伝わる内容とした。

主な展示：コウガゾウ全身骨格、ミエゾウタペストリー

□世界にいたゾウ(本館2階 サヒメルギャラリー)

現生のアジアゾウの骨標本を用いてゾウの形態等を解説した。あわせて、ヒトの同一部位の模型を配置し、分かりやすいよう工夫した。また、ゾウの仲間の進化を俯瞰する系統樹を設置し、それと対応する形で祖先系から進化系のゾウの臼歯化石を展示した。

主な展示：アジアゾウの頭蓋骨、下顎骨、脊椎骨、前腕骨、フォスファテリウムなど化石ゾウの臼歯

□ゾウ化石の発掘地(本館2階回廊)

ゾウ化石の代表的な発掘地3箇所の事例をパネルで紹介した。3箇所は、ミエゾウの頭骨や全身の多くの部位が発見された大分県安心院町、ナウマンゾウの発掘地として有名な長野県野尻湖と北海道幕別町で、発見の経緯、発掘作業やクリーニングの状況、化石ゾウの復元について解説した。

主な展示：ミエゾウ安心院標本原寸大頭骨化石図、野尻湖発掘調査団刊行物、映画「野尻湖文化を求めて」、発掘に使用する道具類

□日本にいたゾウ(別館2階企画展示室前廊下)

約2000万～2万年前までの間に日本列島に生息し、化石として発見されたゾウを紹介した。これらは大陸と地続きになった時に渡ってきて、その後島国と化す中で固有種となったものもいた。精密に描かれた生体復元画も一緒に展示し、来場者がゾウの姿をイメージできるようにした。

主な展示：シュードラチデンスゾウ(頭骨のレプリカ)、トウヨウゾウ(下顎骨)、トロゴンテリゾウ(下顎骨)

□島根にいたゾウ(別館2階 企画展示室)

島根県で発見された4種の化石ゾウについて、種ごとに展示エリアを分けて展示した。導入部分では、1/7サイズの生体復元模型と同スケールの人物シルエットを用いて大きさを比較した。ナウマンゾウのエリアでは、大田市温泉津町沖の海底から発見されたナウマンゾウ切歯(日本最大級)と、これを基に復元したナウマンゾウ頭部の生体復元模型を展示した。マンモスのエリアでは、本州地域で唯一となる臼歯化石の展示と、生態復元CG、近畿大学マンモス復活プロジェクトを紹介した。

ほか、島根県では最も古いゾウの化石であるゴンフォテリウムの臼歯、江津市の陶土採掘現場で発見されたミエゾウの化石を展示した。

主な展示：日本海産ナウマンゾウ(日本最大級の切歯含む)、出雲市産ゴンフォテリウム(臼歯)、江津市産ミエゾウ(下顎骨・切歯片など)、日本海産マンモス(臼歯)、古植生に近い植生が現存する地域の風景写真、マンモス生体復元CG

◆その他の展示(お楽しみコーナー)

学芸員が中心となって製作した展示本体以外に、全館の職員を巻き込んで自由な発想で製作したお楽しみコーナーを設置した。自身の掌をゾウの体に見立てて描く「掌ぞうさんパーク」、当館が所在する大田市に伝わる祭事に登場するゾウ、県内でかつてゾウを飼っていた遊園地、ゾウの描いた絵、動物園でゾウの飼育員を取材した動画など、ゾウに関する事柄を紹介した。

◆関連イベント

□講演会「今のゾウ、昔のゾウ」

実施日：7月25日(土)

参加者：29名

内　容：広島市安佐動物公園飼育・展示課の川上裕敏氏を招いて、現生のゾウの体の仕組みや生態を紹介した。また、講演会の後には、当館学芸員が太古のゾウについて展示室でギャラリートークを行った。

□講演会「近畿大学のマンモス復活プロジェクト」

実施日：8月1日(土)

参加者：33名

内　容：近畿大学が進めている「マンモス復活プロジェクト」の中心メンバーである同大学先端技術総合研究所の松本和也所長と加藤博巳教授を招いた講演会を開催した。

前半はプロジェクトの経緯やシベリアでのマンモス化石の発掘、体細胞クローンの培養実験や、将来展望などをスライドで紹介した。後半は参加者それぞれの口腔上皮細胞からDNAを抽出する実習を行った。

□化石発掘体験

実施日：8月22日(土)

参加者：14名

内　容：化石を含む岩石(出雲市多伎町産、大田市仁摩町産)をハンマーで割って、中から二枚貝や植物などの化石を探す体験型の講座を行った。見つけた化石は図鑑を使って種の同定を行い、標本ラベルを付けた。

□一日クラフトまつり

実施日：9月13日(日)

参加者：123名

内　容：自由参加で、ゾウなどの動物をモチーフとした作品作りや、化石や岩石をテーマにした工作を楽しむ終日実施のイベントとした。ナウマンゾウの足跡を模した団扇づくり、厚紙で作るゾウ、樹脂で作るアンモナイトのレプリカ、小石に色を塗って形作るストーンアートの4ブースを、ボランティアスタッフの協力を得て企画、運営した。

### ③冬期企画展

**「第41回SSP展　自然を楽しむ科学の眼」**

日本自然科学写真協会(SSP)の巡回展を招致し、動植物や山岳、天体、科学など幅広いジャンルの写真作品計109作品を企画展示室、本館回廊及び本館1階ギャラリーに展示、また当館で収蔵している作品に関連した標本や剥製も合わせて展示した。普段なかなか見られない美しい景色やさまざまな生き物の営みの一瞬を写真で紹介することで、自然の迫力や生命、自然の素晴らしさを来館者に伝える企画展となった。

期　間：12月19日(土)～令和3年1月24日(日)　*会期：29日(休館日を除く)

入場者：2,113人(総入館者数)

## (3)その他の展示

□中国四国の国立公園展～アクティブレンジャーが伝える自然と活動～

期　間：6月20日(土)～7月12日(日)

入場者：2,723人(期間中入館者数)

場　所：新館４階フィールドコーナー

内　容：中国･四国地方の国立公園で活動する環境省のアクティブレンジャーが撮影した自然景観や自然保護活動風景の写真約30点を展示した。環境省中国四国地方環境事務所主催。

□三瓶自然館インタープリター写真展

期　間：10月3日(土)～12月6日(日)

入場者：13,824人(開催期間の有料入館者数)

場　所：本館2階サヒメルギャラリー

内　容：三瓶自然館のボランティアスタッフ「三瓶自然館インタープリター」による写真展で、自然を題材にした作品20点(13名)を、期間中一部入れ替えて展示した。

□パネル展「寄生虫の世界～あなたにめぐり逢うまで～」

実施日：10月31日(土)～11月29日(日)　26日間

入場者：12,813人(総入館者数)

内　容：身近にいるが意外と知られていない寄生生物の謎に満ちた生態を「えげつない生き物図鑑」(ナツメ社出版)のイラストと解説文を中心とした展示パネルを利用して紹介した。あわせて当館や近隣施設所蔵の寄生生物の標本や写真、映像なども展示した。

□常設展示「AR Sandbox」

期　間：3月6日(土)～

場　所：本館2階常設展示室

内　容：2020年度全国科学博物館活動等助成事業の採択を受けて、3Dカメラとプロジェクターにより砂場の起伏をリアルタイムで立体的に描画するAR Sandboxを設置した。

## (4) ビジュアルドーム

リニューアル開館後、新型コロナウィルス感染症対策(Ⅵ.各種資料 6.新型コロナウイルス感染症への対応等(p.70～))を行いながら7月9日より上映を再開した。

### ①プラネタリウムの投影

◆プラネタリウム一般投影

プラネタリウム生解説投影(星座案内)と、オリジナルで制作したプログラム番組(テーマ番組)を投影した。

□星座案内

実施日：7月9日(木)～3月31日(水)

観覧者：5,988人

内　容：その日見られる星空から、月や惑星、星座などを紹介し、話題となっている天文現象の話などを織り交ぜて、解説員による親しみやすい生解説投影を行った。1回約30分の投影とした。

□テーマ番組

＊銀河ファンタジー

期　間：9月2日(水)～2月28日(日)

観覧者：3,303人

内　容：星や銀河系を情緒的に語る作品で、平成14年の新館リニューアル時に制作されたオリジナル番組をデジタル化して投影した。(令和2年度デジタル化)

＊秘密結社 鷹の爪 THE PLANETARIUM～ブラブラ！ブラックホールのナゾ～

期　間：3月6日(土)～3月31日(水)

観覧者：592人

内　容：アニメ「秘密結社　鷹の爪」のキャラクターを使い、ブラックホールを主題に最新の宇宙論をおもしろく、わかりやすく伝えつつ、キャラクターの「吉田くん」が島根の話題にもふれる番組。(平成23年度制作)

□その他

＊きっずプラネタリウム

新型コロナウィルス感染症対策に伴い、実施を中止した。

＊スペースアドベンチャー～ユウトの銀河系探検～

実施日：10月18日（日）、11月15日（日）、12月18日（金）、12月20日（日）、1月17日（日）、2月21日（日）

観覧者：153人

内　容：天体観察会に参加した「ユウト少年」が、不思議なお兄さんとともに太陽系や銀河系のいろいろな天体を探検し、宇宙の中の地球や生命について思いを巡らせる番組である（平成21年度制作）。「サヒメルきっずサンデー」や学校団体の要望にあわせて投影した。

＊字幕付きプラネタリウム「月を見上げて」

実施日：9月15日（日）～9月21日（土）、12月3日（木）～12月6日（日）

観覧者：183人

内　容：老人週間及び障害者週間にあわせて、聴覚に障がいや不安がある人を主な対象に、字幕を付けて解説するプラネタリウム番組を投影した。馴染みの深い天体である月をテーマに、星空への親しみを深めてもらう内容とした。

◆プラネタリウム学習投影

学習指導要領に沿った内容として「小学4年生向け投影」、「小学6年生向け投影」、「中学生向け投影」、及び保育園や幼稚園等の未就学児を対象に星空に親しむきっかけ作りを目的とした「幼児向け投影」を、学校団体の希望にあわせて投影した。

実施数：13回

観覧者：321人

| | | | |
|---|---|---|---|
| （内　訳） | 小学4年生向け投影 | 5回 | 78名 |
| | 小学6年生向け投影 | 5回 | 175名 |
| | 中学校向け投影 | 1回 | 10名 |
| | 幼児向け投影 | 2回 | 58名 |

**②大型ドーム映像の上映**

新型コロナウィルス感染症対策に伴い上映中止。

## (5) 各種イベント

□部分日食観察会

実施日：6月21日（日）

参加者：120人

内　容：当日に起きた部分日食を観察した。密集を避けるため会場は屋外とし、日食グラスのほか望遠鏡による投影やモニターに映しての観察などを行った。

□夏の夜の昆虫観察

実施日：8月1日（土）

参加者：13人（5家族）

内　容：夜の三瓶山で見られる昆虫の観察会で、夜の森を歩いて虫を探し、日中にはあまり見られないクワガタムシ類やコフキコガネ、ウスバカゲロウなど夜行性の昆虫たちを見つけ観察した。密を避け例年より定員を抑えて実施した。

□虫をさわってみよう

実施日：8月23日（日）

参加者：18人（6家族）

内　容：さまざまな昆虫に触れて、特徴を学び観察するイベントで、虫の安全なつかみ方を紹介し、図鑑で調べたり触って観察することで、昆虫への関心を高める内容となった。密を避け定員を抑えて実施したが、昆虫に触ってみたい、触らせたいという家族から定員以上の申込があった。

□一日クラフトまつり

実施日：9月13日（日）
参加者：123人
内　容：夏期企画展と連動のイベントである。詳細はp.9に掲載。

□ススキの迷路

実施日：10月10日（土）～11月4日（水）
参加者：10,080人
内　容：北の原に広がるススキの草原を刈り込み、迷路を作成した。令和2年度は、中級、上級の2コースを作り、平日には幼稚園や保育園、休日には親子の利用があった。

□さんべの森たんけんたい～秋の森であそぶ～

実施日：10月25日（日）
参加者：親子5組21人
内　容：北の原キャンプ場を会場に、親子で野外遊びを体験するイベントで、「火おこし」をテーマに、ファイヤースターターや火おこし器を使い、自分たちで起こした火でパン等を焼いた。どんぐりや落ち葉を使って秋ならではの遊びも楽しんだ。

□細密画に挑戦！(骨格編)

実施日：11月22日（日）
会　場：レクチャールーム
参加者：8人
内　容：イノシシなどの頭骨をノギスなどを使い計測しながら描いた。描くことで観察のポイントを押さえ、ほ乳類についての理解を深めた。また、講師がタヌキやウシの全身骨格を使ってホネについて説明した。

□熟睡プラ寝たリウム

実施日：11月23日（月）、12月毎週日曜日　全5回
会　場：ビジュアルドーム
参加者：132人
内　容：普段は眠ってしまうことに罪悪感を抱きがちなプラネタリウムだが、リラックスできる音楽と星空で、逆に寝てもらおうというプラネタリウムの投影を実施した。

□講演会「はやぶさ2による小惑星リュウグウの探査と宇宙衝突実験」

実施日：11月28日（土）
参加者：31人
内　容：12月6日のカプセル帰還にあわせ、神戸大学の荒川政彦教授を講師に迎え、子どもから大人までの幅広い年代の参加者に対し、最新の小惑星探査のサイエンスや荒川氏の「はやぶさ2」との関わりについて講演を行った。

□お正月イベント

実施日：1月2日（土）、3日（日）
参加者：194人
内　容：ガラポン大抽選会や冬期企画展ギャラリートークなどを実施した。また、ビジュアルドームでは干支にまつわる話題を織り交ぜながら星空案内を行った。

□さんべの森たんけんたい～冬の森であそぶ～

実施日：1月31日（日）

参加者：親子7組27人

内　容：北の原キャンプ場を会場に、親子で野外遊びを体験するイベントで、「雪遊び」をテーマに実施し、ソリ遊びや雪だるま作りなどをして楽しんだ。

□星よりも、遠くへ

実施日：3月7日（日）

参加者：35人

内　容：東日本大震災の記憶を留めるためのイベントで、「まい&れいれい」によるバイオリンとピアノのコンサートと、仙台市天文台制作のプラネタリウム番組「星よりも、遠くへ」の投影を行った。次年度以降も開催を望む声が多かった。

□親子で作ろう工作教室

| | | | |
|---|---|---|---|
| 実施日： | 7月19日（日） | 葉脈しおり | （16人） |
| | 7月26日（日） | 海藻しおり | （ 8人） |
| | 8月2日（日） | ハーブせっけん | （20人） |
| | 10月11日（日） | 竹の工作 | （19人） |
| | 12月6日（日） | クリスマスリース | （20人） |

（ ）内は参加人数。

内　容：自然や科学をテーマにした親子向けの工作で、企画と実施をインタープリターが担当した。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、募集人数を例年より減らし、一部の教室は中止した。

□サヒメル科学探険隊

実施日：6月14日（日）、9月6日（日）、10月25日（日）、11月15日（日）

参加者：のべ23名

内　容：小学4～6年生を対象に自然科学に関する体験活動や観察を行うイベントで、県内各地から参加があり、自然科学への関心を高め理科好きな子供たちを繋ぐ有意義な活動となった。また第3回の活動は島根大学と共催で、大学演習林をフィールドに実施した。当初5回の活動を予定していたが、コロナ関連で5月の活動が中止となったため、計4回の活動に回数と内容を変更し、参加者も各回募集する形で実施した。

第1回　三瓶山の自然をいっぱい調べよう（荒天により中止）

第2回　樹液に集まる生き物観察／ゾウの企画展で学ぼう

第3回　森も呼吸する!?二酸化炭素を調べよう！

第4回　行って学ぼう火力発電所見学

□きっずサンデー

実施日：毎月第3日曜日（しまね家庭の日）

参加者：3,516人

内　容：しまね家庭の日に合わせ、子どもたちの自然や環境についての興味関心を高めるため、デジタル紙芝居などを実施した。新型コロナ感染拡大防止のため、開催を延期していたワークショップ「プラ板キーホルダー作り」を12月より実施した。

## (6) 新聞への寄稿

讀賣新聞「サヒメル研究日誌」（計12回）、島根日日新聞「学芸員日記」（計26回）、山陰中央新報「さんいんきらめく星」等（計26回）への原稿執筆を通して、三瓶や島根の自然の紹介、自然保護についての啓発、情報発信を行った。（掲載記事の一覧は「Ⅵ.各種資料 4. 資料（p.64～）」参照）

## (7) 自然学講座

□教員のための博物館の日

実施日：サヒメル会場：8月7日(金)
　　アクアス会場：8月5日(水)、8日(土)

参加者：サヒメル会場：23人(うち減免期間12名)
　　アクアス会場：12人

内　容：学校の博物館利用を促進することを目的に、教員に博物館の様々な展示やプログラムを紹介する事業で、国立科学博物館と共催した。本年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、大幅にプログラムを変更した。これまで同様に当館と島根県立しまね海洋館の2カ所で実施したが、ワークショップは当館のみとし、アクアスではバックヤードツアーとフロアガイドのみとした。ワークショップでは、教員からの要望が多い地層の観察、岩石と火山灰の観察を実施したほか、教員とアクアススタッフによるワークショップとしてイカの解剖の方法など学んだ。なお、本事業は第15回科学教育の普及･啓発助成事業の支援を受けて実施した。

【サヒメル会場】

| ワークショップ | | 講　　師 |
|---|---|---|
| 1 | 地層の観察 | 当館職員 |
| 2 | 岩石と火山灰の観察 | 当館職員 |
| 3 | イカを解剖しよう | 土肥静枝先生(大田市立志学中学校)<br>石川亮太技師ほか2名<br>(しまね海洋館アクアス) |
| 4 | 夏期企画展解説＆貸出教材紹介 | 当館職員 |
| ポスター発表による事例紹介<br>◎身の周りの自然放射線の性質について<br>◎身近な素材の防音効果<br><br>◎博物館の標本を活用した火山灰の観察実践<br>◎なぜ、ふしぎを楽しむ月と星の学習<br>◎地域素材×ICT×外部人材で深める学び<br>～朝波小の大地のつくり～ | | 島根県立大田高等学校自然科学部生徒<br>島根県立大田高等学校自然科学部生徒<br>(指導教諭：下垣章裕先生)<br>坂本弥生先生(大田市立北三瓶中学校)<br>竹下三千代先生(大田市立静間小学校)<br>安田直樹先生(大田市立朝波小学校) |

□「はやぶさ2が帰ってくる！」はやぶさ2トークライブ シーズン2

実施日：8月30日(日)

参加者：37人

内　容：小惑星探査機「はやぶさ2」の開発･運用を担うNECより、システムマネージャーで島根県出身の益田哲也氏(オンライン登壇)、元「チームはやぶさ」の小笠原雅弘氏を招き講演会を開いた。参加者からは地球帰還に関してなど質問が多数あった。宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙科学研究所との共催とした。

## (8) 天体観察会

20cmクーデ式屈折望遠鏡4基と60cm大型反射望遠鏡を活用し、定期･予約観察会のほか、天文現象などにあわせた様々なテーマの観察会を実施した。

合計参加者数：1,137人

①定期天体観察会

実 施 日：毎週土曜日(1回45分)

開始時刻：(10～11月、3月)19:00～、20:00～、(12～2月)19:00～

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 参加人数 | － | － | － | － | － | － | 192 | 180 | 39 | 6 | 69 | 54 | 540 |

＊新型コロナウイルス感染症対策等のため、4、5月休館、6～9月は観察会を休止。

②予約天体観察会

学校団体･一般団体を対象にした天体観察会で、土曜日と休館を除く日に予約により実施している。曇天･雨天時にはプラネタリウムの投影を行う。予約団体の多くは、国立三瓶青少年交流の家において宿泊研修を行う学校団体であった。(実施状況は「Ⅵ. 各種資料 4. 資料(p. 66)」参照)

実施数：19団体477人

③特別天体観察会

□部分日食観察会

詳細はp. 11に掲載。

## (9) 自然観察会

①定期自然観察会「北の原お散歩ツアー」

実施日：毎週土曜日(4～11月)

内　容：三瓶北の原草原で見頃を迎えた季節の花や景色を楽しみながら行う自然観察会で、来館者が気軽に参加できるよう30分間で実施した。

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 参加人数 | ― | ― | 47(4) | 30(4) | 7(5) | 19(4) | 44(5) | 16(4) | 163(26) |

＊新型コロナウイルス感染症対策等のため、4、5月休館　　(　)内は回数　※悪天候時は中止

②予約自然観察会

事前の予約に応じて行う自然観察会､学校団体等を中心に好評を得ている。(実施状況は「Ⅵ 各種資料 4. 資料(p. 66～)」参照)

実施数：36団体　1,086人

## (10) 自然科学や環境に関する教育･学習事業

□講師派遣

各種団体や学校、生涯学習施設などの要請に対して、各専門分野の職員が赴き、自然や環境についての講演や観察会を行うなど､環境教育や環境学習に協力した。(実施状況は「Ⅵ 各種資料 4. 資料(p. 67～)」参照)

実施数：39件　1,421人

□スーパーサイエンスハイスクール･サイエンスセミナーなどへの協力

＊島根県立大田高等学校1年生　三瓶サイエンスセミナー

日　時：9月16日(水)､17日(木)

生徒数：1年生　24人

内　容：研修①･･･天体望遠鏡のしくみと太陽黒点の観察

研修②･･･身近にもある放射線の調査と観察

研修③･･･ヒトと動物の骨格の比較
研修④･･･地球の大きさの計測

□教員のための博物館の日
詳細はp. 14に掲載

## (11) 博物館ボランティア「三瓶自然館インタープリター」の活動

三瓶自然館インタープリターは、三瓶を訪れる人たちが、生きた自然に触れ、自然の不思議さや素晴らしさを感じ、自然を愛する心や守る心を育むことの手助け(インタープリテーション)を目的として設置されたボランティアスタッフ組織である。

館の設置目的を理解し、自然環境の保全に関心を持つ希望者のうち、研修を修了した者に委嘱登録している。また、自然観察の経験等の少ない希望者には、研修を積んだ後に委嘱している。

□登録者数

| 登録種別 | 人　数 |
|---|---|
| 委嘱登録者 | 60人 |
| 研修登録者 | 4人 |
| 合　　計 | 64人 |

| 男女構成 | 人　数 |
|---|---|
| 男　性 | 43人 |
| 女　性 | 21人 |
| 合　計 | 64人 |

□活動実績

館が実施する各種事業に協力し、主に参加者や来館者に対する解説や案内を行っている。主な活動内容は次のとおりである。

･館主催イベントにおける参加者対応や企画、実施、実施補助
･外部から依頼を受けた自然観察会や定期観察会での自然解説
･団体向け予約天体観察会や毎週土曜日の定期天体観察会での補助や案内
･本館1Fでの工作や来館者対応
･北の原の植物･鳥類調査(環境省のモニタリングサイト1000など)

＊令和2年度の主な協力事業

| 月　日 | 事　業　名 | 活動人数 |
|---|---|---|
| 8月 1日 | 夏の夜の昆虫観察 | 8人 |
| 8月22日 | 化石発掘体験 | 11人 |
| 9月13日 | 一日クラフトまつり | 8人 |
| 11月21日 | ボランティア交流 | 10人 |
| 複数回実施事業等 | わくわくワゴン(打合せ含め9回) | 39人 |
| | 工作コーナー(準備含め36回) | 36人 |
| | 親子で作ろう工作教室(5回) | 11人 |
| | 自然観察会(14回) | 31人 |
| | 天体観察会(12日) | 23人 |
| | 調査(5回) | 45人 |
| | 研修･保全作業･会議･打ち合わせ等(7回) | 80人 |
| | 上記以外のイベントなど(3回) | 10人 |
| 合　　計 | | 312人 |

※複数日に渡るイベントと複数回実施事業等の活動人数は延べ数

□研修

本年度の研修は、「マダニとその媒介する感染症について」と題し、島根県保健環境科学研究所ウイルス科主任研究員の藤澤直輝氏を講師に招いて知識向上に努めた。

また、島根県芸術文化センター「グラントワ」のグラントワボランティア会及び山口県の山口里山ネットワークの会員の交流研修を受け入れ、解説技術の向上に努めた。

## (12)博物館資料の収集・保管、活用

### ①自然系博物標本の収集と整理

◆指定管理財源における資料収集整理

□地学標本(岩石標本の収集、分類)

島根県内の地学情報及び資料の収集を行い、所蔵資料の整理を行った。また展示用の蛍光鉱石として以下の標本を購入した。

購入：珪亜鉛鉱、マンガン方解石、アグレル石(各1点)

□天体画像(その他有用な資料の収集、分類及び整理)

天文現象等を画像資料として記録した。

おもな撮影対象：金星とプレアデス星団の接近、水星探査機「ベピコロンボ」の地球スイングバイ、部分日食、ネオワイズ彗星、接近した火星、帰還した小惑星探査機「はやぶさ2」とそのカプセル、木星と土星の大接近等

□動物標本(斃死鳥獣の収集と剥製作成)

本年度購入・製作した動物標本は、次の14種14点、展示用模型は2種2点である。

購入：マンモス1/7生体復元模型、センダイゾウ1/7生体復元模型、ハクビシン剥製、タイワンリス剥製、ニホンジカ毛皮、アライグマ毛皮、ヌートリア毛皮、コウモリ骨格封入標本、コウモリ剥製、コウモリ頭骨(6点)

製作：ニホンリス

□昆虫標本(昆虫標本の収集、分類及び整理)

寄贈及び調査研究等により収集した昆虫類の標本化と同定整理作業を進め、未整理分の寄贈標本や主として県内で採取した標本を中心に計280点の標本データの入力を行った。

□植物標本(植物標本の収集、分類及び整理)

枚村喜則氏収集のさく葉標本の整理、樹木の幹標本の製作、各種調査にあわせた植物標本の収集を行った。データベース化された標本情報は、国立科学博物館のS-netでの公開、国際的なデータベースであるGBIFでの公開を予定している。また、島根大学と協力して、館所蔵のさく葉標本のスキャニングを行い、同大学内のホームページ上で画像を公開した。

・枚村喜則氏収集さく葉標本のデータベース化と登録：1,000点

・アクリル封入植物標本：5点

◆受託による資料収集整理

□自然史系博物館所有の生物多様性情報に関わるデータ提供(国立科学博物館より受託)

当館で整理が進められている枚村喜則氏収集植物標本のデータについて、所定の様式に変換し、1,000点のデータを提供した。提出したデータは、国立科学博物館が運営するS-netや、国際的なデータベースであるGBIFに掲載される。(井上雅仁)

### ②関連図書の収集

自然科学に関する図書や雑誌は、購入などにより収集に努めた。図書や雑誌の一部は常設の図書コーナーなどで来館者が閲覧できるようにしている。

・購入図書：77冊

### ③資料の保守燻蒸

資料劣化の原因となる害虫やカビの防除を目的として燻蒸を行った。収蔵庫の燻蒸については、専門業者によって殺虫効果の高い薬剤を使用して年1回実施した。展示、収集した資料を収蔵庫へ納める前や、常設展示の資料については、当館の大型常圧燻蒸庫を用いて適宜燻蒸を行った。施設に不具合が発生した際には、迅速かつ安全に対処した。

□常設展示標本及び収蔵庫の全室密閉燻蒸

対　象：第一・第二乾燥収蔵庫及び液浸標本室の庫内

期　間：6月14日（月）～16日（水）

□燻蒸設備を用いた燻蒸

対　象：鳥獣剥製、昆虫標本、植物さく葉標本など

期　間：適宜実施

### ④博物館資料の貸出・閲覧など

当館で所蔵する博物館資料については、他施設などからの要請に応じて、貸出や閲覧などを行っている。令和2年度は以下の要請に応じて貸出などを行った。

| 施設名等 | 種別 | 期間 | 資料名 |
|---|---|---|---|
| 一般財団法人 東京大学出版会 | 貸出 | 無期限 | ニホンアシカ剥製の写真 |
| 公立大学法人 兵庫県立大学 | 貸出 | 無期限 | ニホンアシカ剥製の写真 |
| 株式会社necco | 貸出 | 無期限 | 三瓶山周辺動植物の写真 |
| 島根植物研究会 | 閲覧 | 11/27 | アカウキクサ属植物標本 |
| 島根植物研究会 | 閲覧 | 12/21 | アカウキクサ属植物標本 |
| 島根植物研究会 | 閲覧 | 1/29 | アカウキクサ属植物標本 |
| 島根植物研究会 | 閲覧 | 2/26 | カエデ属植物標本 |

## (13) 調査研究

### ①研究項目と成果概要

◆県民や行政の課題となっている調査研究

□レッドデータブック掲載植物の現況調査

島根県版のレッドデータブックに掲載されている植物を対象として、有識者の協力を得ながら既存情報の整理や現地での確認調査を行った。（井上雅仁）

□県版レッドデータブック記載の哺乳類調査

ニホンリスについて、昨年10月に雲南市域で発見された斃死体を剥製化した。また、死体が発見された地域の山林内で本種によると思われる多数の食痕を確認した。さらに、一昨年に邑南町において生息を確認した地点において、追加の調査を実施し、本年も痕跡を確認することが出来た。

ミズラモグラ、コモグラ、ヤマネについては追加の情報は得られなかった。（安藤誠也）

□三瓶山半自然草原の管理と草原性希少植物保全に関する研究

三瓶山の草原保全のための知見を集積することを目的として、希少植物のモニタリング調査、草原内へ侵入したセイタカアワダチソウの生育環境調査などを行った。これらの結果は、保全活動の内容を検討するための資料として活用した。また、三瓶山草原の保全のために、他地域の草原研究者と情報交換を行った。(井上雅仁)

□自然環境保全地域等(赤名湿地、隠岐世界ジオパーク)の動植物調査

島根県自然環境保全地域である赤名湿地性植物群落では、保全活動の効果を検証するためのモニタリング調査を行った。世界ジオパークの登録地である隠岐諸島では、島前の山地帯を中心に動植物の確認調査を行った。(井上雅仁・三島秀夫)

□旧ふれあいの里奥出雲公園における希少鳥類等生息調査

さえずりの森(旧ふれあいの里出雲公園)における鳥類の生息状況の把握を目的に、希少鳥類の繁殖調査と構成種の把握調査を行った。希少鳥類調査では、アカショウビンとクロツグミを対象として平成24年からジオロケーターやGPSロガーを装着して放鳥し、越冬地の解明を進めている。本年度はサントリー世界愛鳥基金より支援を受けて装着した小型GPSロガーの回収を目指した。構成種の調査では、平成23年度にナラ枯れ対策として森林の一部が伐採されたことに伴う環境の変化とその影響についての検討を行っている。(星野由美子)

□特定外来種ソウシチョウの移動特性調査

特定外来種ソウシチョウは現在、全国的に分布を広げ定着が進みつつある。島根県内でもその生息地が広がりつつあり、各地で目撃事例も増えている。そこで、県内の繁殖地・越冬地・中継地と思われる場所で、カラーリングを装着し、その移動の特性について調査を行っている。(星野由美子)

□ダイコクコガネ等の希少昆虫調査

本年度は東の原では放牧は一切行われなかったため、東の原では牛糞に集まる糞虫調査を行うことができなかった。放牧が続けられている西の原での調査では、オオセンチコガネやツノコガネなどは確認できたが、ダイコクコガネは確認することはできなかった。(皆木宏明)

□テングコウモリの繁殖生態の解明調査

平成30年度より石見銀山遺跡大久保間歩で実施している調査において、これまで未確認であった春期における交尾行動が確認された。本種で一般的な行動なのかを検証するため、追試を久喜・大林銀山の坑道でも実施した(邑南町教育委員会との共同研究)。また、鳥獣捕獲許可を得て、石見銀山で61頭、久喜・大林銀山で7頭を捕獲し、外部形態の計測や翼帯の装着を行った。今後も調査を継続し、妊娠～出産・子育てにいたる本種の繁殖生態の全容解明を進めていく予定である。(安藤誠也)

◆自然系博物館としての機能に資する研究

□太陽系外惑星を含む連星系及び変光星の観測

当館の4連式クーデ望遠鏡の特徴を発揮できるユニークな観測として、連星系及び変光星の光干渉計観測を候補として検討しており、実験室内において予備的な実験を行っている。本年度は引き続き白色光を光源とした光干渉計実験を実施した。また、京都大学がホストとなり、オンラインで開催された連星系・変光星研究会2020において、超新星や連星・変光星、新星、ブラックホール等の理論や観測についての発表が行われ、議論に参加した。(矢田猛士)

□三瓶山周辺繁殖鳥類の渡り調査

三瓶山周辺は、天然記念物の三瓶山自然林などの森林があり、多くの夏鳥などが繁殖を行っている。そこで、繁殖鳥類のモニタリングも含め、鳥類に標識を装着する渡り調査を実施することで、越冬地やルート解明につなげるための調査を行っている。本調査では、冬鳥であるミヤマホオジロの繁殖が3年連続で確認されていたが、本年度は生息は観察されたが、繁殖は確認されなかった。また、三瓶自然館野外観察コーナーの水場に飛来する鳥類の第Ⅲ期調査を本年度から実施した。本年は14科31種が確認された。(星野由美子)

□三瓶山の昆虫相に関する調査

西の原ではオオチャバネセセリ、トラサンドクガ、セグロイナゴ、東の原ではクモガタヒョウモン、ミヤマチャバネセセリ、ヤホシホソマダラ、シロスジフトハナバチを確認した。秋には東の原でツマグロキチョウが多数飛翔しているのを確認した。またトラサンドクガ、キバネツノトンボは東の原と西の原の両方で確認できた。本年度は西の原において、草原性種のウスベニオオノメイガを確認した。(皆木宏明)

◆環境教育･環境学習に資する研究

□コウノトリの生息をテーマとした環境教育プログラムの開発

平成29年度に島根県で初となるコウノトリの野外繁殖が確認されて以来、営巣地の周辺の小学校や図書館、公民館等では、本種の繁殖、生息をテーマにした学習への活用や勉強会が行われている。そこで、本年度は子どもたちに判りやすい資料や講演PPT等の作成や、ハンズオンの学習教材などを作成し、出雲市内の小学校2校に教材の貸し出しを行った。また本事業による教材の開発や雲南市立西小学校での教育課程での取り組みについて、日本環境教育学会で発表した。(星野由美子)

□タンポポ調査･西日本2020

西日本で一斉に行われる「タンポポ調査･西日本2020」の島根県事務局を担当し、2019年の予備調査に続き、2020年は本調査を実施した。1,000点以上のサンプルが集まり、頭花の確認、種類の同定、調査データの取りまとめなどを行った。(井上雅仁)

□電視観望の研究

教職大学院教授らと共同で、専門知識を持たない者でも天体観察会が実施できるようにするための方法論の確立とシステム開発に取り組んでいる。天体望遠鏡に同架したカメラが撮影した星野をコンピュータが自動的に星図と照合して、望遠鏡の向いている天球上の位置を特定する解析技術はプレートソルビングと呼ばれ、本年度はその技術を用いた天体観察を小･中学校で実践した。プレートソルビングにおけるカメラとコンピュータの役割をスマートフォンに持たせて使用できる小型望遠鏡が比較的安価で市販されており、そのシステムにCMOSカメラを組み合わせ、天体の映像を観察する電視観望について教材化を模索した。(竹内幹蔵)

□スマートグラスを活用したプラネタリウム字幕投影の発展

プラネタリウムにおいて個別に字幕を提供できる手段として、AR技術を活用したスマートグラスの応用を試みている。音声自動認識ソフトのデモ機を借り受けて内部テストを行うなど、字幕の自動化を中心に研究を進めている。(太田哲朗)

□池田鉱泉を含む天然の放射能を利用した放射線学習プログラムの開発

館内で学校団体向けの放射線学習を行ったほか、池田鉱泉の現地において、大田市立北三瓶中学校及び大田市立志学中学校の理科教諭と、それぞれ共同で放射線学習の実施した。霧箱実験等に使用できる島根県内の天然の放射能調査として、八雲温泉(松江市)、鷺の湯温泉(安来市)、比田温泉(安来市)、亀嵩温泉(奥出雲町)において、放射線量の測定及びサンプリングを行い、それぞれ実験に使用できることを確認した。また、泉源地で

見られる温泉水由来の鉱物を調べることで地域の地質学的な考察を行うことを目的に、島根大学の松本一郎教授と共同で、三瓶地域の泉源地の調査を行った。(矢田猛士)

◆受託による調査研究

□石見銀山遺跡自然環境モニタリング業務(島根県教育委員会より受託)

石見銀山遺跡における世界遺産登録後の自然環境の変化を追跡するために、コアゾーンを中心に動植物のモニタリング調査を実施した。遺跡内では、既往調査で記録された希少動植物の大部分が確認された。大久保間歩では、例年と同じように4種のコウモリ類の冬眠が確認された。(三島秀夫・井上雅仁・安藤誠也・龍善暢)

□重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000、公益財団法人日本自然保護協会より受託)

環境省が生物多様性国家戦略の中で提唱しているプロジェクトで、平成15年からスタートした。全国にサイトを設け動植物の生息状況を長期的にモニタリングすることで、生態系の劣化やその他問題点の兆候を早期に発見し、生物多様性の適切な保全のための対策に資することを目的としている。サイトは、森林、里地里山、湿地などの生態系タイプごとに分けられ、三瓶山北の原は、全国的に減少しつつある草地があることから、里地里山タイプのコアサイトとして主に植物と鳥類の調査を実施している。(井上雅仁・星野由美子)

**②研究成果の公表**(※印は館外の研究者)

□論文、報告書


矢田猛士・竹下三千世※・土井美香子※・中村佐恵子※(2021)島根県立三瓶自然館と大田市立朝波小学校が連携した第4学年「月と星の動き」の実践. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 129-135.

龍　善暢(2021)島根県立三瓶自然館の来館者層③. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 43-47.

千代西尾祐司※・古都浩朗※・竹内幹蔵(2021)理科教育における,STEAM教育教材としての電視観望技術の実践的活用－Plate Solving技術とCMOSカメラを活用した天体観望の運用－. 島根大学教職大学院紀要学校教育実践研究 4: 17-29.

星野由美子(2021)三瓶自然館野外観察コーナーで見られた鳥類 －2020年度の調査記録－. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 65-71.

星野由美子(2021)元ふれあいの里奥出雲公園における鳥類 －2020年度の調査記録－. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 73-78.

内藤和明※・星野由美子・高橋誠二※(2020)野外でのビデオ録画によるコウノトリの繁殖の行動解析. 野生復帰 8: 1-9.

皆木宏明(2021)ヒサゴクサキリの島根県本土側での確認記録. すかしば 68: 50.

皆木宏明・大畑純二※(2021)益田市で確認されたツチゴキブリ(ゴキブリ目)の採集記録. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 123.

皆木宏明(2021)島根県東部で採集されたオニクワガタ(クワガタムシ科)の標本記録. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 125.

皆木宏明(2021)島根県中部の三瓶山で確認されたヨツモンカメムシ(カメムシ目)の記録. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 127.

三島秀夫(2021)島根県大田市の蛾類. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 79-122.

安藤誠也・前田喜四雄※(2021)島根県におけるヒメヒナコウモリ(*Vespertilio murinus* Linnaeus, 1758)の初確認. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 39-42.

安藤誠也・遠藤大介・田中宏明・大谷朗子(2021)令和2年度夏期企画展「島根にもいた！失われたゾウの世界」開催の記録. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 137-149.

井上雅仁・高橋佳孝(2020)管理放棄により樹林化した草原跡地における埋土種子相からみた草原生植物の再生可能性. 植生学会誌 37(1): 27-35.

井上雅仁(2020)枚村喜則氏収集植物標本目録(Ⅲ). 205pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団.

井上雅仁(2021)島根県固有植物イズモコバイモ *Fritillaria ayakoana* Maruyama & Naruhashiの開花特性. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 17-25.

土江陽太※・針本翔太※・久保満佐子※・井上雅仁(2021)三瓶山麓西の原における火入れ中断1年目の草原性植物の生育状況. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 1-7.

柴田一樹※・柳浦正夫※・井上雅仁(2021)島根県東部で確認されたメヤブソテツ. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 55-56.

桑原一司※・渡津友博※・伊東明洋※・大久保光機※・日高久志※・井上雅仁(2021)島根県邑南町淀原湿地の変遷と現状. 島根県立三瓶自然館研究報告 19: 9-16.

□学会･研究会等での発表

矢田猛士･竹下三千世※･土井美香子※･中村佐恵子※(2020, 8)地域の自然系博物館と連携した第4学年「月と星の動き」の実践. 日本理科教育学会第70回全国大会.(岡山･オンライン)

星野由美子･和田邦子※(2020, 8)雲南市立西小学校におけるコウノトリ学習について. 日本環境教育学会第31回年次大会. (福岡･オンライン)

植松永至※･小倉豪※･溝口文男※･中村豊※･楠木憲一※･平田智法※･黒田治男※･牛込祐司※･松宮祐秋※･峯光一※･鳥飼久裕※･中原聡※･中原亨※･山口典之※･大槻恒介※･上田浩一※･貞光隆志※･西剛※･古田慎一※･中村滝男※･森茂晃※･星野由美子･今森達也※･増川勝二※(2020, 12)フライトコールによるヤイロチョウの渡り調査の試み. バードリサーチ 鳥類学大会2020 Online. (オンライン)

井上雅仁･高橋佳孝※(2021, 3)島根県三瓶山麓の半自然草原におけるセイタカアワダチソウの分布と土壌の特性. 第67回日本生態学会大会.(岡山･オンライン)

渡津友博※･保坂哲朗※･井上雅仁･三島秀夫･丑丸敦史※(2020,12)島根県赤名湿地における訪花昆虫群集と送粉シンドローム. 第52回種生物学シンポジウム.(滋賀･オンライン)

渡津友博※･保坂哲朗※･平岩将良※･井上雅仁･三島秀夫･丑丸敦史※(2021, 3)直接観察とインターバル撮影カメラを用いた島根県赤名湿地における訪花昆虫群集の解明. 第67回日本生態学会大会.(岡山･オンライン)

堤　道生※･平舘俊太郎※･横川昌史※･井上雅仁･高橋佳孝※(2021, 3)49年前に改良歴のあるシバ草地の植生と土壌化学性. 2021年度日本草地学会新潟大会(新潟･オンライン)

## (14)施設ＰＲ事業

### ①広報営業活動

4月に予定されていたリニューアルオープンについて県と連携した大々的な広報を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、年度初めが休館になったことで実施できなかった。改めてリニューアルオープンした6月以降、夏休みを中心に様子を見ながら広報を実施した。

コロナ感染者数が比較的落ち着いてきた夏期以降には、山陰中央新報社と中国新聞社との共催広告企画やFacebook広告を利用し、複数回の広告掲載や記事掲載により島根県と広島県からの集客を図った。また、中国四国CATV39局で放送される企画展及び付属施設紹介番組を、制作･放送したり、地上波テレビでも、夏期は企画展を、秋期には期間展示をPRするため、スポットCMを放送した。

地域連携で実施するものとして、三瓶山広域ツーリズム振興協議会、石見ツーリズムネットに参画して三瓶山地域のPRを行った。

例年、外部で実施されるイベントに出展してPRを行っていたが、新型コロナウイルス感染症のためイベントが中止になり、実施することができなかった。

□営業活動

三瓶山広域ツーリズムの事業として「フレンドマーケット・モンベルフェアオンライン」に参加し、三瓶地域のPRを行った。また、冬期には、県内の小・中学校を訪問し、学習プログラムや施設の利用方法などを紹介した。

### ②情報発信

□ＷＥＢサイト・ＳＮＳ

各施設のホームページに施設の情報とイベント等の情報を随時更新し、臨時的な情報などはSNSを併用することで効果的な情報発信を行った。

□ミュージアムニュース発行

三瓶自然館のイベントや島根の自然に関する情報を取り上げ、隔月で年6回、3,000部ずつ発行した。年間パスポート会員、学校、図書館、県内市町村等に配布した。

□ケーブルテレビ(ぎんざんテレビ)

地元ケーブルテレビ局とタイアップして、当館の情報番組「サヒメルうおっち」を制作し、三瓶山や島根の自然情報、イベントなどのPRと情報発信の有力な手段になっている。また、大田市内においては、音声告知を活用したイベント告知も継続して実施した。

＊令和2年度「サヒメルうおっち」放送内容

| 放送日 | 放　送　内　容 | 放送日 | 放　送　内　容 |
|---|---|---|---|
| 4/17<br>～20 | 自然館本館2階展示リニューアル<br>「火山時空シアター、クイズコーナー」 | 10/16<br>～19 | 赤トンボ |
| 5/15<br>～18 | 自然館新館4階展示リニューアル | 11/20<br>～23 | はやぶさ2 |
| 6/19<br>～22 | 国旗の中の天体 | 12/18<br>～21 | 冬の企画展「SSP展」 |
| 7/17<br>～20 | 自然館本館2階展示リニューアル<br>「鉱物展示」 | 1/15<br>～18 | 冬の水辺で見られる鳥たち |
| 8/21<br>～24 | 休止 | 2/19<br>～22 | コウモリの航空ショー |
| 9/18<br>～21 | 夏の企画展展示紹介<br>「ナウマンゾウの頭部生体模型」 | 3/19<br>～22 | 開館30周年記念<br>春の企画展「学芸員のとっておき」 |

## (15)仕様書以外の事業の実施状況

### ①地域との連携

□三瓶地区交流紙の発行

例年実施してきた地域住民や施設、行政関係者らとの交流会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とし、近況や話題などの情報交換をおこなうために紙面を制作した。各エリアから情報を集約し、最近行った事業や今後予定している活動などを三瓶地区の中で共有できるよう各所に配布した。

□大田市版DMO候補法人

民間主導で観光地域づくりを進めるDMO候補法人(事務局/大田市観光協会内)及び市観光振興課主催の会議に6回出席した。同法人は3月31日付で正式なDMO法人に認定された。

□日本遺産事業

大田市に協力し、6月に認定された「石見の火山が伝える悠久の歴史」の関連事業として、認定記念シンポジウムに参加したほか、市役所職員等の研修会や視察、住民等が対象の講座に協力した。

## ②他施設との連携

□島根県自然系博物施設交流事業(三館交流)

三瓶自然館サヒメルと宍道湖自然館ゴビウス、しまね海洋館アクアスの県立自然系博物館施設が合同で、情報交換会や研修会を実施している。令和2年度～3年度はしまね海洋館アクアスが幹事館となっており、本年度は下記の会議に参加した。

＊学芸担当者会議

実施日：12月17日(木)

会　場：しまね海洋館アクアス

概　要：コロナ禍における運営状況をテーマに情報交換を行った。

□広島市こども文化科学館

広島市こども文化科学館の2階フロアに三瓶自然館のブースを設置している。本年度も随時更新を行い、企画展や天文情報、自然情報などを発信した。

□国立三瓶青少年交流の家

三瓶青少年交流の家主管の地域連携事業「三瓶地域協育ネットワーク事業」に参画し、三瓶小豆原埋没林公園のイベント月イチガクを共同開催した。内容はp27に掲載。

## ③各種研修

□博物館実習の受入

・宮崎大学　　8月11日(火)～ 8月17日(月)　実習生： 1人

・広島大学　　8月11日(火)～ 8月17日(月)　実習生： 1人

・島根大学　　10月30日(水)～11月 4日(月)　実習生：14人

□教育関係研修の受入

・教員免許状更新講習(主催：国立三瓶青少年交流の家)

実施日：9月23日(月・祝)

内　容：子ども達がワクワクする自然観察の技術【講義・実習】

## ④行政等への協力

□各種委員会等の受諾

| 名　　称 | 氏　名 | 期　　間 | 依　頼　元 |
|---|---|---|---|
| 大田市環境審議会委員(副会長) | 酒 井 浩 純 | H27. 7. 1 － R 5. 3.31 | 大田市長 |
| 国立三瓶青少年交流の家施設業務運営委員会委員 | 酒 井 浩 純 | H28. 4. 1 － R 4. 3.31 | 国立三瓶青少年交流の家所長 |
| 大田商工会議所参与 | 酒 井 浩 純 | H28.11. 1 － R 4.10.31 | 大田商工会議所会頭 |
| 三瓶山広域ツーリズム振興協議会監事 | 酒 井 浩 純 | H27. 7. 1 － | 三瓶山広域ツーリズム振興協議会会長 |
| 三瓶小豆原埋没林保存検討委員会委員 | 酒 井 浩 純 | H27. 7.25 － R 3. 7.24 | 島根県知事 |
| 島根県立三瓶自然館ビジュアルドーム鑑賞環境向上業務企画提案競技審査会委員 | 酒 井 浩 純 | R 3. 3. 4 － R 3. 3.18 | 島根県環境生活部長 |
| さんべ縄文の森ミュージアム解説展示機能強化業務企画提案競技審査会委員 | 酒 井 浩 純 | R 3. 3. 4 － R 3. 3.18 | 島根県環境生活部長 |
| 出雲市文化財保護審議員 | 中 村 唯 史 | R 1. 6. 1 － R 3. 5.31 | 出雲市長 |
| 江津市文化財保護審議員 | 中 村 唯 史 | H27. 4. 1 － R 3. 3.31 | 江津市長 |
| 大田市社会教育委員 | 中 村 唯 史 | R 2. 2. 1 － R 4. 1.31 | 大田市長 |
| 琴ヶ浜保存活用計画策定委員 | 中 村 唯 史 | R 2. 3. 1 － R 3. 3.31 | 大田市長 |
| さんべ縄文の森ミュージアム解説展示機能強化業務企画提案競技審査会委員 | 中 村 唯 史 | R 3. 3. 4 － R 3. 3.18 | 島根県環境生活部長 |
| 希少野生動植物種保存推進員 | 井 上 雅 仁 | H21. 7. 1 － | 環境大臣 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 島根県自然環境保全審議会委員 | 井 上 雅 仁 | H21.11.12 ― R 4. 2.11 | 島根県知事 |
| 石見銀山遺跡整備検討委員会委員 | 井 上 雅 仁 | H20.10.20 ― R 3. 9.30 | 大田市教育委員会教育長 |
| 島根県環境影響評価技術審査会委員 | 井 上 雅 仁 | H24. 1. 1 ― R 5.12.31 | 島根県知事 |
| 島根県農業農村整備事業環境情報協議会委員 | 井 上 雅 仁 | H24. 8.29 ― R 4. 3.31 | 島根県農林水産部農村整備課長 |
| 山陰道益田西道路環境影響評価検討委員会委員 | 井 上 雅 仁 | R 2. 8.25 ― R 3. 3.31 | 国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所 |
| 松江北道路環境影響評価検討会委員 | 井 上 雅 仁 | H30. 8.29 ― R 3. 3.31 | 島根県松江県土整備事務所長 |
| 島根県農業農村整備事業環境情報協議会委員 | 星野由美子 | H14. 4. 1 ― R 4. 3.31 | 島根県農林水産部農村整備課長 |
| 自然観察指導員講習会全国講師 | 星野由美子 | H16. 4. 1 ― | 公益財団法人日本自然保護協会 |
| 島根県環境影響評価技術審査会委員 | 星野由美子 | H17. 1. 1 ― R 5.12.31 | 島根県知事 |
| 島根県自然環境保全審議会委員 | 星野由美子 | H26. 1.16 ― R 4. 2.11 | 島根県知事 |
| 島根県国土利用計画審議委員 | 星野由美子 | H28.10.25 ― R 4.10.24 | 島根県知事 |
| 島根県満喫プロジェクト地域部会委員 | 星野由美子 | H28.10. 6 ― | 島根県環境生活部長 |
| 斐伊川水系生態系ネットワーク協議会地域づくり部会雲南圏域ワーキング | 星野由美子 | H30. 2 ― | 雲南市 |
| 島根天文協会会長 | 竹 内 幹 藏 | H17. 6 ― | 島根天文協会 |
| 日本天文教育普及研究会中国四国支部代議員 | 竹 内 幹 藏 | H30. 7. 1 ― R 4. 6.30 | 一般社団法人日本天文教育普及研究会 |
| 島根県立三瓶自然館ビジュアルドーム鑑賞環境向上業務企画提案競技審査会委員 | 矢 田 猛 士 | R 3. 3. 4 ― R 3. 3.18 | 島根県環境生活部長 |

## ２．三瓶小豆原埋没林公園

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い4月18日から5月31日まで休業となり、再開後は対面での解説を原則中止するなど感染症への対策を行いながら運営を行った。

年度当初にガイダンス室が完成し、7月23日に島根県主催による記念式典の開催において「さんべ縄文の森ミュージアム」の施設愛称が発表された。学校団体への解説や講座型イベント等、従来は実施が難しかった事業が可能になり、施設の機能が向上した。

全国で観光動向が著しく落ち込む状況にあって、夏頃には県外からの観光客を含む利用状況が回復傾向となり、9月以降は前年とほぼ同等の利用実績になった。

また、三瓶小豆原埋没林を中核とした「石見の火山が伝える悠久の歴史」が、6月19日に日本遺産に認定された。

### (1) 普及啓発

#### ①常設展示

大小2棟の地下展示室において、三瓶小豆原埋没林を発掘状態で現地展示している。大展示棟（縄文の森発掘保存展示棟）では、スギ3本、広葉樹4本の立木のほか、流木群を展示している。観覧者は地表下約12ｍの見学デッキから見学できる。小展示棟は、三瓶自然館展示標本の根株があり、地下約13.5ｍの床面で間近で見学できる。

#### ②展示解説

コロナ対策で一般団体等への解説を中止したが、学校団体等の学習利用については実施した。県内、近県の複数の小中学校が修学旅行として利用したことから、学校の利用実績は例年に比べ大幅に増加した。

高等学校　　2件（125人）
中学校　　2件（127人）
小学校　　19件（987人）

#### ③イベント

□月イチガク「消えた湖･波根湖」
実施日：6月13日（土）
参加者：14名
内　容：大田市東部の波根湖の自然史と干拓について紹介。

□月イチガク「巨木･巨石と古代の自然観」
実施日：7月11日（土）
参加者：21名
内　容：平野芳英氏（荒神谷博物館）を招き、自然観から生まれた巨石信仰などを紹介。

□月イチガク「大田市の原始･古代」
実施日：8月8日（土）
参加者：9名
内　容：野島智実氏（大田市教育委員会）を招き、発掘調査から明かされた歴史を紹介。

□石ころ鑑定会
実施日：8月9日（日）、10日（月）
参加者：9名
内　容：9日は参加者持参の石を鑑定する鑑定会、10日は石に関する座学として実施。

□埋もれ木サミットin大田

実施日：10月3日(土)

参加者：99名

内　容：島根県と大田市の協力を得て、石須秀知氏(魚津埋没林博物館)、平塚幸人氏(仙台市富沢遺跡保存館)を招き、大田市駅前のあすてらすのホールを会場にシンポジウム形式で開催した。

□月イチガク「島根の縄文時代①自然の風景」

実施日：10月17日(土)

参加者：9名

内　容：環境変化に伴って大きく変化した縄文時代の地形と遺跡の消長を紹介。

□月イチガク「吉永陣屋と銅山」

実施日：11月28日(土)

参加者：17名

内　容：大田市川合町で吉永藩関連地などを歩くフィールドワーク。

□月イチガク「島根の縄文時代②人々の暮らし」

実施日：12月12日(土)

参加者：16名

内　容：幡中光輔氏(出雲市教育委員会)を招き、縄文時代に関する最新の研究成果を紹介。

④啓発事業

□出前授業

学校名：大田市立久手小学校

実施日：6月5日(金)

内　容：地域学習として三瓶山を紹介した。同校では児童の一部が地域学習のテーマに三瓶山を選択し、夏休みに複数回、個別に学習に訪れた。

## (2)埋没木の保存検討に関する事項、保存処理、モニタリング、調査等

### ①令和2年度三瓶小豆原埋没林埋没木保存処理業務

島根県から受託し、倒木3本のトレハロース処理を実施した。園地内では、埋め戻し埋没木が地表水が供給する酸素によって劣化することを防ぐ目的で、保存池及び遮水シートの設置が県により実施された。この対策の効果を検証するため、溶存酸素濃度の測定を1月から開始した。昨年度まで実施していた酸化還元電位(ORP)は終了。

### ②三瓶小豆原埋没林保存検討委員会

保存池の設置等の対策事業が途中段階であり、コロナ禍の状況も考慮され、本年度は開催されなかった。

## ３．施設利用許可業務

### (1)休館日等

【三瓶自然館】

①開館日

◆令和2年度開館日数：246日　　※条例上は298日

※条例で定められた休館日
・7月21日から8月31日までの間を除く火曜日(祝日の場合は翌平日)
・6、9、12、3月の第1月曜日から5日間(メンテナンス休館)
・12月29日から1月3日まで

□県の要請により休館した日(54日)

・展示更新工事のため、令和2年4月1日(水)～令和2年4月15日(水)を休館。(条例で定められた休館日を除く。)
・コロナウイルス感染症の拡大防止のため、令和2年4月16日(木)～令和2年5月31日(日)を休館。

□条例で定められた休館日を変更した開館日(8日)

・当初の春期企画展終了後のメンテナンス休館日を来館者サービスのため、6月18日(木)、6月19日(金)を開館。
・夏期企画展の開催期間を9月27日までとし、期間中の7月21日(火)及び9月7日(月)、9日(水)～11日(金)の5日間を開館。
・メンテナンス休館を変更により、6月1日(月)、6月3日(水)～5日(金)を開館、令和3年1月2日(土)、3日(日)を来館者サービスのため開館。

□条例で定められた開館日を変更した休館日(6日)

・条例で定められた開館日の6月15日(月)、6月17日(水)、12月28日(月)を休館する。
・9月メンテナンス休館変更に伴う代替日として、9月28日(月)、9月30日(水)～10月2日(金)を休館。
・利用者に自然災害による危険が及ぶ可能性を回避するため、9月7日(月)は強力な台風により、1月8日(金)は豪雪により休館。

②開館時間

条例によるのとおり開館時間は9:30～17:00とした。また、コロナウイルス感染症の拡大防止のため、延長開館の実施は見送った。

③早朝開館

開館時間前の来館を希望された場合、事前の予約に応じて早朝開館をすることとしているが、当年度は利用がなかった。

【三瓶小豆原埋没林公園】

①開園日

◆令和2年度開園日数：261日　　※条例上は298日

※条例で定められた三瓶小豆原埋没林公園の休園日
・7月21日から8月31日までの間を除く火曜日(祝日の場合は翌平日)
・6、9、12、3月の第1月曜日から5日間(メンテナンス休館)
・12月29日から1月3日まで

□条例で定められた休園日を変更した開園日(11日)

・来園者サービス及び自然館休館を補うため、条例で定められた休園日のうち、6月

メンテナンス休園(6月1日(月)、3日(水)～6日(金))、9月メンテナンス休園(9月7日(月)、9日(水)～11日(金))を開園。
・来館者サービスのため、7月21日(火)、1月2日(土)、1月3日(日)を開園。

□条例で定められた開園日を変更した休園日(3日)
・利用者に自然災害による危険が及ぶ可能性を回避するため、9月7日(月)は強力な台風により、1月8日(金)は豪雪により休園。
・運営の効率性を鑑み、12月28日(月)を休園。

**②開園時間**

条例による開館時間は9:30～17:00であるが、近隣宿泊者の取り込みを狙い、すべての開館日で開館時間を30分早め、9:00～17:00とした。

## (2) 利用料金

「わかりやすいこと」「利用しやすいこと」「合理的であること」を踏まえた、令和2年度の利用料金は下記のとおりである。

| 施設の種別 | | 利用区分 | 通常期 | 春・冬期企画展開催時期 | 夏期企画展開催時期 |
|---|---|---|---|---|---|
| 観覧料(個人) | 三瓶自然館 | 一般 | 400 | 600 | 700 |
| | | 小中高校生 | 200 | | |
| | 天体観察 | 一般 | 300 | | |
| | | 小中高校生 | 100 | | |
| | 埋没林公園 | 一般 | 300 | | |
| | | 小中高校生 | 100 | | |
| 施設貸切利用料(1時間あたり) | レクチャールーム | | 1,300 | | |
| | ビジュアルドーム | 入場料徴収 無 | 2,500 | | |
| | | 入場料徴収 有 | 5,000 | | |
| 年間パスポート | | 一般 | 1,500 | | |
| | | 小中高校生 | 500 | | |

※20名以上の団体は2割引(観覧料のみ)

## (3) 利用料金の減免

その他の期間の児童生徒の教育課程の来館、身体障害者手帳の交付者など、減免対象者は利用料金を減免した。

## (4) 利用の許可

施設利用の申し出に対して、利用目的等に応じて許可の可否判断を含め、適切な事務手続きを行った。

### (5)施設の貸出など

・施設の貸出を行う場合は、利用者が利用の目的を十分に果たせるように利用方法や設備について丁寧な指導、助言を行った。
・受付業務にあたっては、受付窓口においてアテンダントが対応したほか、必要に応じて他のスタッフが補助し、利用者が気持ちよく施設を使用できるよう対応した。
・利用施設等に応じて、利用申請の書類を常備し、迅速な手続を行った。
・利用者にわかりやすいよう、利用方法の手引きを作成し、誰でも閲覧可能な状態で公開した。

様式４－２

## 不利益処分に対する処分基準

（整理番号：001）

平成27年4月1日

| | |
|---|---|
| １．根拠規程等 | 島根県立三瓶自然館及びその付属施設の設置及び管理に関する条例第15条 |
| ２．不利益処分の概要 | 許可の取り消し、条件の変更 |

３．処分基準（未設定の場合はその理由）

使用許可の取り消しについては、施設内の秩序の維持の観点から措置を行うかどうか判断することとなるが、違反者の瑕疵の程度や、他の利用者への迷惑度、自然館等の施設等の棄損の度合いなど、様々な状況を考慮して客観的に判断されなければならない。

また、管理上の必要性により使用許可条件の変更を要する状況を予測することは困難であり、個別の事例により公益性等を考慮して判断せざるを得ない。

よって、一律に基準を設定することは困難である。

（許可の取消し等）

第15条　指定管理者は、前条第1項の許可を受けた者が、次の各号のいずれかに該当するときは、その者に対して、同項の許可を取り消し、同条第3項の規定により許可に付した条件を変更し、又は利用の中止若しくは自然館等からの退去を命ずることができる。

(1)この条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

(2)前条第3項の規定により許可に付した条件に違反したとき。

(3)偽りその他不正の手段により許可を受けたとき。

| | |
|---|---|
| ４．処分を行う施設名 | 島根県立三瓶自然館 |
| ５．指定管理者の担当部署 | 公益財団法人しまね自然と環境財団 総務課 |

様式２－２

# 申請に対する審査基準

（整理番号：002 ）

平成31年4月1日

| | |
|---|---|
| １．根　拠　規　程　等 | 島根県立三瓶自然館及びその付属施設の設置及び管理に関する条例第14条第1項 |
| ２．許 認 可 等 の 種 類 | 施設の利用許可 |

３．審　査　基　準

次の各号の一に該当すると認めるときは、使用の許可をしない。

１　公の秩序又は善良な風俗を害する恐れがあるとき。

２　暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の財産上の利益になるおそれがあると認められるとき。

３　自然館等の施設又は設備を損壊するおそれがあると認められるとき。

４　その他管理上の支障があるとき。

（利用の許可）

第14条　有料施設等を利用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

| | |
|---|---|
| ４．標 準 処 理 期 間 | 10日間 |
| ５．申　　請　　先 | 島根県立三瓶自然館又は各利用施設 |
| ６．処 分 を 行 う 施 設 名 | 島根県立三瓶自然館又は各利用施設 |
| ７．指定管理者の担当部署 | 公益財団法人しまね自然と環境財団　企画情報課 |

様式２－２

# 申請に対する審査基準

（整理番号：003 ）

平成31年4月1日

| | |
|---|---|
| １．法令名・根拠条項 | 島根県立三瓶自然館及びその付属施設の設置及び管理に関する条例第17条 |
| ２．許認可等の種類 | 利用料金の減免 |

３．審査基準

１　島根県立三瓶自然館及び附属施設の設置及び管理に関する条例施行規則第4条表1から4に定めるもの

判断基準…同規則に定める区分に該当するとき。

減 免 額…同規則に定める額(全額、1/2の額、2割)

２　同条表5に定めるもの

(1)島根県等行政からの要請に基づくもの(例:児童福祉週間、老人週間、身体障がい者福祉週間、遣島使カード等)

判断基準…指定管理施設の経営に支障がないとき。

減 免 額…観覧料の全額、1/2の額、2割

(2)広報目的のもの(例:各メディア広報による特典等)

判断基準…広報対象が広く一般であるとき又は県立施設の広報として適切であるとき。

減 免 額…観覧料の全額又は2割

(3)指定管理者の事業展開(他施設等との連携含む)又は当該施設の利用促進を図る目的のもの(例:企画展招待券、島根県立施設等との連携割引等)

判断基準…指定管理施設の経営に支障がないとき。

減 免 額…観覧料の全額又は2割

(4)サービス向上目的のもの(例:観光バス等の運転手、添乗員及びタクシー運転手等)

判断基準…指定管理施設の経営に支障がないとき。

減 免 額…観覧料の全額又は2割

なお、各事例は突発的に要請又は実施の必要が生じることもあり、限定的な列挙は困難である。
また、経営への支障は、1を除く減免額総額の年間見込み額が300万円を超える場合に考慮する。

（利用料金等の減免）

第17条　指定管理者は、規則の定めるところにより、利用料金等の減免をすることができる。

| | |
|---|---|
| ４．標準処理期間 | 10日間 |
| ５．申請先 | 観覧料：島根県立三瓶自然館又は埋没林公園<br>利用料：島根県立三瓶自然館 |
| ６．処分を行う施設名 | 観覧料：島根県立三瓶自然館又は埋没林公園<br>利用料：島根県立三瓶自然館 |
| ７．指定管理者の担当部署 | 公益財団法人しまね自然と環境財団　企画情報課 |

様式２－２

# 申請に対する審査基準

（整理番号：004 ）

平成27年4月1日

| | |
|---|---|
| １．法令名・根拠条項 | 島根県立三瓶自然館及びその付属施設の設置及び管理に関する条例第18条 |
| ２．許認可等の種類 | 利用料金等の還付 |

３．審　査　基　準（未設定の場合はその理由）

第18条第1項については、本人の責めに帰することができない理由の発生状況は、様々なケースが想定され、また全部還付･一部還付を含めた｢還付する、しない｣の判断は、施設の使用又は観覧行為に対し、時間的、空間的な制約をどれだけ受けたかにより、客観的、合理的に判断されなければならない。

しかし現実には、このような判断は非常に相対的、流動的なものとなるため、一律に基準を設けることは困難である。

第18条第2項についても、同様に個々の事例により客観的に判断されるべきものであり、一律に基準を設けることは困難である。

（利用料金等の不還付）

第18条　既に納入された利用料金等は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(1)利用料金等を納入した者が、その責めに帰することができない理由により、有料施設等を利用することができなくなったとき、天体運行の投影、全天周映画若しくは展示物を観覧することができなくなったとき、自然館の観察施設を利用して天体を観覧することができなくなったとき、又は埋没木等を観覧することができなくなったとき。

(2)第21条の規定により有料施設等の利用が禁止され、又は制限されたことにより当該有料施設等が利用できなくなったとき。

| | |
|---|---|
| ４．標準処理期間 | 10日間 |
| ５．申請先 | 島根県立三瓶自然館 |
| ６．処分を行う施設名 | 島根県立三瓶自然館 |
| ７．指定管理者の担当部署 | 公益財団法人しまね自然と環境財団　総務課 |

様式２－２

# 申請に対する審査基準

（整理番号：005 ）

平成31年4月1日

| | |
|---|---|
| １．法令名・根拠条項 | 島根県立三瓶自然館及びその付属施設の設置及び管理に関する条例第19条第1項 |
| ２．許認可等の種類 | 営業行為等の許可 |

３．審　査　基　準

次の各号の一に該当すると認めるときは、第19条第1項に掲げる行為を許可する。

Ⅰ　第19条第1項第1号及び第2号について

１　自然館及びその付属施設の設置目的に沿った行事等の開催の案内のための広告物の表示、宣伝活動をする場合。

２　利用者への自然に関する情報提供や、啓発を図るための公共性の高い広告物の表示、宣伝活動をする場合。

３　国、県、他の地方公共団体、その他の公共団体又は公益財団法人しまね自然と環境財団が主催又は共催の行事開催時において、利用者への便宜供与、利用促進のための物品の販売、その他の営業行為を行う場合。

４　自然館及びその付属施設の利用者の便宜供与のため、物品の販売、その他の営業行為を行う場合。

５　その他特に必要があると認められる場合。

Ⅱ　第19条第1項第3号について

１　自然館及びその付属施設の設置目的に沿った行事等を開催する場合。

２　国、県、他の地方公共団体、その他の公共団体又は公益財団法人しまね自然と環境財団が主催又は共催により公用又は公共用の目的で行事を開催する場合。

３　国立公園、三瓶フィールドミュージアムの適正な利用の促進に寄与すると認められる行事を開催する場合。

４　自然に関する学習･啓発を図る目的で展示会等を開催する場合。

５　その他特に必要があると認められる場合。

（行為の制限）

第19条　　自然館等において、次に掲げる行為をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(1)広告物を表示し、又は宣伝活動をすること。

(2)寄付金の募集、物品の販売その他これらに類する行為をすること。

(3)集会、競技会、展示会その他の催しをすること。

| | |
|---|---|
| ４．標準処理期間 | 10日間 |
| ５．申請先 | 島根県立三瓶自然館 |
| ６．処分を行う施設名 | 島根県立三瓶自然館 |
| ７．指定管理者の担当部署 | 公益財団法人しまね自然と環境財団　企画情報課 |

## ４．施設の維持管理に関する業務

平成27年度から令和4年度までの指定管理施設･設備の維持管理は、「島根県立三瓶自然館及びその附属施設の管理運営に関する仕様書･協定書(以下「仕様等」)」を遵守し、現指定管理申請時(平成26年10月)に策定した平成27年度から令和4年度までの管理運営業務の基本方針に基づき、各年度当初に事業計画を定め、業務にあたることとしている。

【指定管理期間での管理業務基本方針】
・管理者の都合ではなく利用者のための管理
・県民の財産をお預かりしている意識
・自然環境や地球環境に優しい管理

【当年の概況】
新型コロナウイルスの感染防止対策に追われた1年となった。基本的に県の指導のほか「博物館における新型コロナウイルス感染予防防止ガイドライン(日本博物館協会)」に沿って、館内及び園内の手すり等の消毒作業の実施、飛散防止板や換気のための網戸の設置など、様々な対策を行った。

また、当財団の管理地及び周辺の大田市道･三瓶高原線(以下、「市道」)で危険木や倒木が多く発生しており、令和2年6月には市道を走行中の車に木が倒れ、全損する事故があった。幸いケガ人はいなかったが、財団では周辺施設とともに強く市へ危険性を訴え、令和2年10月に市が実施した危険木合同パトロールに参加するなど、市道の危険木管理に協力した。

### (1)全施設共通業務

#### ①利用者管理業務

令和2年6月に屋外イベントの参加者が足の怪我をする事故があり、指定管理者として誠意と責任を持って対応した。その他の館内外での転倒等による軽微なケガ、利用者からのクレーム、要望等についても適切な対応に努めた。

新型コロナウイルス感染症対応として、利用者が密状態にならないよう館内放送で注意を促すほか定期的な消毒、換気などの対策を行った。

また、事故を未然に防ぐために、定期的な巡視、見廻りにより危険箇所等の発見や対処も行ったほか、研修により、職員のスキルアップ、危機管理意識の維持に努めている。

■主な実施内容：職員巡視による利用者の退館･退園チェック、施錠の確認(毎日)
普通救命講習(1月)、5S活動、消防･避難誘導訓練(各施設で6月、10月ほか)、不審者対応訓練(12月)等

#### ②清掃業務

観覧施設として、利用者にとって快適な衛生環境を維持するよう実施した。実施回数、場所等は状況に応じて加減し、効率的な費用対効果も図っている。

また、リニューアルオープン以降(6月～)、新型コロナウイルス感染症対策として館内の手すり等の消毒作業を実施した。

■主な実施内容：日常清掃(毎日)
床洗浄･ワックス塗布　(5～6月、9月～10月)
ブラインド等除塵　(9月)
ガラス等洗浄　(4月、7月)
特別トイレ清掃　(4月)
フィルター清掃等(6月ほか)
廃棄物処理(適宜)
消毒作業(毎日)

■委託先：㈱ＮＴＴファシリティーズ(㈱中央ビルサービス)

### ③警備業務

機械警備専門業者により、不審者、火災報知器の遠隔監視を行った。当年では警備員の駆けつけが6回あり、いずれも誤報だったが、その都度、適切な対応を取った。

なお、誤報の原因は停電(電力会社原因)による異常発報のほか、センサーの誤作動によるものとなっている。

また、GWや夏休み期間等の繁忙期には、駐車場に警備員を配置して事故のないように努めているが、当年ではコロナの影響により繁忙日の予想が難しく、また秋以降は学校利用増加に伴うバス駐車の激増など、例年とは異なる対応が多かった。

■委託先　機 械 警 備：㈱ＮＴＴファシリティーズ(北陽警備保障㈱)
　　駐車場警備：㈱ＮＴＴファシリティーズ(㈱ケイショウ、企業警備保障㈱)

### ④業務車両の管理

各車両は、車検、定期点検、補修等を定期的に行うとともに、万一の事故に備えた任意保険の付保、道路交通法に定められる安全運転管理者の配置など、適切な車両管理、運行管理に努めた。

また、島根県等が実施する「しまね安全ドライブ・コンテスト2020」に全職員で参加し、安全運転意識の徹底を推進した。

■管理車両　業務車両：11台(県有車両2台(うちバス1台)、財団所有8台、借用1台)
■事 故 等　業務車両： 2件(雨天時スリップ、バッテリー上がり)
　　自家用車： 5件(動物関連による脱輪、スリップなど)
■主な実施内容：各車両の点検、法定点検(各車毎)
　　安全運転管理者講習受講(5月)
　　しまね安全ドライブ・コンテストへの参加(7月～12月)

### ⑤フィールド管理

管理域(三瓶山北の原～東の原)において全3回の刈り払い作業を実施したほか、三瓶山登山道(姫逃コース、名号コース)の定期的な点検、風倒木等の処理作業を行い、来館者・来園者、登山者の快適な利用に資するよう環境管理を行った。

なお、これらの作業にあたっては、自然公園法の指定植物、レッドデータブックに掲載される稀少植物の取り扱いに細心の注意を払っている。

令和2年10月、草刈作業が原因と思われる飛び石により、利用者の車の窓ガラスを破損させる事故があった。指定管理者として責任と誠意ある対応に努めるとともに道路近辺の草刈作業を実施する場合、周りをビニールシートで覆うなどの再発防止策を徹底することとした。

■主な実施内容：草原域及び公園域の草刈(全刈3回/年、部分刈適宜)
　　登山道の巡視及び軽微修繕(2回/年)
　　林間域、施設周辺の倒木及び危険木処理(適宜)
　　野外歩道類の維持管理(適宜)
　　駐車場等の除雪(適宜)

### ⑥軽微修繕

障害の発生した設備・備品等について、1件10万円未満のものは指定管理者で対応し、それ以外のものは県へ速やかに報告するとともに、修繕対応案の提示を行った。

また、次年での開館30周年を前に、傷んだ内壁の補修や軽備品(会議テーブル、展示用パネルなど)の更新などを積極的に行った。

■修繕状況：三瓶自然館……31件（内壁塗装など）
　　埋没林公園……5件

⑦資格者の配置

㋐常駐配置義務付のもの

・防火管理者(三瓶自然館)……熊 谷 正 浩(企画情報課)
・　　〃　　(埋没林公園)……大野志津香(企画情報課)
・安全運転管理者 ……石 田 浩 二(総務課)
・危険物取扱者 ……山本健太郎(　〃　)
・ゴンドラ管理者 ……中 村 唯 史(企画情報課)

㋑再委託業者による配置可のもの(カッコ内は直接実施業者)

・建築物環境衛生管理技術者……㈱NTTファシリティーズ
・専用水道管理者 ……㈱NTTファシリティーズ(山陰クボタ水道㈱)
・消防設備点検資格者 ……㈱NTTファシリティーズ(ホーチキ㈱)
・浄化槽管理者 ……㈱NTTファシリティーズ(クリーン㈱)
・昇降設備管理者(三瓶自然館)……㈱NTTファシリティーズ(㈱日立ビルシステム)
・　　〃　　(埋没林公園)……㈱NTTファシリティーズ(三菱電機ビルテクノサービス㈱)
・電気設備主任技術者 ……(一財)中国電気保安協会

## (2)三瓶自然館関係

### ①指定管理者による点検

| 項　　目 | 実　施　状　況 |
|---|---|
| 建築物全般、各設備 | 目視点検、動作確認(随時) |
| 上水道設備管理 | 上水検査(毎日)<br>検針(1回/月) |
| 浄化槽管理 | 三次処理槽草刈(2回/年)<br>検針(1回/月) |
| 自家用発電機(本館・新館) | 目視点検(1回/週) |
| 空調関連設備(全館) | 目視点検(毎日) |
| 空調オイルタンク(本館・新館) | 目視点検(1回/週) |
| 草刈(自然館周辺、北の原、ヘルシートレーリングコース) | 野外草原域及び公園域の芝刈、草刈及び除草(全刈3回/年、部分的に1回/月、5～11月)<br>野外林間域の倒木及び危険木処理(随時)<br>野外歩道類の維持管理、危険箇所の報告(随時) |
| 登山道(姫逃コース、名号コース)、山頂小屋 | 巡視、軽微修繕(2回/年)<br>野外歩道類の維持管理、危険箇所の報告(随時) |
| 除雪(駐車場、施設周辺等) | 随時 |
| 館内消毒作業 | 1日3回(毎日) |

### ②委託業者による点検

| 項　　目 | 実　施　状　況 | 委　託　業　者 |
|---|---|---|
| 施設清掃(全館) | 日常清掃(随時、部分的に1～3回/週)<br>定期清掃(3回/年、部分的に1～2回/年)<br>特別清掃(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 衛生管理業務 | ねずみ・害虫駆除(2回/年)<br>空気環境測定(6回/年)<br>雨水処理層清掃(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 上水道管理 | 電気計装・制御盤、ポンプ類点検(総合点検1回/年、定期点検6回/年)<br>配水池の清掃・水質検査(1回/年)<br>減菌器点検(6回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |

| | | |
|---|---|---|
| 専用水道水質検査 | 浄水水質検査(項目毎に1～12回/年)<br>原水全項目検査(1回/年)<br>クリプト指標菌(4回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 浄化槽維持管理・機能調整 | 機器点検・清掃・カス抜き取り等(1回/週)<br>水質検査(流入水2回/年、放流水1回/月)<br>機能調整(1回/月) | ㈱NTTファシリティーズ |
| | 法11条検査(1回/年) | (公社)島根県浄化槽普及管理ｾﾝﾀｰ |
| 自家用電気工作物 | 月次点検(1回/月)、年次点検(1回/年) | (一財)中国電気保安協会 |
| 消防設備 | 外観機能点検(1回/年)、総合点検(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 防火対象物定期点検 | 定期点検(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 収蔵庫消火システム | 機器点検(1回/年)、総合点検(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 非常用発電設備 | 機器点検(1回/年)、総合点検(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 灯油焚冷温水発生機(本館) | 冷房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年)<br>暖房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 木質ペレット焚冷温水発生機(本館) | 冷房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年)<br>暖房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 灯油焚冷温水発生機(新館) | 冷房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年)<br>暖房シーズンイン・オン・オフ点検(各1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 空調関連設備(本館・新館) | 機器点検(2回/年)<br>室外機点検(4回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 空調オイルタンク類(本館・新館) | 清掃・配管漏洩検査(1回/年)<br>機器点検、機能試験(2回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 昇降機設備(本館・新館) | 月次点検(1回/月)、総合点検(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| ゴンドラ | ゴンドラ管理者(財団職員)による定期点検<br>※現在法定点検を要しない機器を使用中 | ― |
| 衛生ポンプ設備 | 機能点検・調整(2回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 全天候スカイカメラ | 機能点検・調整(1回/月) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 展示設備(本館) | 機器点検・調整(2回/年) | ノムラテクノ㈱ |
| 展示設備(新館) | 機器点検・調整(1回/年) | ㈱丹青社 |
| 燻蒸設備 | 機器点検・調整(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 収蔵庫燻蒸 | ブンガノン燻蒸(1回/2年) | 日本液炭㈱ |
| 総合映像システム | 機器点検・調整(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| プラネタリウム設備 | ジェミニスターⅢ点検・調整(2回/年)<br>音響設備点検・調整(1回/年) | コニカミノルタプラネタリウム㈱ |
| 全天周映画設備 | 機器点検・調整(1回/年) | 協和通信工業㈱ |
| 60cm反射望遠鏡 | 機器点検・調整(2回/年) | ㈱西村製作所 |
| 20cmクーデ望遠鏡 | 機器点検・調整(1回/年) | ㈱五藤光学研究所 |
| 天体ドーム設備 | 機器点検・調整(1回/年) | アストロ光学工業㈱ |
| スライディングルーフ | 機器点検・調整(2回/年) | ㈱角藤　可動建築部 |
| 駐車場警備 | 警備員による駐車場整理(204人/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 機械警備 | 火災・夜間侵入監視(毎日) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 他建築設備関連 | 自動ドア点検・調整(1回/年)<br>排煙窓・非常灯動作点検(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 館内消毒作業 | 1日2回(毎日) | ㈱NTTファシリティーズ |

## (3) 三瓶小豆原埋没林公園関係

### ①指定管理者による点検

| 項　　目 | 実　施　業　務 |
|---|---|
| 建築物全般、各設備 | 目視点検・動作確認(随時) |
| 上水道設備管理 | 目視点検(1回/週)<br>塩素投入(随時) |
| 自家用発電設備 | 目視点検点検(1回/週) |
| 地下水監視 | 水位(1回/週)<br>水質(1回/月) |
| 除雪 | 駐車場(随時) |
| 園内消毒作業 | 1日3回(毎日) |

### ②委託業者による点検

| 項　　目 | 実　施　状　況 | 委　託　業　者 |
|---|---|---|
| 施設清掃(管理棟、大・小展示棟) | 日常清掃(随時、部分的に1～3回/週)<br>定期清掃(2回/年、部分的に1回/年)<br>特別清掃(2回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 上水道管理 | ポンプ類点検、受水槽清掃、滅菌器点検(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 合併浄化槽維持管理 | 機器点検・調整、水質検査等(1回/月) | ㈱NTTファシリティーズ |
| | 法11条検査(1回/年) | (公社)島根県浄化槽普及管理ｾﾝﾀｰ |
| 自家用電気工作物 | 月次点検(1回/月)、年次点検(1回/年) | (一財)中国電気保安協会 |
| 消防設備 | 外観機能点検(1回/年)、総合点検(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 非常用発電設備 | 機器点検(1回/年)、総合点検(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 昇降機設備 | 月次点検(1回/月)、総合点検(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 地下水ポンプ | 機器点検・調整(2回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 機械警備 | 火災・夜間侵入監視(毎日) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 酸素濃度計 | 機器点検・調整(1回/年) | ㈱NTTファシリティーズ |
| 草刈 | 園地(1回/月、5～11月) | 北三瓶よろず会 |
| 園内消毒作業 | 1日2回(毎日) | ㈱NTTファシリティーズ |

## ５．物品の管理等

(1)協定書第25条により、令和２年度に本事業用として購入等により取得した物品は次のとおりである。

□令和２年度取得物品（取得単価50,000円以上のもの。財団保有）　（金額単位：円）

| 品　　名 | 規　格　等 | 数量 | 単　価 | 取得価額 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| ﾏﾝﾓｽｿﾞｳ1/7ｽｹｰﾙ模型 | (株)西尾製作所 | 1 | 235,400 | 235,400 | 博物標本･展示用 |
| ｾﾝﾀﾞｲｿﾞｳ1/7ｽｹｰﾙ模型 | (株)西尾製作所 | 1 | 214,500 | 214,500 | 博物標本･展示用 |
| ﾅｳﾏﾝｿﾞｳ生体復元模型展示台 | 篠原メタル工房 | 1 | 441,241 | 441,241 | 博物標本･展示用 |
| ﾅｳﾏﾝｿﾞｳ頭部復元模型 | 近 洋二 | 1 | 1,724,000 | 1,724,000 | 博物標本･展示用 |
| 業務用ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ | ThinkBook13S | 1 | 104,500 | 104,500 | |
| 業務用ﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟﾊﾟｿｺﾝ | V530S-071CR | 1 | 162,800 | 162,800 | |
| 編集用ﾊﾟｿｺﾝ | G-Tune PM | 1 | 192,610 | 192,610 | 体験型AR展示製作用 |
| ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ | EB-1780W | 1 | 143,550 | 143,550 | |
| 簡易型α線測定器 | | 1 | 506,000 | 506,000 | 放射線学習 |
| 高性能積算線量計 | NRE84001-21YYY-S | 1 | 184,800 | 184,800 | 放射線学習 |
| 映像編集用ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ | K5-A | 1 | 245,740 | 245,740 | 埋没林公園 |
| 音声解析ｿﾌﾄｳｪｱ | BatSound音声解析ソフト | 1 | 55,660 | 55,660 | |
| 超音波探知機 | EchoMeterTouch2ProforIOS | 1 | 63,740 | 63,740 | |
| 無停電電源装置ﾊﾞｯﾃﾘｰ | | 1 | 56,100 | 56,100 | 大型ドーム映像用 |
| 加湿空気清浄機 | ﾀﾞｲｷﾝMCK70X | 1 | 72,300 | 72,300 | 埋没林公園用 |
| ﾀｯﾁﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ | T2336MSC-2A | 1 | 58,300 | 58,300 | |
| 電子観望用CMOSｶﾒﾗ | ASI294MC | 1 | 91,500 | 91,500 | |
| 小型天体望遠鏡 | StarSenseExplorer DX102A-Z | 1 | 63,800 | 63,800 | |
| 回転式ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ | BB-R936WW | 1 | 77,000 | 77,000 | |
| ｵｰﾌﾟﾝｺﾝﾋﾞ書庫 | OC-KP34SL | 1 | 50,600 | 50,600 | 埋没林公園ガイダンス棟 |
| ﾊｸﾋﾞｼﾝ剥製 | | 1 | 87,000 | 87,000 | 博物標本･展示用 |
| 展示用パネル(有孔ﾎﾞｰﾄﾞ) | | 20 | 63,800 | 1,276,000 | |
| 業務用ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ | ThinkPadE14 | 1 | 89,958 | 89,958 | 天体観察会用 |
| ﾀﾍﾟｽﾄﾘｰ | W4700×H3500 | 1 | 147,400 | 147,400 | 30周年記念 |
| 横断幕 | W3610×H1250 | 1 | 69,300 | 69,300 | 30周年記念 |
| 横断幕 | W6000×H1100 | 2 | 86,350 | 172,700 | 30周年記念 |
| 横断幕 | W5000×H800･W5000×H900 | 2 | 71,500 | 143,000 | 30周年記念 |
| アクリル標本 | 樹脂封入標本植物 | 4 | 59,400 | 237,600 | 博物標本･展示用 |
| パーソナルコンピューター | | 1 | 408,563 | 408,563 | |
| 令和3年春期企画展バーチャルデータ | | 1 | 599,940 | 599,940 | |
| パーティション | | 1 | 583,000 | 583,000 | 埋没林公園救護室 |
| 流し台 | | 1 | 447,700 | 447,700 | 埋没林公園救護室 |
| 合　　計（税込額） | | | | 9,006,302 | |

※償却資産は、取得単価10万円以上の物品(決算書上は固定資産に分類)。

(2)県に帰属する物品は島根県会計規則に基づいて管理を行った。

(3)廃棄した物品は次のとおりである。

□令和２年度廃棄物品 (県有備品)

| 備品番号 | | 備　品　名 | 規　格　等 | 数量 | 配 置 場 所 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1-1-5 | 13 | プレハブ冷蔵庫 | ﾎﾝｻﾞｷPR22CC-1･HU-123R | 1 | 小豆原埋没林公園 | 動作不能のため不要処分 |
| 1-1-5 | 30 | 冷蔵庫 | ﾅｼｮﾅﾙNR-B22T1 | 1 | 小豆原埋没林公園 | 動作不能のため不要処分 |
| 1-1-6 | 156 | 多目的パネル(展示板) | PLUS 長 | 1 | 三瓶自然館 | 代用品更新のため不要処分 |
| 1-1-6 | 177 | 展示板 | ｺｸﾖ | 4 | 三瓶自然館 | 代用品更新のため不要処分 |
| 1-3-2 | 01 | 空き缶圧縮機 | 新富士理工(株)ｼﾞｬｲｱﾝﾄ8 | 1 | 三瓶自然館 | 動作不能のため不要処分 |
| 1-9-3 | 49 | ﾃﾞｼﾞﾀﾙｶﾒﾗ | 富士ﾌｨﾙﾑﾌｧｲﾝﾋﾟｸｽS1PRO | 1 | 三瓶自然館 | 動作不能のため不要処分 |

# Ⅲ．地球環境の保全に関する活動支援事業

## １．事業概要

当財団は、島根県の豊かな自然環境を守り、自然と調和した持続可能な地域づくりを進めるとともに、2015年に「国連持続可能な開発サミット」で採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」を念頭に置いて、地球環境保全及びその他の環境保全に関する普及啓発を行うため、地方自治体などの行政組織や大学などの教育機関をはじめ、様々な地域課題の解決に自ら率先して取り組むNPO法人や任意団体、各種ボランティアなどを支援する中間支援組織として、分野横断的な取り組みや多様な主体との協働を促進し、活動の充実を図った。

また、島根県知事より島根県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、これまで地球温暖化対策に取り組んできた。2015年の「第21回気候変動枠組条約締約国会議（COP21）」で、世界196の国と地域が合意したパリ協定の発効を受け、国が進める温室効果ガス削減目標の達成に向けた国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、県民一人ひとりに脱炭素・循環型社会の実現につながる意識や行動の変化を促すため、様々な主体と協働・連携しながら活動を進めた。

## ２．各事業の詳細

### (1) 家庭向け地球温暖化対策事業

#### ①島根県地球温暖化対策協議会生活部会の運営

島根県地球温暖化対策協議会生活部会の事務局として、同部会に参画する各種団体と連携しながら、生活者の立場で進める地球温暖化防止の県民運動に取り組んだ。

□第1回運営委員会

開　催　日：7月3日（金）
実施方法：コロナウイルス対策のため書面による開催
議　　題：・平成31年度（令和元年度）事業実施報告について
　　・令和2年度事業計画について
　　・令和2年度事業進捗状況について

□第2回運営委員会

開　催　日：3月30日（火）
場　　所：タウンプラザしまね
議　　題：・令和2年度事業実施報告について
　　・島根県環境総合計画について
　　・生活部会の取り組みについて

#### ②エコドライブの推進

環境省他各省庁が連携して取り組む11月のエコドライブ推進月間に合わせ、エコドライブの普及啓発及びエコドライブの実践による$CO_2$削減を目的としたキャンペーンを下記のとおり実施した。

実　施　日：11月10日（松江市）、17日（邑南町）、19日（浜田市）、適宜（安来市、出雲市、大田市、江津市、益田市、奥出雲町）

配 布 数：3,100部
協力団体：安来市、松江市、出雲市、大田市、江津市、浜田市、益田市、奥出雲町、邑南町、安来市地球温暖化対策地域協議会、まつえ環境市民会議、出雲市地球温暖化対策協議会、大田市地球温暖化対策地域協議会、江津市地球温暖化対策地域協議会、浜田市地球温暖化対策地域協議会、益田市地球温暖化対策地域協議会、奥出雲町地球温暖化防止対策地域協議会、邑南町地球温暖化対策地域協議会
場　　所：イオン松江店、ゆめタウン浜田店、道の駅みずほ　など
概　　要：エコドライブの普及啓発及びエコドライブの実践による$CO_2$削減を目的とし、各市町地球温暖化対策地域協議会及び島根県地球温暖化防止活動推進員と協力し、県内の9市町で啓発リーフレットを配布する街頭PR活動を行った。

### ③親子で取り組むもったいない生活事業

幼稚園児、保育園児とその保護者に家庭内で省エネに取り組んでもらえるよう、「親子で取り組むもったいない生活事業」を幼稚園及び保育園を所管する県各課と連携し、各園に参加を呼びかけ、実施した。

#### □親子で取り組むワークシート

期　　間：7月～2月
実 施 園：59園(参加園児数：1,678人、ワークシート回収数：718枚)
削 減 量：2,338kg-$CO_2$
概　　要：幼稚園児、保育園児とその保護者に家庭内で省エネに取り組めるよう、「しまねっこチャレンジ」ワークシートを製作し、希望する幼稚園及び保育園に配布した。実施したワークシートは回収し、取組結果をとりまとめた。

#### □幼･保育園向け親子で取り組むミニエコ講座

期　　間：7月～2月
実 施 園：36園(参加者数：791人)
協　　力：のべ10名の島根県地球温暖化防止活動推進員が活動
概　　要：県内の幼稚園･保育園に呼びかけ、希望した36園でミニエコ講座を実施した。講座では、絵本等の読み聞かせを行った後、布製のバッグに布用マジックで絵を描いて自分だけのマイバッグを製作するワークショップや釣りゲームを通じ資源になるごみについて説明した。

#### □小学生向けワークシート(松江市)

期　　間：7月～9月
実 施 校：32校(参加者数：1,672人、ワークシート回収数：1,194枚)
削 減 量：6,540kg-$CO_2$
協　　力：のべ10名の島根県地球温暖化防止活動推進員が活動
概　　要：松江市内の小学校4年生を対象に省エネワークシートを配布し、家庭における省エネ行動を促した。

#### □小学生向けワークシート(浜田市)

期　　間：7月～9月
実 施 校：15校(参加者数：459人、ワークシート回収数：193枚)
削 減 量：954kg-$CO_2$
概　　要：浜田市内の小学校4年生を対象に省エネワークシートを配布し、家庭における省エネ行動を促した。

## (2) 地球温暖化防止活動推進員の支援

島根県地球温暖化防止活動推進員は、令和2年12月に第10期の推進員が島根県知事より委嘱を受け、44人(令和3年3月31日現在)が県内の各地域で活動を行っている。

島根県から島根県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けている当財団では、その資質向上のための研修の企画・実施を行うとともに、推進員同士の協働・連携を支援し、温暖化防止活動に取り組んだ。

### ①推進員の能力向上

新規推進員の養成や既存の推進員の活動に必要となる資質や知識、スキルの向上を図るため、研修やセミナーを実施した。

◆主な研修

□推進員養成研修

実 施 日：12月5日(土)
場　　所：益田市立保健センター(EAGA)
実施方法：講師はWEB会議システム「Zoom」を用いたオンラインで講演を行い、参加者は会場とZoomを用いたオンラインで参加する方式で実施した。
参 加 者：27名(会場参加19名、オンライン参加者8名)
概　　要：2050年の脱炭素社会の実現するためには、社会システムの変革が必要であることや、そのために推進員としてどのような取組が必要か考える研修を実施した。
講演「気候危機・コロナ危機と社会の大転換」
江守　正多　氏(国立環境研究所地球環境研究センター 副センター長)

□研修「オンライン入門講座 始めてみよう！Zoom」

実 施 日：3月26日(金)
場　　所：島根県立男女共同参画センター(あすてらす)研修室1及び2
参 加 者：10名(会場参加者7名、オンライン参加者3名)
実施方法：講師は会場で講演と演習を行い、参加者は会場とWEB会議システム「Zoom」を用いたオンラインで参加する方式で実施した。
概　　要：急速に普及が進んだオンラインツールのZoomを今後推進員研修や協議などにも取り入れ、活用できるように、使い方の基礎を学ぶ研修を実施した。
講義「オンライン入門講座 始めてみよう！Zoom」
西嶋　一泰　氏(島根県立大学専任講師)

◆中四国ブロックでの広域連携

□中国四国ブロック合同推進員研修

実 施 日：9月(実施予定)
場　　所：広島県内(実施予定)
対　　象：中国四国ブロックの地球温暖化防止活動推進員
概　　要：中四国地域の地域地球温暖化防止活動推進センターが合同で企画し、本地域から推進員が自ら情報発信できる基礎的な力を育てることを目的に、例年合同研修をおこなっており、本年度も開催に向けて協議を行っていたが、新型コロナウイルスへの対策の観点から、中止することとした。

### ②推進員の活動支援

県内で活動する島根県地球温暖化防止活動推進員が連携し、地域での温暖化防止活動を主体的に企画・実施できるよう、推進員のネットワーク化と活動支援を行った。

◆グループ間の情報共有

□サポーターズ連絡会の実施

活動グループ：地域グループ　　（松江・奥出雲・出雲・大田・浜田）
テーマ別グループ（島根版脱炭素事例集作成グループ）

連絡会の実施：第1回　実施日：令和2年10月8日
内　容：令和2年度の活動計画（大田・出雲・奥出雲）
テーマ別グループについて

第2回　実施日：令和3年3月5日
内　容：サポーターズ代表（大橋）・副代表（伊藤・藤原）の選任
令和2年度の地域グループ活動報告（大田・出雲・奥出雲・浜田・松江）
令和2年度のテーマ別グループの活動計画
（島根版脱炭素事例集作成グループ）

概　　要：より地域に密着した温暖化防止活動を促進するため、「しまねエコライフサポーターズ連絡会」で情報共有を行い、推進員の連携を促した。

◆グループによる活動

地域に密着した温暖化防止活動を行うため、居住市町村もしくは隣接する地域でグループを構成したり、同じテーマでテーマ別グループ構成した推進員が連携し、主体的に活動を企画・実施した。活動にあたっては、各グループが企画書及び予算書を作成し、連絡会で合意形成を図った後、活動を実施した。当財団は、事務局として経費の執行や事務処理等を行うことで、グループの円滑な活動を支援した。

内　　容：①幼稚園・保育園でのミニエコ講座の実施、松江市内小学校での省エネチャレンジシート協力、まつえ環境市民会議事業の協力（松江市）
②地域イベントでの地球温暖化の普及啓発、町報に毎月普及啓発コラムの寄稿、掲載、机作りワークショップの開催（奥出雲町）
③ゴミ減量、生ごみ堆肥化の勉強会、コミュニティーセンター・出雲西高でのエコストーブ作りの企画・実施（出雲市）
④竹の利活用の普及啓発イベント実施、保育園でのミニエコ講座の実施（大田市）
⑤保育園でのミニエコ講座、浜田市から依頼された児童クラブや公民館でのミニエコ講座の実施（浜田市）
⑥推進員が各学校に取材・執筆し、脱炭素事例集を作成（事例集）

## ③しまエコユースサポーターの活動支援

若年層による普及啓発効果を期待し、多様な世代との活動の連携を促進するため、県内の大学において環境保全等の活動を行うサークルをしまエコユースサポーターに登録し、活動支援を行うとともに、その活動の様子をSNS等で県民に紹介した。

◆サポーターの活動支援

しまエコユースサポーターに登録したサークルの活動がより県民に支持されるよう、サークルより希望があった際には広報に努めた。また、より世間が注目する環境問題へ意識を向けるよう随時イベントやセミナーの情報提供を行った。

登録団体：島根大学木質バイオマス活用研究会、島根大学エコロジー・ネットワーク、環境倶楽部「しまえっこ」、島根大学環境委員会

内　　容：生活協同組合しまねが発行する機関紙「こーぷしまね8月号」のSDGs特集にて、県内の取り組み事例としてｻｰｸﾙの活動が紹介された。（環境倶楽部「しまえっこ」）

## (3)家庭の省エネ促進支援

家庭のエネルギー使用量や地域性、ライフスタイルに合わせて$CO_2$排出量や光熱費の削減に効果的な対策を提案するうちエコ診断を実施した。

### ①家庭における省エネの見える化の推進

◆家庭エコ診断の実施

うちエコ診断を円滑に実施し、診断内容の向上を図るため、県内の診断実施事務局に登録している診断士を対象に、診断ソフトのバージョンアップにあたっての対応方法やデータの取り扱い、診断技術の向上などについて研修を行った。

□うちエコ診断士の資質向上

実 施 日：10月14日(水)
場　　所：タウンプラザしまね(松江市)
参 加 者：7名(会場参加者5名、オンライン参加者2名)
概　　要：うちエコ診断を円滑に実施し、診断内容の向上を図るため、県内の診断実施事務局に登録している診断士を対象に、診断ソフトのバージョンアップにあたっての対応方法やデータの取り扱い、診断技術の向上などについて研修を行った。
講演「WEB版うちエコ診断」
木場　和義　氏(一般社団法人地球温暖化防止全国ネット)
講演「オンライン診断における診断士の留意点」
真田　由美子　氏(公益財団法人ひょうご環境創造協会)

□うちエコ診断の広報

概　　要：うちエコ診断を広く県民に周知し、受診者拡大を図るため、うちエコ診断について説明したチラシや診断の流れや診断内容を記載した、パンフレット等を配布した。

□診断の実施

実施件数：28件
場　　所：7市町12会場
削 減 量：35,428kg-$CO_2$/年(一世帯あたり、2,725kg-$CO_2$/年･世帯。但し、事後調査の回答を得た13件によるもの。)
診断士数：8人
概　　要：「うちエコ診断」について、実施機関の認定を受け、診断士の登録及び診断業務を行った。県環境政策課、市環境担当課等と連携して受診者を募り、診断士を派遣し診断を行った。診断結果に基づき、対策提案を行うとともに、事後調査を実施し、受診者の対策状況を把握した。

### ②COOL CHOICEセミナーの実施

低炭素型の「製品」、「サービス」、「ライフスタイル」など、地球温暖化対策につながるあらゆる「賢い選択」について知り、誰もが暮らしのなかの様々な場面で実践することを促すため、「COOL CHOICEセミナー」を県内市町村及び地球温暖化対策地域協議会と連携し実施した。

□エコドライブセミナー

実施日と場所：10月3(土)～4日(日)　奥出雲町文化祭　(18名)
11月10日(火)　イオン松江ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞｾﾝﾀｰ　(12名)　※( )内は参加人数。
概　　要：身近にできるCOOL CHOICEとしてエコドライブを知って学べる場として、エコドライブシミュレーターなどを用いた体験を行えるセミナーを行った。

□オンラインセミナー「変身！健康でエコな家！」

実施期間：3年1月14日(木)～2月24日(水)

実施方法：動画配信サイト「YouTube」に講師の講演動画をWEB配信し、「Googleフォーム」によりWEB上でアンケートを実施した。

参 加 者：54名

概　　要：省エネ性能が低い古くて寒い家では、冬季に室温が下がり、健康に悪いことと、カーテン等を使った居室の断熱改善策などを、テキスト及び動画配信を用いて周知した。

講演「寒さのストレスと健康～抵抗力を付けるには」
紫藤　治　氏(島根大学医学部教授)

講演「古くて寒い家を健康住宅へ　～工夫あれこれ」
片寄　洋子　氏(インテリアコーディネータ、アトリエCASA代表)

□公共交通とライドシェア

実施期間：9月～10月

対　　象：県内16市町村

実施方法：オンライン会議システム「V-CUBE」を用いてヒアリングを行った。

概　　要：マイカー利用の見直しや「ノーマイカー」取組の現状を聴取した。

### ③住まいの省エネ推進事業

既設住宅の省エネルギー化を促進するため、断熱対策などエコリフォームの必要性を、熱エネルギー消費が増加する冬季に、実例をもとに県民に広く情報発信した。

□省エネリフォーム研修会「小さなエネルギーで豊かに暮らせる住まい」

実 施 日：11月28日(土)

場　　所：島根県民会館303会議室

実施方法：野池講師はWEB会議システム「Zoom」を用いたオンライン、小澤講師は会場での講演を行い、参加者は会場に集合し受講する方式で実施した。

参 加 者：14人

概　　要：家庭のエネルギー消費量を抑えつつ快適に暮らせるパッシブデザインの住宅づくりについて、基礎知識と中古住宅のリフォーム実践例を紹介し、取り組みを促した。

講演「小さなエネルギーで豊かに暮らせる住まい」
野池政宏氏(Forward to 1985 energy life代表理事)

対談『「古くて寒い家」×「省エネリフォーム」の賢い実例』
小澤浩氏((有)小沢工業／コザワホーム　代表取締役)と野池氏

## (4) 市町村事業の支援

市町村温暖化対策担当課が、限られた人員と予算で効率的な地球温暖化対策事業を実施できるよう事業の企画支援(相談･助言･協力)を行った。

□市町村環境担当者へのヒアリング

場　　所：松江市、安来市、出雲市、大田市、江津市、浜田市、益田市、奥出雲町、飯南町、美郷町、津和野町、吉賀町、海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町

概　　要：各市町村と連携を緊密にし、地域における課題やニーズを把握するため、年度当初に、16市町村の環境担当課にヒアリングを行い、市町村支援の参考とした。

また、地球温暖化対策実行計画の策定、改訂状況や本年度の実施予定の事業内容について聴取し、県や当財団の支援について提案を行った。

□市町村環境担当者研修の実施

実 施 日：2月2日(火)

実施方法：講師、参加者とも、WEB会議システム「Zoom」を用いたオンラインを用いた方式で実施した。

参 加 者：34人

対　　象：市町村環境担当課職員、島根県地球温暖化対策協議会行政部会構成員

概　　要：「SDGs」や「ゼロカーボン」といったトレンドを踏まえ、持続可能な地域づくりにつながる手法を学ぶため、県内の地方公共団体(市町村及び一部事務組合、国の地方機関を含む)の環境担当者を対象とし、新たな知見と具体事例を学ぶ研修会を実施した。

講演「動きだした日本の『ゼロカーボン』」
田浦 建朗　氏(NPO 法人気候ネットワーク)
講演「民生家庭での新たなターゲット『省エネ住宅』とは？」
槇原 章二　氏(鳥取県住まいまちづくり課)
情報提供「島根県環境政策課からの情報提供」
角　俊一　氏(島根県環境政策課)
事例報告「変化する『気候変動』への市民の意識」
葭矢　崇司

□地球温暖化と家庭の省エネ取組に関するアンケート調査

実施期間：令和2年9月～10月　於　島根県安来市内

回 収 率：54％(977／1800 票)

協　　力：安来市環境政策課

概　　要：地球温暖化問題や省エネの取り組みに関する意識調査として、市の住民基本台帳をもとに無作為抽出した1,800件へ調査票を郵送し、アンケートを実施し、結果を取りまとめ、報告書を作成した。報告書については、策定中であった安来市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に資料として、情報提供を行った。

□環境省補助事業(地方公共団体と連携した$CO_2$/排出削減促進事業)採択団体の支援

実施期間：9月～2月(計5回)

対　　象：益田市立安田小学校5年生

協力団体：株式会社キヌヤ、益田市高津学校給食センター、NPO法人コアラッチ、島根県地球温暖化防止活動推進員

概　　要：環境補助事業「地方公共団体と連携した$CO_2$排出削減促進事業」の採択団体である益田市政策企画課が、益田市内の小学校を対象とした環境学習事業を実施するのに伴い、その事業企画と事業実施の支援を行った。

□市町村と連携した地球温暖化啓発パネル展

実施期間：令和2年11月17日～12月6日

場　　所：矢上交流センター(邑南町矢上)、パレット江津(江津市)

概　　要：地球温暖化の現状解説、住まいの省エネや地球温暖化防止活動を紹介した啓発パネル等を、県内の公共施設に掲出した。

## (5)全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)との連携

全国センター(一般社団法人地球温暖化防止全国ネット(平成22年8月設立))との連携に努め、中四国ブロックや他県センターと共通事業への取り組み、情報交換を図った。

全国センター会議：6月、3月にオンラインにて開催(2名参加)。

## (6)複数の情報媒体を活用した情報発信

県民に環境負荷の少ないライフスタイルへの転換や持続可能な地域づくりへの理解を促すため、農業や定住、地域経済など多様な分野で活躍し、県内で注目を浴びる人材を取材対象とし、しまねへの愛着やライフスタイルの有り様と合わせ、自然観や環境観を引き出すことで、環境に対して興味が薄い若年層をはじめ、様々な対象に対して関心を高める情報を発信した。

### ①SNSを用いた情報発信

情報が行き届きにくい対象への発信力を高めるため、facebookやTwitterなどSNSを活用し、県内外の環境情報を発信した。

実 施 数：週1回程度(facebook)、2日に1回程度(Twitter)

概　　要：当財団が実施する環境事業や島根県の環境施策、県内外の注目度が高い環境に関する情報をわかりやすく発信

### ②WEBコラムによる情報発信

地域に根ざした暮らしや地域活動を行う人材を対象に取り上げ、その暮らしぶりや地域への関わりなどを取材するとともに、自然や環境に対する思いについて、SNSやHPなどでWEBコラムとして発信した。また、取り組みに応じてSDGsのアイコンを表示し、地域における持続可能な取り組みへの関心を高めることができるよう工夫した。

タイトル：「しまねを楽しみ、未来へ繋ぐコラム」

| 内　容 | 取材者 | | |
|---|---|---|---|
| 「蜂から始めるエシカルの輪」持続可能な養蜂を目指す | 空水土(ｸｰﾐｰﾄﾞ) | 石田　樹理　氏 | (益田市) |
| 思い出いっぱいの場所で、未来に続く農業を創る！ | GEARFARM | 星野　和志　氏 | (雲南市) |
| みんなで乾杯！クラフトビールで地域の魅力を掘り起こす | 石見麦酒 | 山口　厳雄　氏 | (江津市) |
| この地域で健やかな家をつくる！ | コザワホーム代表 | 小澤　浩　氏 | (松江市) |
| 今が最後のチャンス。持続可能な地域と「自分らしい豊かさ」を見直す | 島根県立大学 | 豊田　知世　氏 | (浜田市) |
| 「１粒の大豆から」美味しいサスティナブルなものづくり | とうふ屋角久 | 角　寛志　氏 | (安来市) |
| まずは1歩を踏み出して挑戦！ﾜｸﾜｸ楽しい地域Lifeを！ | | 上潟口　琴代氏 | (津和野町) |
| あんたが人生の主人公！全力で遊び、学び、自然の中で命と向き合う | 陽氣な狩人 | 今田　孝志　氏 | (浜田市) |

### ③オンライン配信用番組の制作

持続可能な社会に繋がる「エシカル消費」をテーマに、WEBコラムに掲載した記事と同一内容で映像を制作し、オンラインで配信できる５分番組を制作した。

タイトル：「しまねFuture2030」

内　　容：「しまねFuture2030第6回 蜂から始めるエシカルの輪」　空水土　石田樹里氏

配信方法：YouTube上のエコサポしまねのチャンネル内で配信

### ④紙媒体を用いた情報発信

WEBコラムに掲載した記事の中でもページビュー数が多く、掲載する雑誌がターゲットとする読者に適した内容を抜粋し、同一内容で雑誌向けに再構成を行い掲載した。

掲 載 誌：さんいんキラリ(有限会社グリーンフィールズ)
内　　容：「蜂から始めるエシカルの輪」　石田樹理さん（空水土（ｸｰﾐｰﾄﾞ））

**⑤広報誌「しまエコ」の発行**

地球温暖化の現状や国内外の情勢、影響と対策、地域での取り組みなど、身近なテーマと関連づけて情報提供を行う広報誌「しまエコ」を年2回発行した。島根県の地域性を踏まえた身近でエコな取り組みや、暮らしの中で気軽にできる行動など、わかりやすく「賢い選択」について知ることができる情報を多様な視点で取りあげた。用紙には国内産の竹100%でできた竹紙を使用し、環境への配慮とともに身近な資源の有効活用を啓発する工夫を行った。

発行部数：6,000部(Vol.18：3,000部、Vol.19：3,000部)
配 布 先：各市町村担当課、島根県地球温暖化防止活動推進員、県内の環境活動団体、全国及び各県センター、県内図書館等
内　　容：：しまエコ Vol.18[2020年11月発行]
【特集】このままでは絶滅してしまう！！時間がない生きものたち
【オロチさんとしろくまさん】標本は未来へのラブレター
【ミニ特集】島根県の絶滅危惧種と保全活動
【しまねのエコ技】木のぬくもりと縁が集まるカフェギャラリー
【付録】実際に会いに行こう！自然館で見られる絶滅危惧種
しまエコ Vol.19[2021年2月発行]
【特集】本当にできる！？2050年「ゼロカーボン」カギになるのは地域の脱炭素
【オロチさんとしろくまさん】バーチャルウォーターってなに？
【ミニ特集】 地域循環共生圏「島根県ではどんな取り組みをしているの？早速見てみよう！」
【しまねのエコ技】自由にオリジナルを追求する「こうや電気窯」

## (7)地球温暖化防止活動推進員による脱炭素チャレンジ集の取材と発行

地球温暖化や環境にかかる地域課題を掘り起こし、SDGsや地域循環共生圏など、今後の持続可能な地域づくりにつながる様々な主体の活動事例をとりまとめ、新たな協働･連携を創るための情報発信の一助とするため、事例調査を行った。

取 材 先：大田市立池田小学校、大田市立久手小学校、学校法人松徳学院学校長(中･高等課程)、出雲市立多伎小学校、出雲コアカレッジ、山のこども園 うしのしっぽ、県立三刀屋高校掛合分校、邑南町立高原小学校、県立情報科学高等学校、県立隠岐島前高等学校
発 行 数：3,500部
概　　要：県内の児童･生徒･学生が地域で取り組むエコ活動を、島根県地球温暖化防止活動推進員とともに掘り起こして取りまとめ、脱炭素社会の実現に向けた身近な取組事例として県民へ周知した。

## (8)地域の多様な主体との協働の推進

地域のニーズを踏まえた取組を促進するため、地域の多様な主体と協働･連携をすすめ、行政や環境団体とともに、活動の企画･運営･支援等を行った。

### ①石見地域におけるESD活動への参画

石見地域におけるESD(持続可能な開発のための教育)を普及し、地域における活動を広げるために、学校やボランティア、水族館、研究機関など多様な主体が連携し、沿岸地域における海の環境学習のESD化を目指すプログラム開発と実施に参画した。

期　　間：6月～2月
場　　所：浜田市立原井小学校周辺(浜田市原井町)
対　　象：原井小学校4～6年生
内　　容：「石見の海、私たちの海の持続性」をテーマとして、ESDプログラムを企画・実施するワーキングチーム「いわみっこ」を立ち上げ、浜田市立原井小学校の野外冒険クラブを対象に、継続的なESDプログラムの実施と検証を行った。

### ②自然系博物館・水族館との連携による環境学習の実施

博物館・水族館などと連携し、小学生を対象とした、地域の自然を学ぶ環境学習プログラムを企画し、協働実施した。

実 施 日：9月28日(火)　都治川での川の生きもの観察会
　　10月9日(火)　三瓶自然館サヒメルでのレクチャーと自然観察会
対　　象：江津市立江津東小学校4年生　29名
参 加 者：29名
内　　容：江津市東部を流れる都治川をフィールドとし、川に生息する身近な生きものを観察した。また、三瓶自然館サヒメルにおいて、生態系が川で繋がっていることや川などの自然環境への人間の影響について、総合的に学び体験できるレクチャーや観察会を実施した。

### ③おおだ自然エネルギーパーク2021

身近にできる防災対策と森林資源を活用した自然エネルギーの自給などをテーマとして、エネルギーの利用やライフスタイルの転換を考え、体験できるイベントとして、持続可能な地域づくりを普及啓発するイベントについて、関係団体で協議し実施を予定していたが、新型コロナウイルスによる感染症対策のため、昨年に引き続き実施を取りやめた。当財団は、本事業の企画・立案、イベントの運営を支援した。(共催)

実施予定日：3月13日(土)
場　　所：道の駅ロード銀山(大田市)
主　　催：おおだ自然エネルギーパーク2021実行委員会
共　　催：大田市地球温暖化対策地域協議会、国立三瓶青少年交流の家、エコサポしまね
協　　力：大田市森林組合、大田市林友会
後　　援：大田市
事 務 局：おおだ未来づくり会議

### ④EPOちゅうごくとの連携

環境省が全国9カ所に設置する環境パートナーシップオフィスの1つのEPOちゅうごく(指定団体:NPO法人ひろしまNPOセンター)と連携し、島根県内で活動する団体の支援を行った。

実 施 日：3月21日(土)
実施期間：令和2年4月～令和3年2月
内　　容：環境省補助事業「令和2年度環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」に公募した県内団体等の支援など、EPOちゅうごくと連携し、島根県内でのSDGsやESD、地域循環共生圏に関わる事業について、支援を行った。

## (9) 人材育成にかかる講師派遣

県内の学校や環境団体などを対象に、ニーズに応じたテーマを設定し、環境に関する講演会やワークショップなどを実施した。(実施状況は「VI. 各種資料 4. 資料(p. 68)」参照)

## (10) 環境に係る展示や出展・教材の貸出

公共施設や各種イベントなど、多くの来場者が見込める場所において、地球環境問題や地球温暖化、暮らしのなかのエコ行動など様々な環境に関する展示や出展を行い、普及啓発を行った。

### ①イベントへの出展

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、例年出展しているイベントが全て中止になった。

### ②公共施設での展示

地球温暖化の現状解説及び地球温暖化防止活動を紹介したパネル等を、県内の公共施設に掲出した。また、エコドライブ等の身近な省エネ行動を紹介するリーフレットを会場内で配布した。

| | | |
|---|---|---|
| 実施期間と場所： | 5月30日(土)～6月25日(木) | 松江市中央図書館(松江市) |
| | 11月4日(火)～11月17日(火) | 出雲市役所東側入り口(出雲市) |
| | 11月17日(火)～11月25日(水) | 矢上交流ｾﾝﾀｰ(邑南町) |
| | 11月26日(木)～12月8日(火) | パレット江津(江津市) |
| | 12月17日(木)～12月25日(金) | 江津市役所ロビー(江津市) |
| | 2月21日(日) | 平田文化館プラタナスホール(出雲市) |

### ③教材の貸出

県民のニーズに考慮した環境関連ﾗｲﾌﾞﾗﾘｰや環境学習機材の整備等を図るとともに、各種メディアやホームページ、環境イベントなどを利用し、年間を通じて県民に情報提供を行った。

・貸出図書の購入・・・・・・・・・・・・・・・図書:65冊　DVD:1枚

・パネル、機材の貸出 ・・・・・・・・・・14件

## (11) 環境保全活動支援事業

県内のボランティア団体や法人による環境保全・地球温暖化防止を目的とした主体的な取り組みを促すため、活動の開始または、継続に要する資金の一部を助成した。

### ①令和2年度の募集及び採択

令和2年度の一次審査は、前年度に募集・審査を実施した。また、当初募集では応募団体が少なかったため、二次募集を行った。

助成内容：ボランティア団体、NPO法人等：事業費の2/3以内助成で、80万円限度

募集期間：令和元年11月1日～12月27日(一次募集)
　　令和2年4月1日～5月11日(二次募集)

広　　報：募集チラシ及び申請の手引きの配布(一次募集2,200部、二次募集2,200部)

審 査 会：令和2年3月3日(一次募集)
　　令和2年6月30日(二次募集)

| | 申請件数 | 申請事業費 | 申請助成額 | 交付決定件数 | 交付決定額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 一次募集 | 5件 | 2,117千円 | 1,410千円 | 5件 | 1,172千円 |
| 二次募集 | 2件 | 505千円 | 316千円 | 2件 | 316千円 |
| 計 | 7件 | 2,622千円 | 1,726千円 | 7件 | 1,488千円 |

**②令和3年度の募集及び採択**

「令和3年度しまね環境保全活動助成金」の募集、審査、交付団体の決定を行った。

助成内容：ボランティア団体、NPO法人等：事業費の2/3以内助成で、80万円限度

募　　集：令和2年11月1日～12月25日

広　　報：募集チラシ及び申請の手引きを各市町村やNPO団体等、700か所に2,500部配布

審 査 会：令和3年3月11日(木)

| | 申請件数 | 申請事業費 | 申請助成額 | 交付決定件数 | 交付決定額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 計 | 6件 | 3,108千円 | 2,070千円 | 5件 | 1,718千円 |

# Ⅳ. 北の原キャンプ場管理運営事業

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発令により、令和2年4月18日～5月31日の期間、全面休場した。6月1日より全施設の営業を再開したが、ケビン･バンガローと常設テントは7月23日まで隔日営業、オートサイトは9月30日まで受入区画数を半分に縮小するなど、利用制限を設けながらの営業となった。なかでも、従来事前予約を不要としていた一般･集団サイトは、受入数を200張から50組に縮小したことに加え、予約制に移行し、今後も継続することとしている。

そのほか、本年度は台風10号の接近に伴う臨時休場(9月6日～7日)、暴風雪に伴う臨時休場(1月7日～8日)など、前述を含めると、当初計画していた244日間の営業日数に対し、44日間少ない営業日数となった。

収入状況としては、上半期の利用料金収入が対前年比63.9％となったが、下半期は対前年比124.4％と盛り返し、回復傾向に転じている。なかでも、月別で比較すると、10月では直近10年間のなかでも最も高い利用料金収入を確保する結果となっている。

大田市から指定管理者に指名されて3期目5年間の初年度にあたる本年度は、年間を通じて流動的状況に見舞われる年度となったが、県有施設時代からの運営で蓄積された経験を活かして安定した管理運営にあたるとともに、三瓶自然館の指定管理者としての利点を活かして、一体的な事業展開により効率的な運営に努めた。

基本理念である「豊かな自然環境を活かし、自然に親しむ場を提供する」の実現するために、国立公園三瓶山の豊かな自然環境と、その自然に囲まれた施設の魅力を最大限に引き出し、来場者が自然の中での生活～アウトドアライフ～を楽しめるような管理運営を心がけた。

また、来場者の安全･安心への配慮を欠かすことなく、満足度向上に向けた新規イベントの企画、貸出用品の更新、食材の提供、宿泊施設の備品購入など、これまでに培ったノウハウを活かしながら、新たな魅力づくりにも努めた。

## １．利用促進業務

主な利用促進業務の実施内容は次のとおり。

・西部勤労者共済会、モンベル等と提携した各種割引サービスの実施。
・自社HP及びキャンプ関連WEBサイトに、施設情報やイベント紹介記事を掲載。
・Twitter、Facebook、Instagramによる情報発信を実施。
・山陰中央新報「あ･るっく」への広告掲載。
・県内及び広島県のスポーツ用品店10店舗にパンフレットを配架。
・大田市民を対象とした常設テント無料モニターを企画。

## ２．管理体制

利用者が快適なアウトドアライフを過ごせるよう、繁忙期や閑散期の状況に応じて、効率的なスタッフの人員配置を行った。

通常期は臨時職員を含めて6名の体制により、利用者の応対、施設･設備の安全点検及び環境美化等に万全を期している。また、場内の除草作業には専門のスタッフ6名を配置し、雑草により景観を損ねないよう配慮した。

利用者が増加する繁忙期はさらに3～5名程度の臨時アルバイトを雇用し、宿泊施設ならびに屋外共用棟の清掃･消毒、大量に排出されるゴミの処理等にあたらせ、衛生管理を徹底した。

一方、利用者が激減する冬期は正規職員4名で対応することにより、人件費の節減を図った。

## ３．施設維持管理

昭和44年に開場した当キャンプ場では、施設･設備の老朽化、経年劣化に伴う故障や不具合が多発している。大田市と協議を重ね修繕計画に沿った修繕作業を実施しているが、予期せぬ箇所の故障が続発するなど、修繕が追いつかない状況にある。今後もこの状況が続くがことが予想されるため、早急な課題となっている。

本年度においても多数の故障及び不具合が発生したが、利用者の快適で安全な利用環境の確保を第一に、必要最低限の修繕を実施した。

主な修繕箇所と修繕内容は次のとおり。

・バンガロー15号棟ベランダの床材破損…部材交換
・第3シャワー棟コインセレクター動作不良…機器交換
・第3炊事棟屋根部材の破損…部材交換
・オートサイト電源ボックスの漏電…機器更新
・屋外照明設備の動作不良…機器更新
・ケビン3～5号棟の漏水…配管交換
※全て指定管理者財源により執行

## ４．自主事業

### (1)イベントの実施

□ASOBO-スラックラインとハンモック

実施日：6月、7月、10月、11月の第3日曜日
参加者：258名
内　容：デーキャンプエリアにスラックラインとハンモックを設置し、無料開放するイベント。家族連れや成人グループによる利用が多数あった。

### (2)利便提供事業

キャンプ場宿泊者の利便性向上のため、食品の販売や、キャンプ用具の貸し出しを行った。

## ５．その他の事業

### (1)大田市全体及び三瓶山周辺観光のインフォメーション機能を担う事業

セントラルロッジ内に観光情報コーナーを設置し、キャンプ場宿泊者への観光案内を積極的に行っている。登山者への登山ルートの案内をはじめ、温泉津温泉や石見銀山、三瓶小豆原埋没林など主要観光地へのルート案内、食事どころや大田市の見どころ紹介などを行っている。

### (2)地域連携による観光推進活動

大田市、飯南町、美郷町の1市2町が連携する「三瓶山広域ツーリズム振興協議会」と石見地域の観光･宿泊施設等により組織される「石見ツーリズムネットワーク」に参画し、地域一体での観光促進事業に取り組んでいる。

# Ⅴ．利便提供事業

## １．物販事業

### (1)三瓶自然館

三瓶自然館のリニューアルにあわせ、「ミュージアムショップひめのが」も円滑な運営と販売促進を目指し、改装工事を実施した。店内には、自然科学に関するものや三瓶山来訪の記念となる商品のほか、館のキャラクター「テンピー」のオリジナル商品などを販売し、当館らしい商品展開を行った。

また、企画展開催期間にはそのテーマに合う商品を特集し、展示と連動した売上げ拡大を図った。

### (2)三瓶小豆原埋没林公園

受付周辺に物販棚を設置し、埋もれ木の派生材(発掘時に出土した倒木等)を利用した独自商品や近隣の製菓子店との共同開発商品、木工品の販売を行った。

また、日本遺産認定を機に地質に興味のある利用者が増加することを見込み、鉱物等の商品充実を図った。

### (3)北の原キャンプ場

北の原キャンプ場の「キャンパーズショップ北の原」では、宿泊者の利便向上を目的に、キャンプに関連する商品と食料品を販売した。また、夏期はバーベキュー、冬期は鴨鍋の食材セットを販売することで、手軽にキャンプができるイメージによる施設利用の促進を図った。

## ２．貸出事業

北の原キャンプ場において、テントや毛布、炊事用品等のキャンプ用品の貸し出しを行った。用品の貸し出しは、売上による収入のほか、利用者が用品を準備する負担が軽減されることによる利用拡大が期待される事業である。

キャンプ用品のほか、夏期はノルディックポール、冬期は歩くスキーとスノーシューの貸し出しを行った。

## ３．その他

・新型コロナウイルス感染症拡大による各施設の休業要請等の影響により、利便提供事業全体の収入が激減したため、各経費の緊縮を図ったほか、持続化給付金(中小企業庁)を申請するなど、厳しい経営となった。

・北の原キャンプ場については、感染症対策として受付時に管理棟に入る人数を1組1名としたことで売店への立ち寄りが減少し、売り上げが大幅に減少した。次年度は、来場者の利便性を確保するためにも、販売方法の改善を検討したい。

# Ⅵ．各種資料

## １．数値目標を掲げた運営

### (1)入館者目標、収入目標の設定

各施設毎に利用者数目標又は利用料金収入目標を設定し、運営を行っている。

3施設とも新型コロナウイルス感染症の拡大により約2ヶ月間の休業となり、目標を下まわる実績となった。三瓶自然館では、リニューアルオープンが延期され、再開後も移動の自粛に影響され､入館者数は伸び悩んだ。秋以降は、期間展示など新たな企画も行うなどして、例年を超える入館者数を得た。

埋没林公園は､厳しい状況のなか、前年の7割の入園者があり、他施設と比較し下げ幅を抑えた実績を確保した。日本遺産登録を契機とした情報発信や新設のガイダンス棟を活用した新たな講座型イベントなどの取り組みが少しづつ効果を上げている。

北の原キャンプ場は､キャンプブームにコロナの影響がプラスとなり、さらに需要が高まった。コロナによる休場期間を除けば、過去最高レベルの利用実績を継続している。

### (2)全施設の目標値と達成状況

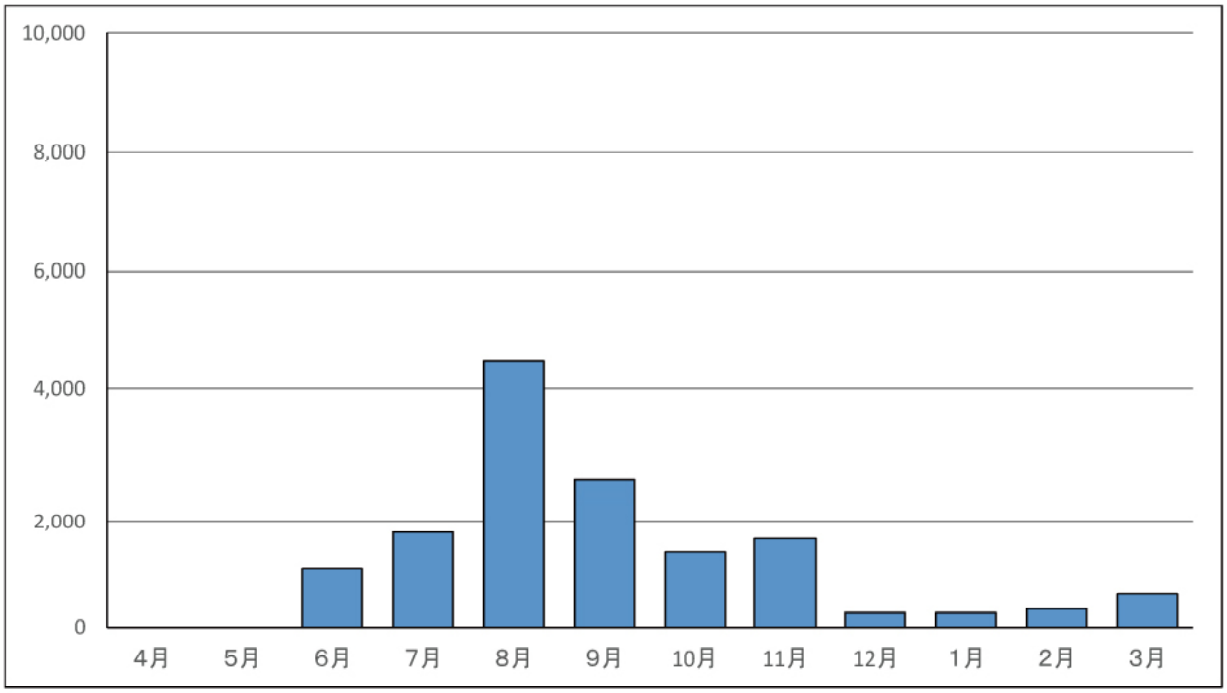
令和2年度　施設別月別目標達成率一覧表

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 三瓶自然館(天体含む)入館者数(人) | R2目標 | 6,000 | 15,000 | 5,000 | 18,000 | 36,000 | 15,000 | 10,000 | 10,000 | 2,000 | 3,500 | 3,000 | 4,000 | 127,500 |
| | R2実績 | 0 | 146 | 5,816 | 8,361 | 18,011 | 12,118 | 13,464 | 12,691 | 1,914 | 2,184 | 2,838 | 4,196 | 81,739 |
| | 達成率 | 0.0% | 1.0% | 116.3% | 46.5% | 50.0% | 80.8% | 134.6% | 126.9% | 95.7% | 62.4% | 94.6% | 104.9% | 64.1% |
| 天体観察会入館者数(人) | R2目標 | 600 | 1,300 | 300 | 1,400 | 2,200 | 1,000 | 600 | 100 | 150 | 150 | 150 | 150 | 8,100 |
| | R2実績 | 0 | 0 | 0 | 15 | 66 | 28 | 408 | 272 | 39 | 6 | 129 | 54 | 1,017 |
| | 達成率 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 1.1% | 3.0% | 2.8% | 68.0% | 272.0% | 26.0% | 4.0% | 86.0% | 36.0% | 12.6% |
| 埋没林公園入園者数(人) | R2目標 | 1,300 | 2,800 | 1,300 | 2,000 | 3,400 | 2,000 | 2,500 | 2,500 | 400 | 400 | 400 | 1,000 | 20,000 |
| | R2実績 | 152 | 0 | 783 | 1,226 | 2,489 | 2,139 | 2,801 | 2,622 | 450 | 106 | 321 | 993 | 14,082 |
| | 達成率 | 11.7% | 0.0% | 60.2% | 61.3% | 73.2% | 107.0% | 112.0% | 104.9% | 112.5% | 26.5% | 80.3% | 99.3% | 70.4% |
| キャンプ場利用料金(千円) | R2目標 | 1,250 | 2,790 | 810 | 2,540 | 6,210 | 1,720 | 1,550 | 1,129 | 200 | 200 | 200 | 200 | 18,799 |
| | R2実績 | 305 | 0 | 763 | 1,841 | 5,881 | 2,449 | 2,500 | 1,931 | 254 | 157 | 244 | 444 | 16,769 |
| | 達成率 | 24.4% | 0.0% | 94.2% | 72.5% | 94.7% | 142.4% | 161.3% | 171.0% | 127.0% | 78.5% | 122.0% | 222.0% | 89.2% |
| 物販･貸出売り上げ(千円) | R2目標 | 1,150 | 3,650 | 1,250 | 3,750 | 6,920 | 3,500 | 1,630 | 1,470 | 370 | 430 | 330 | 450 | 24,900 |
| | R2実績 | 153 | 43 | 781 | 1,596 | 3,821 | 2,161 | 1,600 | 1,837 | 426 | 215 | 330 | 706 | 13,669 |
| | 達成率 | 13.3% | 1.2% | 62.5% | 42.6% | 55.2% | 61.7% | 98.2% | 125.0% | 115.1% | 50.0% | 100.0% | 156.9% | 54.9% |

## (3) 収入実績

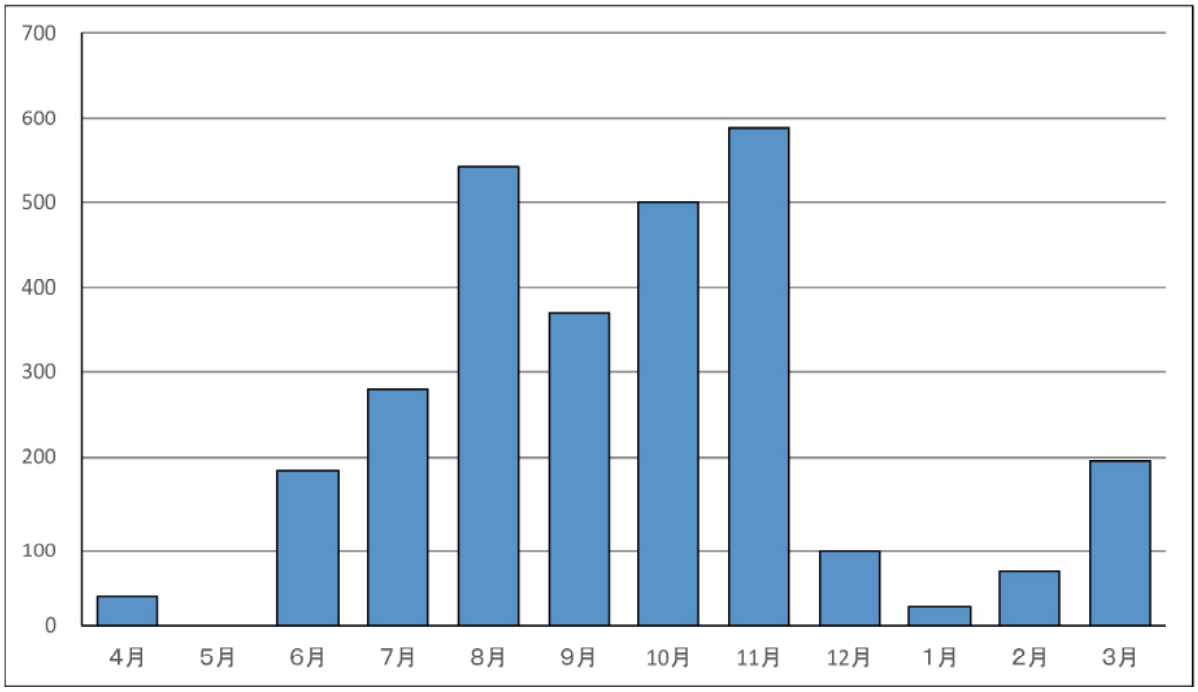
□三瓶自然館収入状況

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収入額(千円) | 0 | 0 | 1,098 | 1,819 | 4,448 | 2,495 | 1,405 | 1,681 | 255 | 241 | 327 | 605 | 14,374 |



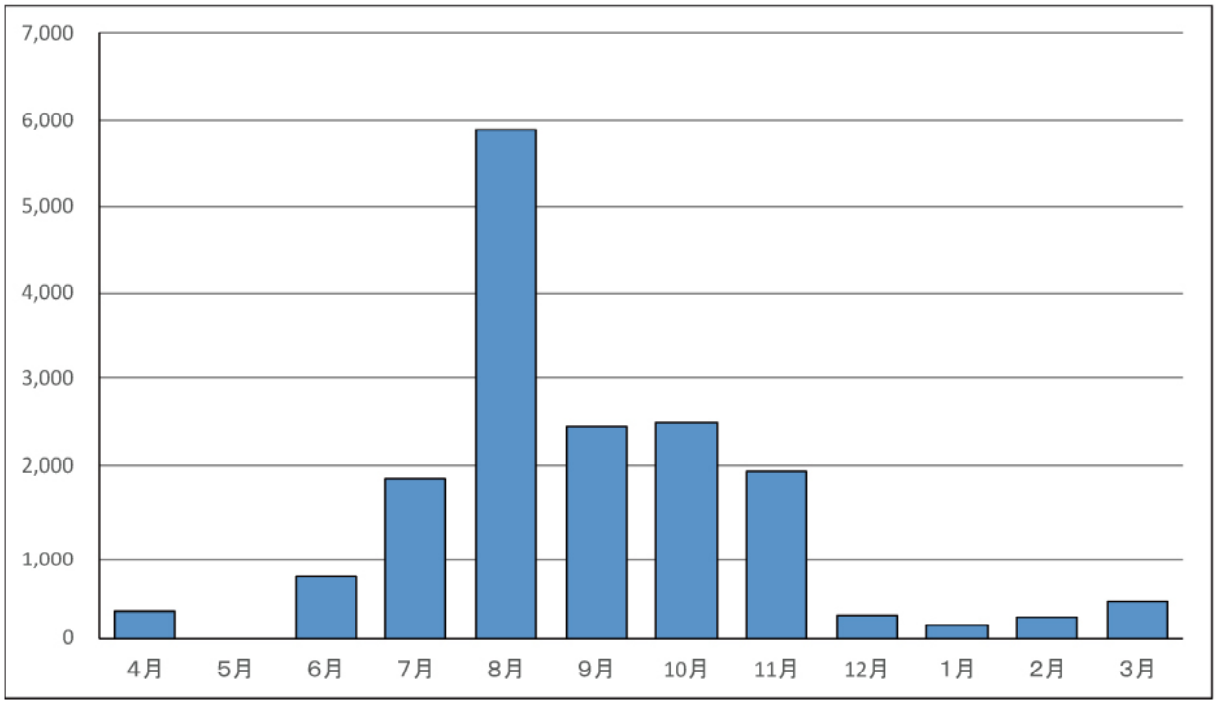

□埋没林公園収入状況

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収入額(千円) | 38 | 0 | 184 | 279 | 540 | 371 | 500 | 588 | 100 | 24 | 73 | 195 | 2,892 |



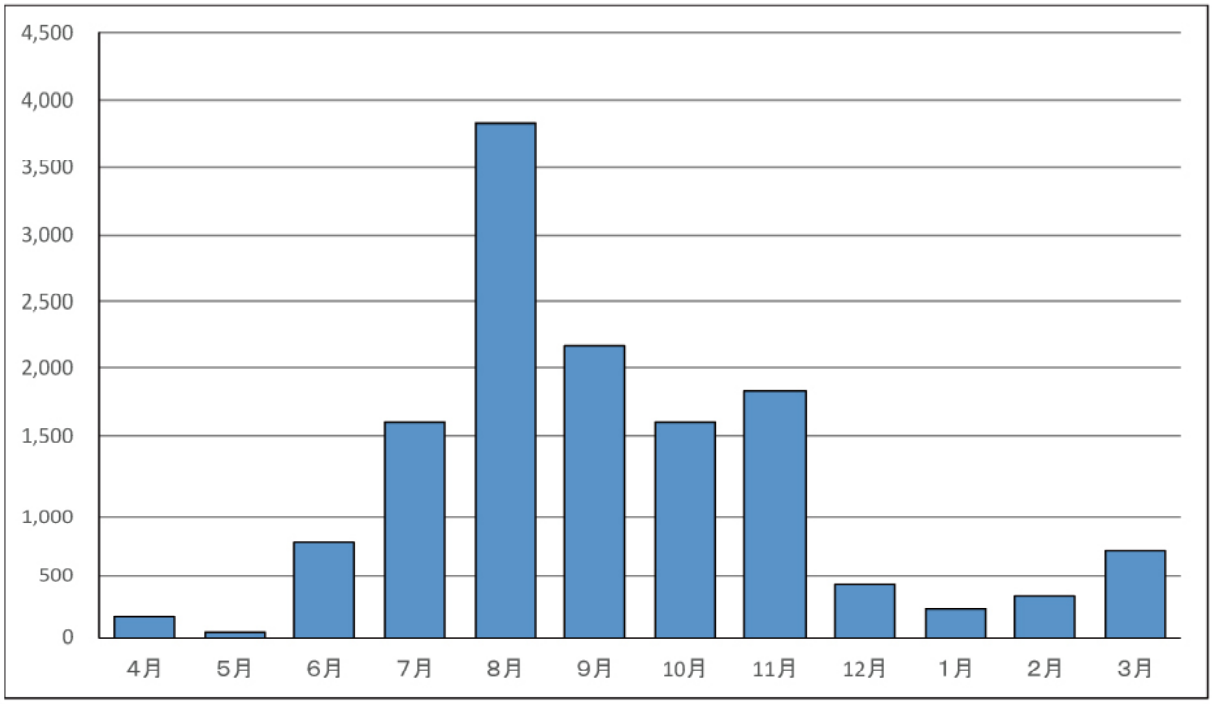
□北の原キャンプ場収入状況

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収入額(千円) | 305 | 0 | 763 | 1,841 | 5,881 | 2,448 | 2,500 | 1,931 | 254 | 157 | 245 | 444 | 16,769 |




□利便提供事業収入状況

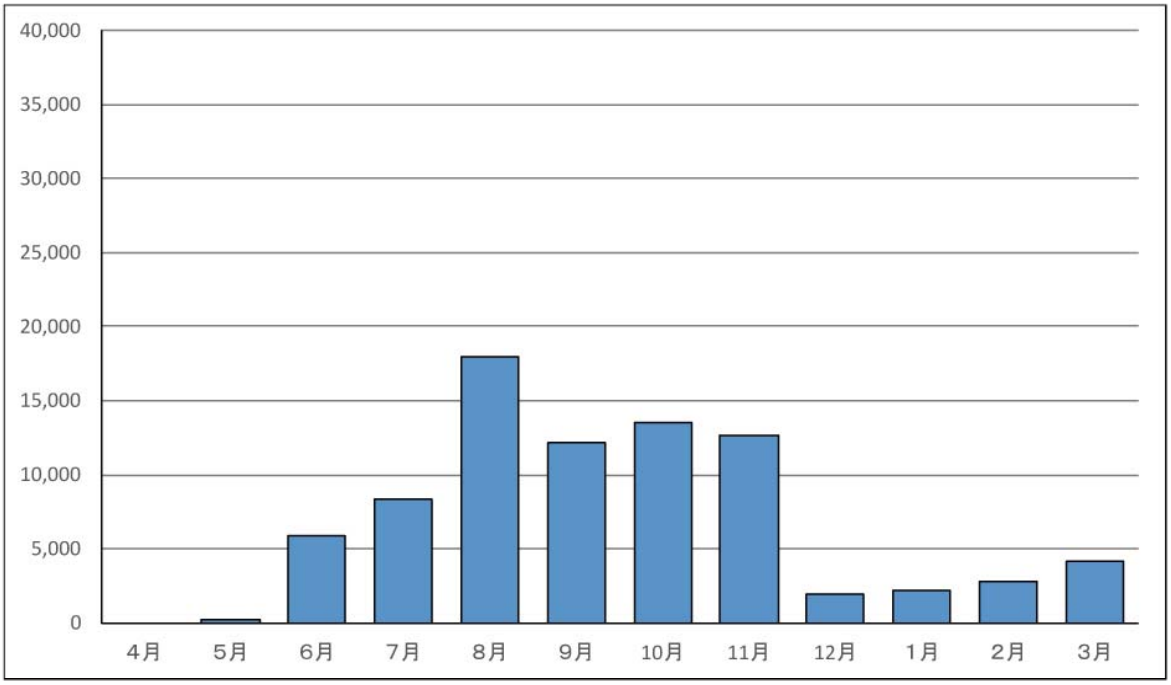
| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 収入額(千円) | 153 | 43 | 781 | 1,597 | 3,821 | 2,161 | 1,600 | 1,837 | 426 | 215 | 329 | 706 | 13,669 |



## (4) 利用者数

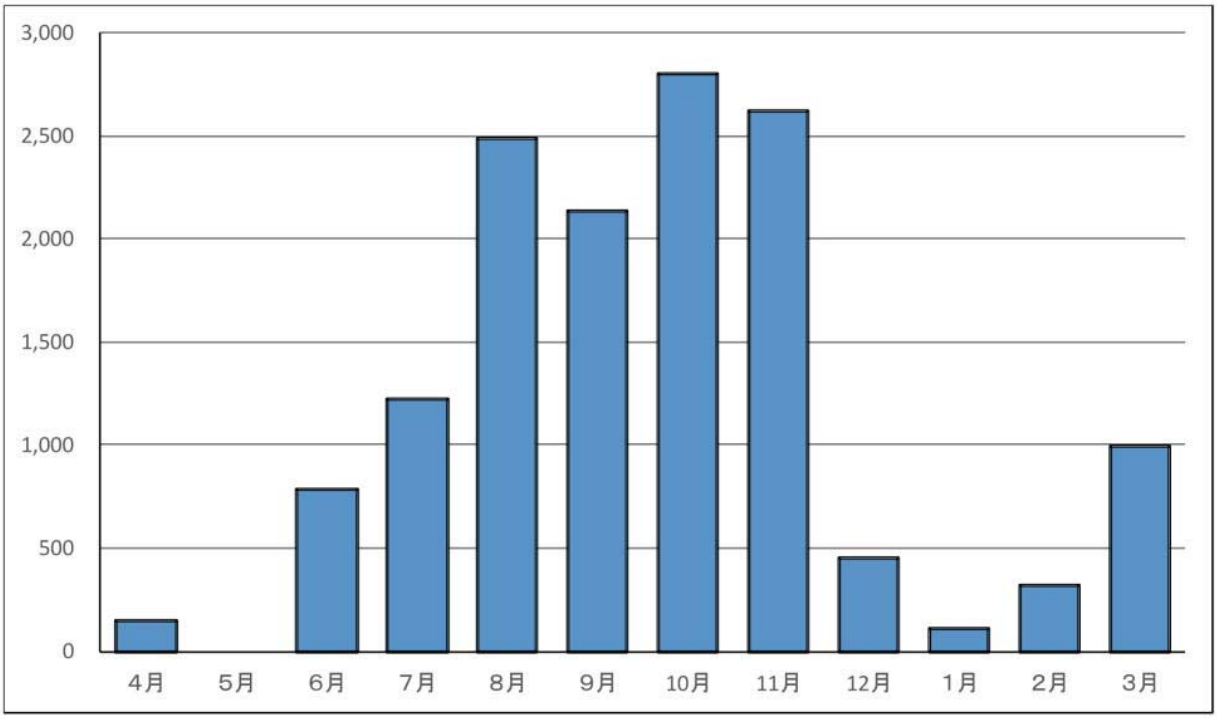
□三瓶自然館利用状況

| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入館者数(人) | 0 | 146 | 5,816 | 8,361 | 18,011 | 12,118 | 13,464 | 12,691 | 1,914 | 2,184 | 2,838 | 4,196 | 81,739 |




□埋没林公園利用状況

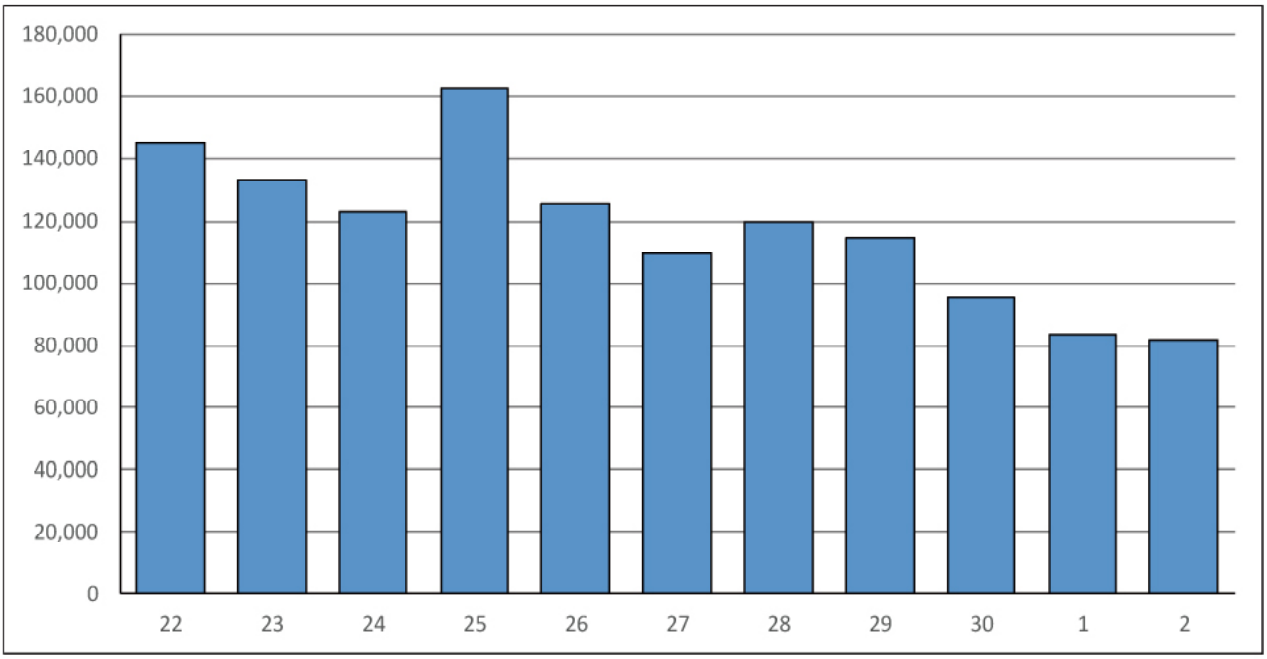
| 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入館者数(人) | 152 | 0 | 783 | 1,226 | 2,489 | 2,139 | 2,801 | 2,622 | 450 | 106 | 321 | 993 | 14,082 |



## ２．利用者数の推移

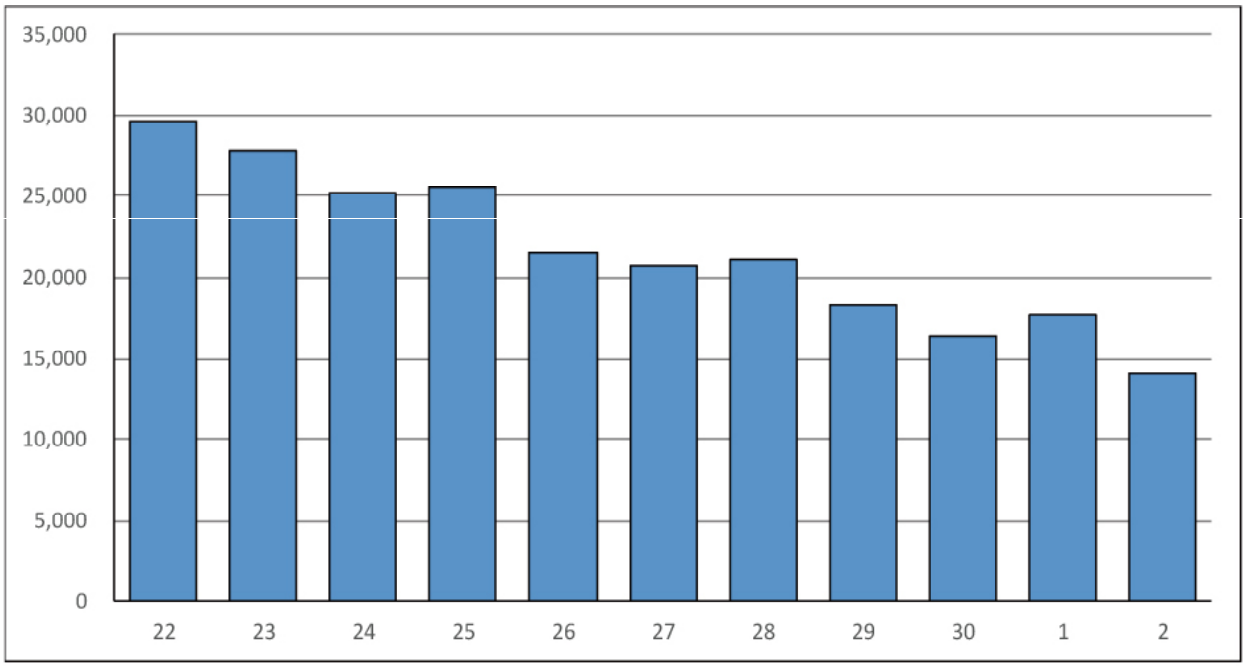
□三瓶自然館

| 年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総入館者(人) | 144,629 | 132,991 | 123,093 | 162,099 | 125,225 | 109,478 | 119,571 | 114,717 | 95,520 | 83,203 | 81,739 |




□三瓶小豆原埋没林公園

| 年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総入館者(人) | 29,669 | 27,807 | 25,206 | 25,527 | 21,505 | 20,681 | 21,075 | 18,292 | 16,366 | 17,694 | 14,082 |



## 3．沿　革

昭和63年度　「三瓶フィールドミュージアム構想」が、先導事業開発構想推進会議で「リフレッシュリゾートしまね構想事業」として決定。同じく、自治省の「ふるさとづくり特別対策事業」として決定。

平成元年度　「三瓶フィールドミュージアム整備事業」開始。
三瓶自然館（以下「自然館」）中心とする三瓶フィールドミュージアムの基本・実施設計の作成。

平成２年度　自然館及び附属施設、着工。

平成３年度　財団法人三瓶フィールドミュージアム財団設立（7月1日、以下「財団」）。
自然館完成、全国育樹祭にともない皇太子殿下御来館。
自然館オープン（10月19日）。

平成４年度　財団、新たに「三瓶山北の原キャンプ場（以下「キャンプ場」）」の管理運営を受託。

平成５年度　三瓶フィールドミュージアム整備終了。
三瓶フィールドミュージアムが「三瓶山自然体験ゾーン」として島根県の長期計画（1994～2010年）の戦略プロジェクトに位置づけられる。

平成７年度　島根県、「三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会」を設置。

平成８年度　三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会、自然館の機能強化を求める報告書を提出。
キャンプ場、過去最高の年間5万4千人の利用者を記録。

平成９年度　自然館名誉館長として俳優の柳生博氏を起用、委嘱（平成15年度まで）。
常陸宮殿下、妃殿下御来館。

平成10年度　三瓶町多根小豆原で、約3,500年前に埋没したスギ林の存在を確認。調査方法及び保存方法の検討を開始。

平成11年度　島根県、「三瓶埋没林調査保存検討委員会」を設置。あわせて埋没スギの自然館での展示を検討。

平成12年度　三瓶山自然体験ゾーン拡充整備事業、整備着工。
キャンプ場新管理棟（セントラルロッジ）、完成。
三瓶埋没林調査保存検討委員会、埋没林の保存を求める報告書を提出。

平成13年度　島根県知事、小豆原埋没林の保存方針を発表。
自然館拡充工事開始。工事進捗にともない11月末をもって自然館閉館。

平成14年度　自然館拡充工事完了。「三瓶自然館サヒメル」として再オープン（4月18日）。
自然館、通算100万人の来館者を達成。
秋篠宮殿下、妃殿下御来館。
小豆原埋没林現地の公園化整備開始。
自然館、過去最高の年間22万人の来館者を記録。

平成15年度　キャンプ場へ利用料金制導入。
新たに「三瓶小豆原埋没林公園」の管理運営を受託。
「三瓶小豆原埋没林公園（以下「埋没林公園」）」オープン（5月2日）。
自然館、日本博物館協会に加盟。

平成16年度　「三瓶小豆原埋没林」国の天然記念物指定（2月27日）。
新たに「ふれあいの里奥出雲公園（以下「ふれあいの里」）」の管理運営を受託。
埋没林公園来園者10万人達成。

平成17年度　指定管理者制度が導入され、財団が自然館及び附属施設の指定管理者となる（平成17年度～平成21年度）。

平成18年度　7月豪雨によりふれあいの里が被災し、臨時休園となる。
自然館開館15周年（10月19日）。

平成19年度　高円宮妃殿下、自然館及びふれあいの里御来訪（4月30日）。

平成20年度　旧島根ふれあい環境財団21の事業及び財産を継承（4月1日）。
松江事務所開設。環境保全活動への助成、地球温暖化を含む環境問題の啓発等の事業を開始（4月1日）。
埋没林公園入園者30万人達成（4月12日）。
法人名称を「財団法人しまね自然と環境財団」に改称（7月1日）。
高円宮妃殿下御来館（1月22日）。

平成21年度　自然館、通算200万人の来館者を達成（7月12日）。
ふれあいの里、営業終了（12月。3月をもって正式閉鎖）。
自然館、プラネタリウム設備更新のためビジュアルドームの運営を休止（12月～3月）。3月末から新型プラネタリウムの運営開始。
キャンプ場、大田市へ移譲譲渡（3月）。

平成22年度　島根県から2期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指名を受ける。また、大田市施設となったキャンプ場の指定管理者として、大田市から指名を受ける（いずれも平成22年度～平成26年度）。

平成23年度　財団、公益財団法人へ移行(4月1日)。これに伴い法人名称を「公益財団法人しまね自然と環境財団」に改称。
自然館、開館20周年。記念式典(7月15日)のほか、関連イベントを一年を通じて開催。
財団、自然館運営の検討機関として「三瓶自然館運営委員会」を設置(8月1日)。
平成24年度　神々の国しまねプロジェクトへの協力として、三瓶自然館の小中高校生入館料を無料化(平成26年9月まで)。
"三瓶山"国立公園指定50周年記念事業実行委員会(会長:大田市長)が設置され、財団が事務局を務め、一年を通じて関連イベントを開催。
平成25年度　埋没林公園、開園10周年。記念式典(4月27日)ほか、関連イベントを一年を通じて開催。
特別企画展「さんべ恐竜王国(7月13日～9月29日)」を開催。現在の企画展期間(2ヶ月半)としては過去最高となる99,203人の来館者を達成。
財団研究員が隠岐で巨大ワニの化石を発見。
平成26年度　大田市からキャンプ場指定管理者として指名を受ける(平成27年度～平成31年度)。
島根県から3期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指名を受ける(平成27年度～平成34年度(令和4年度))。
平成27年度　自然館、大型ドーム映画設備更新のため、ビジュアルドームの運営を休止(2月～3月)。3月末から新映画設備の運営開始。
平成28年度　自然館、大型ドーム映画リニューアル式典(4月21日)。
自然館、開館25周年。記念式典(7月15日)のほか、関連イベントを一年を通じて開催。
自然館、入館者累計300万人を達成(11月5日)。
平成29年度　第71回全国植樹祭(令和2年)が三瓶山北の原で開催されることが決定(11月15日、島根県・(公社)国土緑化推進機構)。
平成30年度　4月9日未明、大田市を震源とする島根県西部地震(M6.1、震度5強)が発生し、自然館、キャンプ場施設で多数の被害があった。自然館では開設以来初めて、災害による臨時休館(4月9日)をし、復旧にあたった。
大田市からキャンプ場の次期指定管理者として更新指名を受ける(令和2年度～令和6年度)。
令和元年度　自然館、ビジターセンター機能強化工事(7月～3月)。
自然館、展示改修工事のため休館(11月～3月)。
埋没林公園、ガイダンス棟建設工事(10月～3月)。
令和2年度　北の原多目的広場で当年5月に開催が予定されていた第71回全国植樹祭が、新型コロナウィルスの全国的な流行により、1年延期が決定(4月1日)。
県内での新型コロナウィルス感染症患者発生確認に伴い、県・市からの要請を受け、自然館・埋没林公園、キャンプ場とも5月末まで休業。6月1日運営再開。

## 4．資　料

□テーマ解説実施状況（Ⅱ－(1)常設展示(p.6)関係）

| 月 | 日 | 団　　体　　名 | 人　数 |
|---|---|---|---|
| 6 | 18 | 大田市立池田小学校 | 12 |
| | 24 | 大田市立志学小学校 | 11 |
| 8 | 17 | 大田わんぱく児童クラブ | 34 |
| 9 | 14 | 島根県立邇摩高等学校 | 22 |
| | 16 | 島根県立邇摩高等学校 | 12 |
| | 25 | 大田市立高山小学校 | 15 |
| 10 | 9 | 江津市立江津東小学校 | 33 |
| | 16 | 松江市立古志原小学校 | 101 |
| | 24 | 遥堪コミュニティセンター | 12 |
| | 24 | 島根県高等学校ＰＴＡ連合会 | 26 |
| 11 | 5 | 浜田市安城公民館 | 14 |
| | 11 | 大田市立北三瓶小学校 | 5 |
| | 27 | 大田市立北三瓶中学校 | 10 |
| 12 | 18 | 島根県立出雲養護学校みらい分教室小学部 | 16 |
| 1 | 25 | necco(山の駅さんべ) | 11 |
| 合　計 | | 15件 | 334 |

□新聞寄稿状況（Ⅱ－(6)新聞への寄稿(p.13)関係）

| 月 | 日 | 掲　載　紙 | タ　イ　ト　ル | 執　筆　者 |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 1 | 島根日日新聞 | 星は昴 | 太 田 哲 朗 |
| | 1 | 山陰中央新報 | 金星とすばる | 竹 内 幹 藏 |
| | 12 | 讀賣新聞 | 県の大地 化石や岩石標本で | 遠 藤 大 介 |
| | 15 | 島根日日新聞 | 火山時空シアター | 遠 藤 大 介 |
| | 15 | 山陰中央新報 | うみへび座 | 竹 内 幹 藏 |
| | 29 | 島根日日新聞 | あたり年 | 星 野 由 美 子 |
| | 29 | 山陰中央新報 | 月のクレーターを見よう | 竹 内 幹 藏 |
| 5 | 13 | 島根日日新聞 | 展示室が新しくなります | 井 上 雅 仁 |
| | 13 | 山陰中央新報 | アークトゥルスとスピカ | 竹 内 幹 藏 |
| | 17 | 讀賣新聞 | わずか数ミリ 地面捜索 | 安 藤 誠 也 |
| | 27 | 島根日日新聞 | 北斗七星を見つけてみよう | 矢 田 猛 士 |
| | 27 | 山陰中央新報 | 月の出を見よう | 竹 内 幹 藏 |
| 6 | 10 | 島根日日新聞 | ヨツボシトンボ | 皆 木 宏 明 |
| | 10 | 山陰中央新報 | 貴重な日食 | 竹 内 幹 藏 |
| | 14 | 讀賣新聞 | 毎年恒例 姫逃池の草刈り | 井 上 雅 仁 |
| | 24 | 島根日日新聞 | 島根にもいた！失われたゾウの世界 | 安 藤 誠 也 |
| | 24 | 山陰中央新報 | こぐま座 | 竹 内 幹 藏 |
| 7 | 8 | 島根日日新聞 | 幻の花の星座 | 太 田 哲 朗 |
| | 8 | 山陰中央新報 | さそり座 | 竹 内 幹 藏 |
| | 12 | 讀賣新聞 | カルガモ親子たくましさ | 星 野 由 美 子 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 7 | 22 | 島根日日新聞 | 骨格の組み立て作業 | 遠 藤 大 介 |
| | 22 | 山陰中央新報 | 並んだ木星と土星 | 竹 内 幹 藏 |
| 8 | 5 | 島根日日新聞 | 森の野鳥を調査する | 星野由美子 |
| | 5 | 山陰中央新報 | 流星がよく見える時間 | 竹 内 幹 藏 |
| | 19 | 島根日日新聞 | ブナから知る太古の島根 | 井 上 雅 仁 |
| | 19 | 山陰中央新報 | ベガの見え方 | 竹 内 幹 藏 |
| | 23 | 讀賣新聞 | 明るいネオワイズ彗星 | 矢 田 猛 士 |
| 9 | 2 | 島根日日新聞 | 南の空で明るく輝く「木星」 | 矢 田 猛 士 |
| | 2 | 山陰中央新報 | 火球 | 竹 内 幹 藏 |
| | 13 | 讀賣新聞 | 残暑ならではのセミ | 皆 木 宏 明 |
| | 16 | 山陰中央新報 | 秋の天の川 | 竹 内 幹 藏 |
| | 16 | 島根日日新聞 | オナガササキリ | 皆 木 宏 明 |
| | 30 | 山陰中央新報 | 月は何色？ | 竹 内 幹 藏 |
| | 30 | 島根日日新聞 | スマートフォンと動物調査 | 安 藤 誠 也 |
| 10 | 11 | 讀賣新聞 | 近づく二つの惑星 | 太 田 哲 朗 |
| | 14 | 島根日日新聞 | はやぶさ2が帰ってくる | 太 田 哲 朗 |
| | 14 | 山陰中央新報 | 火星を見よう | 竹 内 幹 藏 |
| | 28 | 山陰中央新報 | 10月に満月が2回 | 竹 内 幹 藏 |
| | 28 | 島根日日新聞 | 町を飛ぶ猛禽 チョウゲンボウ | 星野由美子 |
| 11 | 8 | 讀賣新聞 | 寄生虫のマダニ | 安 藤 誠 也 |
| | 11 | 島根日日新聞 | キノコに宿る不思議な植物 | 井 上 雅 仁 |
| | 11 | 山陰中央新報 | カシオペヤ座とケフェウス座 | 竹 内 幹 藏 |
| | 25 | 島根日日新聞 | はやぶさ2講演会 | 矢 田 猛 士 |
| | 25 | 山陰中央新報 | 「はやぶさ2」が帰ってくる | 竹 内 幹 藏 |
| 12 | 9 | 島根日日新聞 | 葉に絵を描く | 皆 木 宏 明 |
| | 9 | 山陰中央新報 | 木星と土星の大接近 | 竹 内 幹 藏 |
| | 13 | 讀賣新聞 | ミゾソバ じっと眺めると？ | 井 上 雅 仁 |
| | 23 | 島根日日新聞 | 冬眠 | 安 藤 誠 也 |
| | 23 | 山陰中央新報 | 北十字 | 竹 内 幹 藏 |
| 1 | 13 | 島根日日新聞 | 2回の月食 | 太 田 哲 朗 |
| | 13 | 山陰中央新報 | おうし座 | 竹 内 幹 藏 |
| | 17 | 讀賣新聞 | 冬の落ち葉には | 星野由美子 |
| | 27 | 島根日日新聞 | あなたは誰？ | 星野由美子 |
| | 27 | 山陰中央新報 | 節分 | 竹 内 幹 藏 |
| 2 | 10 | 島根日日新聞 | 博物館のとっておき | 井 上 雅 仁 |
| | 10 | 山陰中央新報 | オリオン大星雲 | 竹 内 幹 藏 |
| | 14 | 讀賣新聞 | 光学現象眺めてみれば | 矢 田 猛 士 |
| | 24 | 山陰中央新報 | すばると惑星の接近 | 竹 内 幹 藏 |
| | 24 | 島根日日新聞 | 超新星爆発の名残り おうし座の「かに星雲」 | 矢 田 猛 士 |
| 3 | 10 | 島根日日新聞 | 生物で環境を知る | 皆 木 宏 明 |
| | 10 | 山陰中央新報 | 北斗七星の見え方 | 竹 内 幹 藏 |
| | 14 | 讀賣新聞 | 春の森　歩いていると | 皆 木 宏 明 |
| | 24 | 島根日日新聞 | コウモリ類の音声 | 安 藤 誠 也 |
| | 24 | 山陰中央新報 | 星を見る場所探し | 竹 内 幹 藏 |

□予約天体観察会実施状況（Ⅱ－(8)予約天体観察会(p.15)関係）

| 月 | 日 | 団　　体　　名 | 人　数 |
|---|---|---|---|
| 7 | 26 | 杵築二十二日会 | 15 |
| 8 | 5 | 株式会社AUDAX | 26 |
| | 20 | 島根県立わかたけ学園 | 6 |
| | 26 | 広島市立古田台小学校 | 34 |
| 9 | 24 | スマイルキャンプ | 28 |
| 10 | 7 | 庄原市立山内小学校 | 18 |
| | 8 | 安来市立荒島小学校 | 39 |
| | 15 | 大田2班4校連合小学校 | 55 |
| | 16 | 奥出雲町立鳥上小学校 | 14 |
| | | 奥出雲町立八川小学校 | 13 |
| | 21 | 広島市立志屋小学校･井原小学校 | 18 |
| | 22 | 奥出雲町立三成小学校 | 22 |
| | 29 | 松江市立意東小学校 | 29 |
| | | 奥出雲町立亀嵩小学校 | 8 |
| 11 | 11 | 奥出雲町立馬木小学校 | 12 |
| | 12 | 松江市立忌部小学校 | 31 |
| | 25 | 松江市立美保関小学校 | 30 |
| | 26 | 広瀬町3校連合修学旅行団 | 19 |
| 2 | 19 | 安田女子短期大学 | 60 |
| 合　計 | | 19件 | 477 |

□予約自然観察会実施状況（Ⅱ－(9)予約自然観察会(p.15)関係）

| 月 | 日 | 団　　体　　名 | 人　数 |
|---|---|---|---|
| 6 | 18 | 大田市立池田小学校 | 9 |
| | 18 | 大田市立池田小学校 | 13 |
| 7 | 17 | 大田市立静間小学校 | 17 |
| 8 | 6 | いそたけ児童クラブ | 28 |
| | 7 | ハマナス保育園 | 22 |
| | 17 | 大田わんぱく児童クラブ | 34 |
| 9 | 12 | ガールスカウト島根県第３団 | 13 |
| | 17 | 美郷町立邑智中学校 | 39 |
| | 18 | 川本町立川本小学校 | 45 |
| | 18 | 邑南町立矢上小学校 | 75 |
| | 24 | 出雲市立大社小学校 | 52 |
| | 24 | 出雲市立多伎小学校 | 53 |
| 10 | 5 | 大田市立大田小学校 | 30 |
| | 5 | 美郷町立大和小学校 | 15 |
| | 7 | 大田市立大田小学校 | 28 |
| | 9 | 江津市立江津東小学校 | 33 |
| | 9 | 大田市立大田小学校 | 26 |
| | 12 | 大田市立大森小学校 | 6 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10 | 12 | 大田市立志学小学校 | 7 |
| | 14 | 美郷町立邑智小学校 | 52 |
| | 14 | 大田市立長久小学校 | 36 |
| | 16 | サンチャイルドさわらび園 | 57 |
| | 16 | 美郷町立大和小学校 | 26 |
| | 17 | 荘原コミュニティセンターやまももの会 | 41 |
| | 19 | 大田市立北三瓶小学校 | 5 |
| | 21 | 池田まちづくりセンター | 15 |
| | 30 | 奥出雲町立横田小学校 | 66 |
| | 30 | 邑南町立石見東小学校 | 40 |
| 11 | 5 | 出雲市環境保全連合会伊波野支部 | 21 |
| | 6 | サンチャイルドさわらび園 | 60 |
| | 6 | 大田市立静間小学校 | 22 |
| | 16 | かわい児童クラブ | 16 |
| | 19 | 大田市立池田小学校 | 11 |
| | 20 | 島根県立養護学校中学部 | 6 |
| 3 | 19 | 大田市立大田西中学校 | 44 |
| | 25 | 日御碕コミュニティセンター | 23 |
| 合　計 | | 36件 | 1,086 |

□講師派遣実施状況（Ⅱ－(10)講師派遣(p.15)関係）

| 月 | 日 | 団　体　名 | 場　所 | 内　容 | 講師 | 人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 20 | 雲南市立西小学校 | 雲南市立西小学校 | コウノトリに関する学習 | 星野 | 75 |
| | 25 | 雲南市立西小学校 | 雲南市立西小学校 | コウノトリに関する学習 | 星野 | 71 |
| 7 | 13 | 大田市立高山小学校 | 大田市立高山小学校 | ミヤコアオイ・イズモコバイモの学習 | 井上 | 31 |
| | 16 | 出雲国ジオガイドの会 | 松江ビジターセンター | 島根半島・宍道湖中海ジオパークの植物の講話 | 井上 | 20 |
| | 30 | 大田市立第三中学校 | 大田市立第三中学校他 | 石見銀山と地域の伝統産業との関係 | 遠藤 | 23 |
| | 26 | 浜田市立杵束公民館 | 浜田市立杵束公民館 | ササユリ学習会での講話 | 井上 | 10 |
| 9 | 6 | 谷自治振興会 | 谷笑楽校・交流ホール | 野鳥の生態や観察に関する講話 | 星野 | 15 |
| | 27 | 出雲市立環境保全連合会出雲支部 | 出西ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ | 水鳥の魅力についての講話 | 星野 | 40 |
| | 29 | 大田市立北三瓶小学校 | 国立三瓶青少年交流の家 | 天体観察会での講話 | 竹内 | 16 |
| | 29 | 大田市立仁摩学校 | 大田市立仁摩小学校 | 月や星の見え方の学習 | 矢田 | 21 |
| 10 | 4 | 国立三瓶青少年交流の家 | 三瓶自然館 | 動物についての解説 | 安藤 | 40 |
| | 12 | 大田市 | 三瓶小豆原埋没林公園他 | 日本遺産に関する研修 | 中村 | 15 |
| | 18 | 石西の歴史と考古を語る会 | グラントワ小ホール | 日本遺産シンポジウムパネラー | 中村 | 80 |
| | 19 | 大田市 | 三瓶小豆原埋没林公園他 | 日本遺産に関する研修 | 中村 | 15 |
| | 23 | 一般社団法人島根県造園協会 | 宍道ふるさと森林公園 | 樹木の検索入門講座 | 井上 | 15 |
| | 23 | 島根大学 | 島根大学(松江) | 「地域博物館へのいざない」講義 | 中村 | 100 |
| | 27 | 大田市 | 石見銀山遺跡地内他 | 日本遺産に関する研修 | 中村 | 15 |
| 11 | 2 | 大田市議会 | 三瓶小豆原埋没林公園他 | 日本遺産に関する視察 | 中村 | 6 |
| | 4 | 大田市 | 三瓶小豆原埋没林公園他 | 日本遺産に関する研修 | 中村 | 15 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 5 | 島根県立大学 | 島根県立大学松江キャンパス | 「しまね文化論」講義 | 中村 | 80 |
| | 14 | 国立三瓶青少年交流の家 | 国立三瓶青少年交流の家 | 天体観察会での講話 | 矢田 | 50 |
| | 14 | 島根わくわくサイエンスクラブ | 松江城城山公園 | 植物観察での解説 | 井上 | 23 |
| | 17 | 大田市 | 石見銀山遺跡地内他 | 日本遺産に関する研修 | 中村 | 17 |
| | 20 | 大田市立久手小学校 | 静間川流域 | 静間川でのフィールドワーク | 中村 | 35 |
| | 21 | 荒神谷博物館 | 荒神谷博物館 | 三瓶山と出雲平野に関する講話 | 中村 | 50 |
| 1 | 20 | 大田市立仁摩小学校 | 三瓶自然館(ｵﾝﾗｲﾝ対応) | 理科授業「冬の星」での講話 | 矢田 | 30 |
| | 27 | 大田市立仁摩小学校 | 大田市立仁摩小学校 | 理科授業「冬の星」での講話 | 矢田 | 21 |
| | 29 | 島根県立仁摩高等学校 | 島根県立仁摩高等学校 | 天体及びほ乳類に関する講話 | 太田<br>安藤 | 180 |
| | 30 | 国立三瓶青少年交流の家 | 国立三瓶青少年交流の家周辺 | 冬の自然観察での指導 | 安藤 | 20 |
| 2 | 12 | 大田市立志学中学校 | 池田ラジウム鉱泉 | 放射線学習での指導 | 矢田 | 12 |
| | 19 | 大田市立仁摩小学校 | 大田市立仁摩小学校 | 星座観察会での講話 | 矢田 | 35 |
| | 23 | 益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会 | 益田市保健センター | 歴史を活かしたまちづくりシンポジウムのコーディネーター | 中村 | 50 |
| 3 | 1 | 大田市日本遺産推進協議会 | 池田まちづくりセンター | 日本遺産勉強会での講座 | 中村 | 25 |
| | 9 | 島根県高教連理数科教育研究会 | 島根県立浜田高等学校 | 課題研究発表大会の審査員長 | 龍 | 100 |
| | 10 | 大田市日本遺産推進協議会 | 仁摩サンドミュージアム | 日本遺産勉強会での講座 | 中村 | 13 |
| | 11 | 大田市日本遺産推進協議会 | 三瓶小豆原埋没林公園 | 日本遺産勉強会での講座 | 中村 | 20 |
| | 20 | 仁摩ブロックまちづくり委員会 | 仁万まちづくりｾﾝﾀｰ | 日本遺産勉強会での講座 | 中村 | 10 |
| | 21 | NPO法人風の子たき | 風の子楽習館 | バードウオッチングの指導 | 星野 | 12 |
| | 30 | 大田市日本遺産推進協議会 | 石見銀山世界遺産ｾﾝﾀｰ | 日本遺産勉強会での講座 | 中村 | 15 |
| 合　計 | | 39件 | | | 1.421 | |

## □講師派遣実施状況(環境保全活動事業)(Ⅲ-(9)講師派遣(p.52)関係)

| 月 | 日 | 事　業　名 | 場　所 | 内　容 | 講師 | 人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 1 | 地球温暖化対策に関する大田市職員研修 | 大田市役所(大田市) | 地域におけるエネルギー自立と持続可能な地域づくりについて | 葭矢 | 110 |
| | 6 | 島根県連合婦人会研修 | 島根県婦人会館(松江市) | SDGs(持続可能な開発目標)について | 〃 | 15 |
| 11 | 9 | ACAセミナー「SDGsをテーマとした講演とパネルディスカッション」 | 出雲市役所(出雲市) | 消費者の視点でSDGsを捉えた講演会 | 〃 | 50 |
| 1 | 15 | 浜田市弥栄地域婦人会研修 | 弥栄会館(浜田市) | SDGs(持続可能な開発目標)について | 〃 | 30 |
| | 30 | 中小企業社内研修 | いわみーる(浜田市) | SDGs(持続可能な開発目標)について | 〃 | 15 |
| 3 | 27 | 出雲市連合婦人会研修 | 出雲市民会館(出雲市) | SDGs(持続可能な開発目標)について | 〃 | 50 |
| 合　計 | | 6件 | | | 270 | |

## ５．評議員会･理事会等

### (1)評議員会

**①第14回評議員会(令和2年度定時評議員会)**

・開 催 日：令和2年6月11日(木)
・開催場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム
・出 席 数：評議員6名、監事2名
・議　　題：報告事項　事業概況について
　　第1号議案　辞任に伴う評議員選任の件
　　第2号議案　令和元年度事業報告及び決算報告の件
・結　　果：全号とも原案どおり承認

### (2)理 事 会

**①第25回理事会(令和2年度第1回定時理事会)**

・開 催 日：令和2年5月28日(木)
・開催場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム
・出 席 数：理事4名、監事2名
・議　　題：報告事項　理事長及び常務理事の職務執行状況
　　第1号議案　令和元年度事業報告及び決算報告の件
　　第2号議案　第14回評議員会招集の件
　　第3号議案　辞任に伴う三瓶自然館運営委員選任の件
・結　　果：全号とも原案どおり承認

**②第26回理事会(令和2年度第2回定時理事会)**

・開 催 日：令和3年3月25日(木)
・開催場所：島根県立三瓶自然館 レクチャールーム
・出 席 数：理事5名、監事2名
・議　　題：報告事項　理事長及び常務理事の職務執行状況
　　第1号議案　令和2年度予算補正の件
　　第2号議案　令和3年度事業計画及び予算の件
・結　　果：原案どおり承認

### (3)三瓶自然館運営委員会

本委員会は、島根県立三瓶自然館及びその附属施設を運営するにあたり、島根県の自然系博物館としてのあり方や、広く県民に親しまれ利用される方策について協議するための、外部委員による会である。

**①第10回運営委員会**

・開 催 日：令和2年11月20日(金)
・開催場所：島根県立三瓶自然館
・出 席 数：運営委員及び財団事務局、島根県自然環境課　計24名
・概　　要：令和元年度に更新された本館1,2階の常設展示室を視察し、その利活用等について質疑や提案があった。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に対する取り組みや事業の実施状況など、報告事項を踏まえた意見交換も行われた。

## ６．新型コロナウイルス感染症への対応等

本年度は新型コロナウイルス(covid-19)感染症への対応として、感染拡大防止の取り組みを各種行いながら運営にあたった。

### ①臨時休業等

・三瓶自然館

当初、4月16日(木)から再開館(令和元年11月から展示改修休館)の予定であったが、島根県からの指示に基づいて5月31日(日)まで休業。これに伴い、再開館と同時に開始予定だった春期企画展などの事業は、6月1日以降の開始となった。

また、4～10月の土曜日に予定していた18:00までの開館延長を中止。

・三瓶小豆原埋没林公園

4月11日(月)から5月31日(日)まで休業。

・北の原キャンプ場

4月18日(月)から5月31日(日)まで休業。

### ②対応状況一覧　(3月25日時点、対応が終了したものは※印を付記)

| 項　目 | | 対応状況 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 共通 | 利用者へのお願い | ・連絡先カードへの記入<br>・マスク着用<br>・手指消毒<br>※中国5県の県民限定 | →保存期間2ヶ月、保存期間終了分はシュレッダー処理<br>→手指用の消毒液配置(自×15、埋×1、キャ×1)は職員で補充<br>→6/1から6/18まで |
| | 職員の対応 | ・各設備を定期的に消毒、換気<br>・職員は出勤前に体温測定<br>・マスク着用<br>・PCR受検の場合の報告義務<br>・出張については必要性等の精査 | →平日2回(14:00、閉館後)、日祝日3回(+11:00)のほか繁忙時は臨機に実施。埋没林は保存管理の観点から2回(13:30、16:30)としている<br>→37.5度以上の場合は出勤しない<br>→接客業務に携わる者にはマスク支給<br>→報告があった場合は直ちに県へも通報<br>→行き先、緊急度、必要性等を考慮 |
| 三瓶自然館 | 開館延長 | ・消毒対応の間は延長しない | |
| | 展示 | ・本館2F展示室で入場制限(混雑時)<br>・展示物接触禁止 | |
| | 企画展期間 | ※春：6/ 1(月)～6/28(日)(短縮27日)<br>※夏：7/23(木)～9/27(日)(短縮 5日)<br>※秋：10/31(土)～11/29(日)<br>※冬：12/19(土)～ 1/24(日) | →当初計画：4/16～6/14<br>→当初計画：7/18～9/27<br>→期間展示(通常期料金)として「寄生虫の世界」を実施<br>→変更なし |
| | ビジュアルドーム | ・プラネタリウム：7/9から部分再開<br>・ドーム映画：中止<br>※夏の特別投影：中止 | →当初は日祝除く1日2回、上限60名<br>10/4からすべての開館日1日3回(上限60名)に変更<br>(学校団体の場合は1回上限90名)<br>→当初計画では「ちびまる子ちゃん」 |
| | 天体観察会 | ・定期：10/10から1回上限30名の予約制で再開。<br>・予約：水～金・日曜で受入、上限30名<br>※特別：夏休み 中止<br>シルバーウィーク… … 中止 | →従来は予約不要で1回定員100名<br>予約は利用の前月から受付(現状電話対応)<br>→従来定員は100名、受入曜日は変更なし<br>(学校団体の場合は1日3回、1回上限60名まで可)<br>→当初計画：夏休み 8/12～8/15<br>シルバーウィーク 9/19～9/21 |
| | 自然観察会 | 定期：計画どおり(要マスク)<br>・予約：計画どおり(要マスク) | →毎週土曜、1日1回、1回あたり30分<br>→要望に応ず |
| | イベント | ・順次再開(受入人数の縮小など相応の対応のうえ)<br>中止イベントは③のとおり | →テンピー着ぐるみ等は現在も中止(利用者と接触があるもの) |

| | | |
|---|---|---|
| 埋没林公園 | ・展示案内は中止 | →ただし教育活動による要請は受付(要相談)<br>大口団体利用の際は、一般利用者を制限する場合あり |
| キャンプ場 | ・利用上の制限なし<br>・全施設を予約制に移行<br>・ケビン・バンガローは隔日利用<br>・アスレチックは使用中止<br>・キャンプサイト利用は施設数の1/2まで | →予防対策は継続(宿泊キャンペーン条件)<br>→R3での移行を前倒し<br>→7/23解除<br>→8/1解除<br>→10/1解除 |
| 松江事務所 | ・対面相談：原則中止<br>・窓口業務：要事前アポ<br>・主催イベ：順次再開<br>※その他：自家用車出勤の変更を承認 | →TEL、FAX、Mailで対応<br>〃<br><br>→11月末で措置終了 |

### ③感染症対策で中止したイベント等

・三瓶自然館

| | |
|---|---|
| ゴールデンウィーク天体観察会 | 予定日：5月3日(日)～5日(火) |
| バードウォッチング講座 | 予定日：5月10日(日) |
| 春の男三瓶に登ろう | 予定日：5月16日(土) |
| サヒメル科学探険隊(第1回) | 予定日：5月24日(日) |
| 親子で作ろう工作教室 | 予定日：5月24日(日)、8月8日(土)<br>8月16日(日) |
| 夏休み天体観察会 | 予定日：8月12日(水)～14日(金) |
| シルバーウィーク天体観察会 | 予定日：9月20日(日)，21日(月) |
| きっずサンデー☆スペシャル | 予定日：10月18日(日) |
| きっずプラネタリウム | 予定日：毎月第3日曜日 |
| 定期天体観察会 | 予定日：6月6日(土)～10月3日(土) |

・三瓶小豆原埋没林公園

| | |
|---|---|
| ミニ写真展～火山からの贈り物～ | 予定日：4月16日(木)～6月28日(日) |
| 月イチガク「大森町で石を見る」 | 予定日：4月11日(土) |
| 月イチガク「先端技術で年輪を読む」 | 予定日：5月17日(日) |
| 蛍のゆうべ | 予定日：6月20日(土) |

・北の原キャンプ場

| | |
|---|---|
| 三瓶山アウトドアツアー | 予定日：5月23日(土)～24日(日) |
| キャンプシネマSANBE | 予定日：7月11日(土) |
| 石窯ピザ作り体験 | 予定日：9月9日(水) |

公益財団法人しまね自然と環境財団
Shimane Nature and Environment Foundation